

「図書のまち阿南」構想に関する意見(受付期間:10月1日～11月30日、広報あなん・HPで周知)					【※受付番号 電－〇については電子申請によるもの】		
No.	受付日	受付番号	地区	年齢	ご意見・ご提言		
					「図書のまち阿南」構想について	那賀川・羽ノ浦図書館の今後のあり方について	その他
1	R7.9.27	電-1	那賀川	70代以上	図書のまち阿南の構想は、既存の那賀川図書館、羽ノ浦図書館、新設の阿南図書館の三館を軸にしたものにして下さい。新設の図書館と既設の図書館との間に差別化を持ち込まず、三館は対等平等の扱いにして下さい。そのためにも、新設図書館の名称は、阿南中央図書館とせず、阿南図書館として下さい。	那賀川図書館にある広い庭園を有効活用して下さい。例えば、園内に幼児が遊ぶ、遊べる噴水を新設するとか、幼児用のプールとか、ウォータースライダー、日陰の休憩所を設置し、例年の猛暑を親子で楽しく乗りきれする工夫をして、クレーの効いた園内の幼児用の図書コーナーと結びつけて、子育てのしやすい阿南を作して下さい。	
2	R7.9.27	電-2	羽ノ浦	50代	ペーパーレス化が進む昨今、本がデジタル化になり紙の本で読む時代は終わると思う。本屋も減少し、教科書もタブレットが当たり前になる。そんな時代になっていくのにはたして大きな箱の図書館は必要なのだろうか？市民の憩いの場は必要だがそれは図書館でなくても良いと思う。3館を集約せず、新図書館が必要ならこじんまりとしたサイズでよいのではないかと思います。	現状のままでよいです。	
3	R7.10.1	1	不明	不明			高知県の梶原町にある「雲の上の図書館」とかは参考になるかもです。
4	R7.10.2	2	那賀川	40代	今ある三図書館の連携はとても合理的かつ機能的で大変素晴らしい。それをさらに発展させ、利便性の向上、機能面での向上を計画するのは市民のために有意義なことである。図書館は、税金の使途として、もっとも有意義な一つである。それは図書館の利用率は他の施設と比較しても突出的に高いからだ。また、人を育てるのに最も効率がよいものである。無駄を省き、維持費を最小限に留め、惜しみなく税金を投入すべき	両図書館を閉館させるという愚かな事を耳にした。既存の施設は市町村合併以前からのものであり、両地域にとって必要不可欠のものである。将来的な維持費を鑑みてのことであろうが、それをするのであれば、那賀川では科学センターと民俗資料館の統合であろう。他の施設をすべて取り壊しても図書館は残すべきである。	構想資料の中で、自習スペースの進化とインドアパークの記事が目に残った。大いに進化させ導入してもらいたい。特に、自習室は十分な席数を確保してかつ、暗記部屋(声を出してもいい部屋)も取り入れてもいいと思う。
5	R7.10.2	電-3	羽ノ浦	30代	私は子どもが伸び伸びと知識を吸収し、知見を広め、やがて勉学に励み、県内外に進学、あるいは仕事に出ても戻ってきたいと思えるような場所に、成人してもさらなる学習の機会が与えられるような場所にしていきたいです。また高齢者の認知低下の予防にも繋げていただきたいです。 1. 新図書館はカフェを入れるそうですが、利用できるのは都度、お金を支払うことができる、お金持ちだけに限定されます。子どものお小遣いや母子、あるいは父子家庭、さまざまな障害を持った人々などは成長の機会すら与えられず、格差のみが広がるのが現状です。 そういう人々が学習できる場所も別途設置するという意見も出ることでしょう。ですが、カフェで勉強している人を眺めながら、格差を感じるようになるはず。そのような差を子どもたちに感じさせるのでしょうか。阿南市全体の学力を上げることは、やがて阿南市に還元されます。人口が不足していることを安易に移民に頼るのではなく、まず誰もが集まりたいと思う場所にすることが必要ではないでしょうか。大人がオシャレなカフェで見てくればかりやってもどうにもなりません。他県から見ると切り抜いたワンシーンの写真としてはインパクトが出て、市長や関係者に箔がつくでしょう。そんな一部の大人の都合のいい実績作りではなく、ただただ市民に向き合ってください。 2. 各図書館を移動させ、その上で、カフェではない自習室を提案します。運営においてカフェの収益など微々たるものです。むしろ、本がコーヒーなどで汚れた場合などの修繕費はどうしますか。誰しにも平等な学習機会を与え、市全体の向上を図っていただきたい。図書館に入れる本に参考書などを並べることもひとつの手です。 3. AIが発達している今、その情報は正しいものばかりではありません。インターネットで誰が書いたのかもわからないコンプライアンスや事実欠けた情報が提供される中、かつて出版社が校閲校正した文献があることが重要ではないでしょうか。図書館はインターネットに勝ります。また海外資本の検索エンジンがいつ消えるかわかりません。外資系とはそういうものです。その際に図書館はどれだけ有益なものになるでしょうか。	4. YouTubeやTiktok、LINEなどのショート動画依存や、ドゥームスクローリングの影響などを受けている子どもたちを知っていますか？ただ受動的な生活をしている子たちは、詐欺などに簡単に騙されてしまいます。情報を得るための手段が受動的なものだけになってはいけません。図書館は能動的に知識を得ることができる重要な場所です。情報を取捨選択できるようにするための学習でもあるのです。また児童相談所からの相談で、両親から虐待を受けていたASDの子どもを引き取り、この阿南市内で育てています。最初の1冊を与えたことによって子どもの人生は大きく変わっています。まず子どもが小説を通じて様々な人の立場になって考えるという機会となりました。作家について調べ、国語辞典を引き始めました。図書館や本屋を活用して毎月50冊以上の本を読み始めました。言葉を知り、知識を知り、そして感情表現ができるようになりました。さらには毎月のお小遣いで本を買う楽しみもできました。本を買うためにアルバイトを始めました。読書を通じて友人を作り、近所の人と話ができるようにもなりました。すべては羽ノ浦図書館のおかげです。経済的に買うことが困難な冊数を図書館がカバーしてくださったのです。これからも子どもは羽ノ浦図書館を愛し、活用するでしょう。ですが、富岡町に新しい図書館を築いたところで、富岡町以外の子どもたちが無償で向かうためのバスがあるわけでもタクシーがあるわけでもありません。とくに暑さ寒さが厳しい中、自転車を通うのは大変です。精神的、身体的な障害を抱える子どもたちもいるでしょう。本案件を進める人々が他の町に移動するのは簡単でしょう。そして、近年の発達障害が増える中で、その子どもたちが町の外に出ることにすら苦痛を伴うことを知らないでしょう。図書館の存続のお金がかかるのはわかります。ですが、オシャレな図書館とカフェに惑わされていませんか？簡単に名前を残し、功績を残すことができると考えていませんか？本当の財産は人間です。阿南市に住む、すべての人々です。知識はけっして裏切りません。特定の人々の名誉のためだけに華々しいことをしようというアプローチがおかしいです。 5. コンパクトシティにすることを目的としているとして、なぜすでに発展している場所を寂れさせるようなことをしているのでしょうか？羽ノ浦町からは平恕がなくなりました。その上で羽ノ浦図書館をなくして「図書のまちあなん」というのはいかがなものでしょうか。小松島や徳島へのアクセスの中継地点である那賀川と羽ノ浦から人をなくすつもりでしょうか？阿南市＝富岡町ではありません。またインターネットなどで挙げていらっしゃる方もいますが、羽ノ浦図書館や那賀川図書館に出るほうが富岡町に近い地域のほうが多いのです。その事実を無視して、羽ノ浦図書館と那賀川図書館を潰しますか？	6. 国際図書館連盟(IFLA)のガイドラインでは、図書館サービスが認知症の人にとって「記憶を刺激する手助けになる」と明記されています。高齢社会になる中で、少しでも医療負担を減らすためには、結果として図書館を各地点に存続させるほうがよいです。また認知症に関する知識と態度の関連性として、筑波大学で2023年に実施された調査にて、図書館で認知症に関する情報を得た人は、認知症に対してより包摂的で肯定的な態度を持つ傾向があることが示されています。つまり、図書館は「正しい知識を得る場」として、偏見の軽減や理解促進に貢献しているともいえます。慶應義塾大学による高齢者サービス研究の変遷として、図書館が高齢者の「認知機能維持」だけでなく、「社会参加の場」として機能していることが、政策文書や老年学の研究成果と結びつけて分析されています。図書館の維持費のために医療費の負担が増えるのでは本末転倒です。もっと多角的な視野を持って市民が納得できる調査報告を出してほしいです。 7. そもそも羽ノ浦町に合併前から立っていた図書館をなくさないでください。市長は羽ノ浦町出身で、年齢的にも、恩恵を受けてきたはず。自分の学生時代で十分堪能したから、次は新しい図書館を……みたいなのはやめてください。読書テラスなんていう言葉で機能を少しずつ縮小するごまかしもです。 以上、今回の「図書のまち阿南」構想の見切り発車には近隣住民からも不満の声しか聞いておりません。誰も賛同していません。このご意見が消されないよう、市議会議員の方にもお送りしています。ぜひ一度、本当の意味での「図書のまち阿南」に取り組んでください。
6	R7.10.2	電-4	羽ノ浦	18歳未満	JR阿南駅～羽ノ浦駅の普通列車の片道運賃は280円です。往復560円。市長にとっては端金かもしれませんが、子どもにとっては大金です。全国平均のお小遣いを知っていますか？中学生～高校生は3000円～5000円です。阿南市は地方なのでもっと少ないかもしれません。お小遣いを全額使ってもたった8回しか乗れず、また親が別途負担するとしても大きな金額です。本当に本が好きな子どものことを考えていません。物価高ですます乗車賃が上がる可能性がある中で気軽に公共の交通機関は安いと思わないでください。車通勤している人間が考えるほど安くありません。		
7	R7.10.3	3	長生	50代	図書館は「知育」の場、「コミュニティ」の場であってほしい。 ①高校生などが受験勉強できるスペース ②静かなスペースと議論できるスペース(にぎやかなスペース)があったらどうか？	阿南を「野球の街」、「教育の街」にアピールしたらどうか ①図書をおく ②お子様の遊び場 両親と子供が遊べる場にしてはどうか？ 読書会、リトミックなど	本屋さんにない雑誌を置いてほしい ①建通新聞、日刊工業新聞など ②ハンドボールマガジン(月刊) ③日経ビジネス
8	R7.10.3	4	那賀川	70代以上		那賀川町住民にとっては(特に高齢者)読書の楽しみは何ものにも替えがたい。規模の縮小等はやむを得ないかも知れないが、貸出業務の廃止とならないような配慮をお願いしたい。	
9	R7.10.3	5	富岡	70代以上	駅前の場所として阿南市の人が集まり易いアカデミックなイメージで良いと思います。	市or民間の管理費を負担できる程度の営業をやりながら図書、学習、各種イベント会場、防災用の避難場所としてのスペースとして活用	

10	R7.10.3	電-5	那賀川	70代以上	「図書のまち阿南」をうたうなら、現行の三館ある図書館を一館に減らすというのは、逆こうです。他の二館を「テラス」なんていうカタカナ表記に変えるということは、既存の二館の図書館を潰すということで、それを進化というのは、ごまかしであり、市民の期待を欺くものです。社会教育法や図書館法に明記されている図書館という表記を残し、司書を配置して、三館を阿南市営の公立図書館として、残して下さい。将来の人口減少を考えているなら、新しく建てる図書館こそを身の丈に合わせた他の二館と同等規模の図書館とすべきです。1ヵ所に統合するより、三館に分散させる方が、どれだけ市民に便利かを考えて下さい。	両館とも、現行規模の、司書のいる公立図書館として存続させて下さい。そして、図書館を中核としたマチづくりを考えて下さい。例えば、那賀川図書館の庭を活用した、幼児が楽しく遊べる噴水やプール等を新設して、毎年夏の猛暑も乗りきれる子育てのしやすいマチにして、人口増加にも貢献できるようにして下さい。高齢者にとっても、近くに冷房の効いた図書館があることによって、夏も過ごしやすいマチになります。	
11	R7.10.4	電-6	市外	30代	「図書のまち阿南」 とのことですが、既存3館のうち2館を廃止(閲覧貸出不可なら廃止も同然だと思います)とは、スローガンに逆行していませんか？ 高齢化進む阿南市で本当に「図書のまち阿南」を実現したいのなら各所に図書館を残し、弱者にも文化的設備を利用できる環境とするべきではないでしょうか。 また放課後や夏休みなどは中学生高校生も多く訪れ自主学習している現状から、中高生の学習環境も奪う結果となります。(スペースがあればよいという訳ではなく調べ物をする為、図書閲覧も必要)	現状維持を強く希望します。 両館ともに魅力ある県内でも誇れる設備です。 今年の猛暑で多くの方が日中図書館で読書と熱中症予防を両立でき、図書館の恩恵を再確認されたと思います。 その観点からも那賀川図書館、羽ノ浦図書館の現状維持出来るよう阿南市長、議員の方のお力に期待しています。	
12	R7.10.4	電-7	中野島	60代	1.羽ノ浦と那賀川の図書館は今のままで使えるように残してもらいたい。 2.読書テラスとは何かよくわからないので地元で説明会などをしてもらいたい。 3.豪華な図書館などより、羽ノ浦小学校を新築してもらいたい。 4.図書館は町の宝です。大事にしてもらいたい。 5.図書館で働く職員を大切にしてもらいたい。 以上よろしくをお願いします。	1.今まで通りに使えるように存続させてもらいたい。 2.適切な人数の図書館司書がいて書籍などの貸し出しや返却ができる様にしてもらいたい。 3.補修などが必要なら早め早めの対応をお願いしたい。 4.那賀川図書館の庭は素晴らしいので将来も今の姿で維持管理してもらいたい。	1.阿南市全体の公共施設を見ると、富岡地区に図書館が無い事は大変残念で早くそれなりの図書館があるべきだと思いますが、羽ノ浦小学校の窮状は大問題です。図書館よりも優先させて新小学校の整備を具体的に進めるべきではないかと思います。 2.阿南市は国の補助金等を利用したい方針だと思いますが、課される制約をクリアする為の職員の皆さんの負担は大きく、かつ旧施設への負の影響が長く続く可能性が高いと思います。図書館としてのあり方の原点に立った判断が必要であり、旧阿南図書館並みの規模を基本にして、災害時に使える機能(自家用発電機の設置、井戸と浄水器の設置、非常用トイレの設置など)を備えて日常的にも使用するような整備が良いのではないのでしょうか。 阿南中央図書館の再考を強く訴えてます。 よろしくお願い致します。
13	R7.10.4	電-8	那賀川	70代以上	「テラス」という言葉がお好きで、「図書のまち阿南」構想に使いたいなら、新設する図書館に、阿南図書テラスという名称を使ったらどうでしょうか？テラスという名称なら、国の補助金を使わなくてすむし、独自予算で自由に建設でくるのではないのでしょうか？喫茶店や書店も併設できるし、運営を民間に委託することもできます。現在、市役所内に設置している図書館機能も、阿南市役所図書テラスとして残し、発展させることもできます。こうすれば、無理に羽ノ浦、那賀川両図書館を潰すこともありませんから、すべての市民の要望にかなった、「図書のまち阿南」構想が実現するのではないのでしょうか？ ぜひ、ご一考下さい。		
14	R7.10.5	電-9	富岡	30代	阿南市の将来を見据えた未来志向の構想であり、持続可能で豊かな学びができる阿南の実現に向け、是非ともこの構想を推進していただきたい。	両館ともに今のままの「存続」は、実質的な退化であり、将来世代にとってはマイナスの影響が大きい。 是非、両館の進化と、市全体における「図書のまち」構想の推進を一体的に捉えて議論してほしい。 その際、市の財政負担の可能な限りの軽減は、大前提の条件としてほしい。 財源論を棚に上げての、両館存続議論は、無意味であり、将来世代に禍根を残す。	市教育委員会には、市民への丁寧な説明とともに、適時適切な英断を行うことを強く望みたい。
15	R7.10.6	電-10	中野島	60代	図書館の司書がいらない、読書テラスは実質図書館の廃止です、という意見を見ましたが、今現在の司書さんだって何もしてないですよ、貸し出し業務を淡々と、無愛想にこなしている、相談できるような雰囲気じゃないですよ。貸し出し専任事務員の状態じゃないのでしょうか？ パソコンが使える人なら誰でも出来ると思う。	図書館の建物は残して欲しい。蔵書もたくさん置いて欲しい。 自宅から歩いていける距離に図書館が欲しい もっと楽しい優しい雰囲気の図書館にして欲しい。	
16	R7.10.6	電-11	中野島	60代	一部エリアの強い声に屈することなく、市として、市全域のこと、また市としての持続可能性を確保することを重視しながら、この構想を推進していただきたい。 その際、市の財政的負担を極力抑えてほしい。	これまで両館を使ったことのない市民や、これからのDX時代を生き抜く若者世代の意見をよく聞き、今後のあり方に反映してほしい。 存続か進化かの二者択一ではなく、皆が知恵を出し合って、ハイブリッドで低コストな新空間を目指してほしい。	
17	R7.10.6	電-12	中野島	60代			阿南第一中学校の生徒さんが部活動の練習終了後に、日没後、暗くなる頃に自転車で文化橋北側の市道を横見小学校方面へ沢山、帰宅しているのですが、街路灯が少なくとても危険だと思います。街路灯の増設や新設を早く行ってあげて下さい。
18	R7.10.6	電-13	那賀川	50代	新しい図書館を作るのも良いと思います。ですが、那賀川図書館は存続して欲しいです。沢山の図書館がある「図書のまち阿南」として読書や教育に力を入れている都市として発展して欲しいです。	那賀川図書館の存続を希望します。子供から大人まで沢山の市民が利用しています。本の貸し出し数、那賀川図書館利用者数、市民の希望をきちんと調査してから判断して欲しいです。那賀川にはほとんど娯楽施設はありません、その中で地域の人が集まる貴重な施設であり、1番税金を使うべきところだと思います。是非存続をお願いします。	
19	R7.10.7	電-14	長生	50代	阿南市中央図書館(仮称)が完成したら羽ノ浦、那賀川図書館は縮小し、「図書のまち阿南」構想を速やかに実施して欲しい 国からの補助金27億をせっかくあるのに使わずに3館も運営するのに疑問がある。利用者の少ない図書館に何故、無意味なランニングコストをかけ市民に負担をさせるのか？ 阿南市の隅々まで本を手に取り読むことが出来る環境で各地域の希薄になったコミュニティ作りも出来るのではないのか？いつ大災害が起こるかわからない状況下で少しでも市民が集まる場所作り、コミュニティ作りが必要だと思う。その事も踏まえて考えて欲しい		

20	R7.10.7	電-15	富岡	30代	今は子どもが本を手に取り読むことよりもスマホやタブレットで動画を見る事が主流。この本が読みたいとなれば配信するサービスや読みたい本をチョイスして近くに配達するシステムを導入して欲しい	図書館としての機能は全く必要ありません。子育て広場や、学童保育、などのスペースを作って欲しい。 読書コーナー程度と学習スペースがあればいい。那賀川図書館については広い庭があり子ども向けのイベントやアニメイベントをして欲しい	新しい機能を持つと言う事に重視するならいっそ学習館としたり、子ども館としての専門館を作って欲しい。図書館はいらない
21	R7.10.7	電-16	富岡	30代	今の子ども達は本を手に取り読むことよりも、スマホやタブレットで動画などを見る人が多いです。 絵本も保育園からの支給で読んだりはしますが、騒がしくする子どもを静かにしないといけない図書館に連れていくことは難しいです。 できれば宅配システムや配信システムを導入してほしい	何個も図書館はいらないです。 それでしたら子どもの遊べる場所が欲しい。 今年の夏はすごく暑く、滑り台やブランコがしたくても熱中症や火傷の危険がありできませんでした。 なので、室内で遊べる空間や子育て世代の交流の場にするのがいいと思う。	今は図書館より子どもの遊べる空間を優先してほしい。 小さい子どもでは静かにしないといけない空間は難しいです。 今は室内で遊ぶ場所が阿南にないので、わざわざ市内まで行っています。 せっかく子育ての支援が多い阿南なのに、勿体無いです。 もっと遊べる所を作ってください。 入場料？がかかってもみんないくと思います。
22	R7.10.7	電-17	羽ノ浦	40代	すごく良いと思います。 出生率の低さを踏まえると、10年先、20年先を見据えた政策にすべきなので、3つの施設はそれぞれ特徴のある施設で良いと思います。図書館を3つとも残すということは未来の阿南市民への負担を大きくしてしまいます。 また、図書館のまま残す場合のランニングコストにも留意し、費用対効果がしっかりと得られるようにして欲しいです。 現在の図書館利用者を見ると決して多くない。私は図書館という場所が嫌いだ。息が詰まるから。本が嫌いなわけじゃないのに…そんな人の居場所は図書テラスかもしれません。 自信を持って進めて欲しいです。 でも正直、岩佐市長が前面に立ち、図書テラスのメリットをガンガンと示して欲しい。反対意見を聞くような内容じゃないと思っています。この時期にヤーヤー言わしてしまうのはトップの責任でもあると思います。頑張ってくれている職員さんが疲弊してしまいますよ。	勉強をする環境も「静かな場所」「ちょっと音がある場所」「賑やかな場所」と人によって、『やりやすい環境』は違います。 図書テラスについても同じで様々なニーズに応えるカタチにして欲しい。 あの息の詰まりそうな雰囲気『図書館』を3つ残すことはニーズを的確に把握しているとは思えない。	関係ないことですが。羽ノ浦小学校と岩脇小学校の建て替えを進めましょうよ。 それこそ「わが町予算」を使って地域討論会をするなど、市長の言っていた公約をしっかりと守って欲しい。 公民館主導のこどもフェスティバルなど何の期待もできません。 市長の良いところが見せれてないと思いますよ。あと2年のうちに職員さんたちとしっかりコミュニケーションをとって、良い方向に進めていってください。お願いします。
23	R7.10.7	電-18	那賀川	60代	eスポーツが出来る施設 将棋や囲碁が楽しめる 屋内遊具の設置 あらゆる年齢の方が楽しめる 施設にしていきたいです	27億の補助金をもらうの必須 市の負担を軽減していただきたい 絵本専門図書コーナー 学習スペースの拡大	
24	R7.10.7	電-19	羽ノ浦	50代	市南部、市西部に図書を置くなど市全体として配慮は必要！蒲生田など赤字施設などの僻地に設置するのではなく、廃校などを今後、施設として課題がある所の利活用して欲しい。また公共施設も同様に生涯学習の観点から公民館を含め、しっかりと対応して欲しい！さらに財政負担を出来る限り軽減するためにも、現在の図書館の蔵書(廃棄しないで)や什器を有効利用することをお願いしたい。科学センターなどはより専門的な大人から子どもまでが読める科学系蔵書や図鑑、絵本などを幅広く設置を 1、廃校などの有効利用 2、貸出システムはアナログで(記帳) 3、各施設に司書は不要 4、科学センターは科学系蔵書を 5、マンガ専門の蔵書施設を 6、絵本や子育て専門の蔵書施設を 7、市の財政負担は極力迎える 8、運営費などの財政措置を 9、阿南の歴史に関する資料蔵書を 10、現状のままの図書館では衰退	羽ノ浦図書館はまずカビ臭い、独特の匂いが館内にします。蔵書も古いものが多い。また近年は図書館複合化しており。今のままでは公共施設として役割を十分に果たせてなく、非効率な運営になります。 そこで図書のまちなる構想に賛同して羽ノ浦図書館は以下のように変化して欲しい 高齢者と若者が集まり交流できる施設、当然、自由に飲食してワイワイ騒げる新しいスタイルの読書が可能な施設が前提。 1、eスポーツの導入(若者、高齢者用含み)、阿南高専とも連携！若者と高齢者の交流と、認知症予防にもなる 2、ホールを改築し、イスの前に机を設置、非稼働時には自習室としてホールを開放、防音設備が万全、照明スタンドを貸出して席で使用、全国初の試み 3、ボードゲームを導入、若者、高齢者に関係なく交流でき楽しめるものに 4、高齢者向けの大きな活字本などを設置する、より安い、読みやすいを 5、トレカを導入に市外からも市内からも若者を集め、交流人口を増やす 6、飲食の販売 7、本、ボードゲーム、トレカ、雑貨などの物販をすることで市の財政負担軽減や蔵書の変わりになる新刊本の立ち読みなども可能になる。雑誌しかり！ 8、財政負担は軽減を(市の持ち出しが少なくなるよう)補助金を有効活用	那賀川図書館について、平屋で庭があり開放的ではあるが古さが目立つ。そこで羽ノ浦も那賀川も新中央図書館と同じような施設では非効率で運営費負担が増えるだけです。これからの世代に利用を促進してもらうために以下のように変化させてみては。基本は子ども向け、ファミリー向けです 1、絵本を1万冊以上の蔵書 2、屋内遊び場を併設 ※ジャクエツやボーネルンドなど 3、子育て支援相談が可能 4、読み聞かせを毎日のように 5、絵本作家のワークショップや講演、知育玩具教室などを開催、 6、庭には遊び機能や噴水など季節ごとに楽しめる、夏は噴水、冬はクリスマスツリーイルミネーションなど 7、自由に飲食可能(飲食販売も) 8、騒いでも、おしゃべりも大歓迎 9、絵本、グッズ、雑貨、知育玩具などの販売を 10、教室の開催など ロボット、英会話、など
25	R7.10.7	電-20	富岡	40代	メイン図書館を1つにし現状でも稼働しているバスでの移動図書館を市民に多く知ってもらい利用してはどうですか？ 現代ではスマホやタブレットの普及により配信型の未来図書館などにしてはどうですか？	羽ノ浦、那賀川については市民の広場などとして月に1回でもイベントなどを開催し、またマルシェなど招き入れて活気のある町作りになどしてはどうですか？	
26	R7.10.7	電-21	不明	不明	記載なし	記載なし	記載なし
27	R7.10.7	電-22	富岡	40代	図書のまち阿南、て、あんまり意味がわからない。 野球のまち阿南は、なんとなくわかるけど。 何かに漕ぎ着けて、お金を使うのは理解できない。 それこそ、今の時代は、ペーパーレスの時代。図書室へ行くのは、本が好きの人だけ。 実際、自分自身、ネットで困らなくなってからは、図書館へ行ったことがない。	そもそも、新しい図書館は必要ない。 那賀川と羽ノ浦にあるのに、あえてお金をかける必要がどこにあるのか分からない。 東高横の図書館がなくなったからって、困った事はない。 今の子供たちは、ネット検索ででも調べられる。あえて図書室に行くのは本が好きの人。だとしたら、少し足を運ぶ事を苦には思わない。 東高にも阿南中にも立派な図書室がある。 そこがない本が欲しいければ、羽ノ浦か那賀川の図書館に行けばいい。 車社会の阿南市なので、足がなくても親に頼めばそれぐらい何ともない。 単なる無駄遣いだと思えない。	そんな事より、まずは、羽ノ浦小学校の問題だと思う。 学校が小さいのに、人口だけが増えて学校の大きさが追いついてないのは問題だと思う。 人を次々にを転入させる前に、受け入れられる学校を用意するのが、先では？
28	R7.10.7	電-23	那賀川	30代		プログラミング教室 ロボット教室 絵本専門図書コーナー	
29	R7.10.7	電-24	那賀川	18歳～20代	プログラミング教室やロボット教室などが欲しい	民間委託等をしてサービス向上やコストの削減	

30	R7.10.7	6	羽ノ浦	30代		羽ノ浦・那賀川図書館の廃止に反対します。「読書テラス」の内容も不明で、現在ほどの本の設置ができるのか不安です。少なくとも現状ほどの本の常時設置、貸し出しは可能にしてほしい。図書館は、小さい子どもからお年寄りまで必要な場所です。我が家も子どもが赤ちゃんの頃から週1回程度通い、大人も小説や実用書を貸りてきて、とても親しんでいます。望むのは、現状維持。本の今まで通りの開架、貸し出しできる環境を守ってください。	
31	R7.10.7	7	羽ノ浦	50代	読書テラスという耳なじみの良く意味合いがわからない言葉でごまかしている。本質的な問題である、那賀川・羽ノ浦図書館が現状を維持できないということをだましましてすり替える構想、という印象。図書館のまち阿南というのならば、中央図書館の規模・機能の見直しや、建物や場所に依存しない読書のまちづくりを目指すべきである。デジタルや仮想の時代だからこそ、本を手にとって読む・調べる・感じるという行為が重要になる時代。市民ニーズを捉えていない提案は、早急に見直し、シンプルな阿南中央図書館を建築すべきである。そして、公民館・科学センターの利活用は別問題として捉え、活性化策を模索するべきである。	場所はとりあえず残すが、開架を見直して蔵書を少なく機能を大幅に縮小させる事が前提ではないのか？もう少し地元の利用者の意見を丁寧に聞き構想に参画できるようにするべきではないか。市の財政的な問題があるのならば、それを正しく説明し当該地区の個人・団体の理解を求めることが重要である。建物の老朽化、司書の常勤体制などさまざまな問題があるがあると思うが、これほど地元で愛されている図書館があることを正しく実感し、誇りに思うべきである。重ねて、早く阿南中央図書館をシンプルに建てるべきである。	「図書館のまち阿南」構想は、論点をずらそうとしている行政や担当者の思惑が透けて見える。この構想を発案した人たちは日々の図書館に通っている市民の顔を見たことがあるのだろうか？繰り返しになるが、那賀川図書館・羽ノ浦図書館はかけがえのない財産である、建物という意味ではなく市民と阿南市が「空間」を作り上げて歴史を作り上げて育んできた無形の財産なのである。賛成・反対の多種多様な考え方を平等にテーブルの上のにせ、議論を尽くして欲しい。
32	R7.10.7	8	羽ノ浦	50代	市民が読書に親しむ機会をふやすことは良いが、市内の図書館を1つに集約するのでは、むしろ読書の機会が減り、移動手段の少ない子供には不便でしかない。阿南市の今後の人口や子育て世代の分布、学区制等総合して、将来を考えてほしい。	羽ノ浦に関しては図書館としての貸し出し機能を残すべき。市内でも子供が多く、学童の子供や生徒の自習利用も多い。子育て中の方が、図書館ではゆっくり読めないもので、貸りていることも多い。単なる読書できるだけのスペースでは、子供や子育て世代は利用しづらく、1件あった書店も閉店したため、本にふれる機械が減る。これらの世代に阿南駅周辺に行って利用をよびかけても無理である。	図書館を減らして、「図書館のまち」ということに大いに違和感がある。特に羽ノ浦は、バス、JRの便もよく、子育てや生活に便利で徳島市内への通勤、通学も可能であった。しかし、共栄病院がなくなり、小学校のたてかえも、今の地震等で危険の多い(ブロック塀や古い建物が多い)場所となり、安心安全とはいいいがたくなった。支所も少し離れ少しずつ不便さを感じてました。今後、学区制がなくなり、自動車道が整備されると、更に阿南市外への人口流出が考えられる。徳島方面への通勤通学が可能な羽ノ浦周辺を充実させることは、次世代を阿南にとどめるためにも重要なのではないか？子供や子育て世代が住みやすいためにも図書館は必要。
33	R7.10.7	電-25	那賀川	30代	図書館へ行く人が減っていると思う。今は気になったり調べたりするのは携帯、またはタブレットなど、1人1人が持っていないくても家族から借りたり共有していて、直接図書館へ調べ事をするのは減っているのではないかと思う。	利用者が少ないのであれば違う施設へと変えた方がいいのではないかと思う。	
34	R7.10.7	電-26	那賀川	30代	阿南市の隅々まで読みたい本が届くサービスを拡充して欲しい	本を守ることばかりに予算を使わずに大災害時における準備として命を守る政策にお金を使ってくれませんか？いくら本にお金かけても命は、守れません。無駄金です	説明会(質疑応答も含む)を早急に開いてください
35	R7.10.7	電-27	羽ノ浦	18歳～20代	図書館は一つでいいです。配信サービス 読書ネットを広く拡充して読みたい本を届けたり(ブックン活用してください)図書コーナーの居場所作りをしてほしい	学習館として子どもが学習するにあたり退職者の教員の配置や人権教育、居場所作りなどに力を入れて欲しい	図書館としては必要ないのでは？ 一つあれば充分 民間委託などをしてコスト面を抑えるとか出来ないのでしょうか？ 無駄にお金を使いすぎに思えてなりません
36	R7.10.7	電-28	宝田	30代	素晴らしいと思います。立地的にも地元事業者の出店機会創出のためのテナントや、スターバックスなどの読書を普段しない人でも立ち寄りたくなる仕掛けを期待しています。また、市民会館もただ取り壊すだけでなく、舞台床や座席を使ったストリートファニチャーなどを市民参加のワークショップなどで作り、まちなかに設置してはいかがでしょうか。	図書館機能は必要ないと考えます。建物は、近隣他公共施設と併せて集約先として検討してほしいです。	
37	R7.10.7	電-29	市外	18歳～20代	eスポーツが出来る施設 トレカが楽しめるように ボードゲームで交流できる 将棋や囲碁が楽しめる	絵本専門図書コーナー 学習スペースの拡大 プログラミング教室 ロボット教室 屋内遊具の充実	
38	R7.10.7	電-30	羽ノ浦	30代	27億国からの補助金を貰う前提で進めて欲しい	《残す→進化する》は構わないが27億国からの補助金を貰う前提で学習館や子ども館などに活用して欲しい	本ばかりにお金を使うのには反対です。何なら閉館して本を阿南市の学校や保育園に配った方が子どもたちも喜び、読むのではないですか？
39	R7.10.7	電-31	那賀川	30代	是非進めて欲しいが民間委託などにして阿南市の負担軽減は出来ないのか？	図書館としてではなく子どもや保護者が喜んで利用できるように使うて欲しい	図書館は一つにしてください
40	R7.10.8	9	宝田	30代		那賀川や羽ノ浦図書館、図書の貸し出しとか返却できるのはとても活用できているので、残ればいいと思います。	
41	R7.10.8	電-32	中野島	50代	図書館のまち阿南構想の中核となる「中央図書館」の整備に当たっては、国庫補助や有利な地方債といった「国からの支援」を可能な限り活用し、将来世代の負担軽減に繋げていただきたい。	那賀川、羽ノ浦の今後のあり方については、中央図書館の建設の機会を捉えて、大幅な見直しを行うべき。 那賀川、羽ノ浦両図書館の利用者は、中央図書館の積極的な活用をしっかりと考えるべき。 その上で、那賀川、羽ノ浦両図書館の新たな役割や、新たな使命を低コストで実現していくべき。	
42	R7.10.8	電-33	那賀川	50代	図書館の利用者がそれ程多いとは思わない。せっかく広いスペースがあるのにもったいないと思う。ボードゲームや将棋など、大人から子供まで楽しみ楽しめる様な施設があってもいいと思う。		
43	R7.10.8	電-34	中野島	70代以上	今は子供が本を手に取り読むことよりもスマホやタブレットで動画を見ることが主流この本が読みたいとなれば配信するサービスや読みたい本をチョイスして近くに配達するシステムを導入して欲しい		
44	R7.10.8	電-35	羽ノ浦	18歳～20代	学生や色んな人が使いやすく静かに勉強や読書ができる	若者から高齢者まで誰でもが利用しやすく他の人の邪魔にならないような場所にしていけばいいと思う	
45	R7.10.8	電-36	市外	18歳未満	子供が遊べるスペースを施設内に設けて、子供かま遊んでる間に親達が本を読んでリラックスできるようしたらみんなの行き来があって良いと思う	若者から高齢者までの方達が気楽に本を読めたり子供向け文庫などを次々新しいのを出していくと小さい子供立ちから高齢者の方までの幅広い範囲で図書館を利用して貰えるようにしていけばいいと思う	特になし
46	R7.10.8	電-37	見能林	18歳未満	いい	あっていいと思う	
47	R7.10.8	電-38	羽ノ浦	40代	ピンとこない。	本の貸し出しは今まで通り。新しい本も随時入れて行く。 職員だけ減らせばよい。たいして人來ないのに、職員多すぎ。特に那賀川。 現状維持、職員だけ減らす。人件費が1番高い。もっと職員が必要な課があります。 自習スペースを増やして下さい。	

48	R7.10.8	電-39	羽ノ浦	50代	図書館ばっかりいりません	夏休みに子供が読書感想文の宿題があるので本をかりにいくかもしれません	市の負担を軽減
49	R7.10.9	電-40	市外	40代	民間委託		
50	R7.10.9	電-41	富岡	18歳未満			
51	R7.10.9	電-42	那賀川	30代		屋内遊具の充実 ポーターランド導入	
52	R7.10.10	10	羽ノ浦	70代以上	それはそれでいいと思うが、貸出のできる図書館が一館になるのは絶対に困る。図書館のおかげで本の購入費など大変助かっているし3館あるおかげで距離的にも助かる。今の体制を崩すのは絶対反対する。	図書館の施設を利用してのイベントを増す。	
53	R7.10.10	11	橘	30代	近年、「〇〇のまち」といった造語を安易に濫用している印象を受けます。「野球のまち」「光のまち」については、全国的にも他に類を見ない特色と実績があり、確かなオリジナリティと存在感をもって広く認知されています。一方で、「図書のまち」「SUPタウン」などは、十分な熟度や裏付けとなる全国的に優れた成果が見えないまま、理念よりも願望が先行しているように感じられます。特に「図書のまち」は、現時点では活動の具体像が不明確だ。仮に構想の全容が明らかになったとしても、その実現から一定の期間を経て、客観的な成果や評価が積み重なった段階で初めて名乗るべき性質のものだろう。地名の名称やキャッチコピーは、掲げること自体が目的ではなく、その内容と行動によって初めて意味を持つものです。十分な検証や成果の蓄積がないまま次々と新たな名称を打ち出すことは、かえって地域全体の信頼性を損ない、先行して定着している「野球のまち」ブランドの価値をも揺るがしかねません。安易なスローガンづくりに流されることなく、実態に根ざした継続的な取り組みの中から自然に育つブランド形成を重視していただきたいと考えます。		
54	R7.10.10	電-43	富岡	30代	全年齢が集う、静と動を意識した、また癒しを感じる空間が提供できる図書館がいいかなと思います。私は小さい子供を3人育てているのですが、昨今の気候変動で真夏は酷暑であり、外で遊ぶことが困難となっています。そのため、真夏は遊びに行くところがありません。これは、子育て中の世代だけに限ったことではないと思います。 図書館内に併設希望の施設。 ・インドアパーク →子育て世代には大変ありがたいです。遊んだ後に、本を借りて帰ることができます。親も本を借りることができて、一石二鳥です。 ・全年齢が使える大きな自習スペース →阿南は学生が多い町かなと思っています。自習スペースを静かにできる所と声を出してできる場所に分けることができれば理想かなと思います。 ・スタバのようなカフェ →ブックカフェというのが都会では流行っていると耳にしたことがあります。飲み物を片手に読書できる場所も素敵かなと思います。 ・独立書店の併設 →本を購入できる本屋さんをあえて図書館内に作るのはどうでしょうか？借りた本が良かったので購入したいという方も少なからずいらっしゃると思います。また、本屋さんをやってみたいという方が以外にも多いということをSNSを通して知りました。そういった方の応援もできるのかなとも思いました。 ・飲食スペース →長時間滞在を前提に飲食ができる(カフェも併せて)スペースがあるといいと思います。 ・歩くことを意識した図書館 →石川県にできた新しい県立図書館は、円形状になっており、とても広いです。徳島県は、長らく歩かない県民として医療の世界では有名であります。広さを確保できるのであれば、読みたい本を歩きながら探す→歩数を増やすう→少しでも運動不足を解消するにつながるのではないかと思いますので歩くことを意識した図書館もいいかなと思います。	特にありません。	お住いの地域なのですが、学原の選択肢がなかったのでここで記しておきます。 図書館内でいろんなことができればいいんじゃないかなと思います。
55	R7.10.10	電-44	那賀川	60代	徳島新聞の見切り発車で見えぬ中身で市民不安と有りましたが、その通りだと思います。	今まで通りの図書館であってほしい。	

56	R7.10.11	電-45	那賀川	60代	令和5年10月に作成された、・阿南市立新図書館基本計画・阿南駅周辺まちづくり基本計画および、令和7年3月に作成された、・阿南中央図書館(仮称)整備計画について、以下の通り意見を述べます。 本計画に対する意見 まず、上述の各資料を拝見し、建物の老朽化(耐震強度不足など)、再建予算の問題、旧阿南市外二町時代からの運用が、合併後には重複する運用になっている等、本計画の実施を否定するものではありませんが、それぞれ箇所でのサービスを見直して一元化することには反対です。勿論、一元化が必要とされる部分もあるでしょうが、それぞれのオリジナリティも維持ながら運用すべきではないでしょうか。各地域毎に、近隣住民に根付いた良さは残すべきだと思いますし、また、その場所だからこそ出来、継続されてきたことも沢山あるでしょう。かつ、日本全体が東京一局集中で地方の衰退が取り沙汰されている中、同様のことを地方の一市町村内でやってしまっは、広域である阿南市にとっては、エリア遠端の市民にとっては更に不便が増すでしょう。まるで、東京一局集中の縮小版のように。合併による行政の管理を一元化するのとは、別次元のように思います。それぞれ、幼・小・中学校等もあり、身近な文教地域を作りあげていくことが必要なのではないのでしょうか。当然、子供たちの居場所と言う意味においても。その他、考慮すべき点として下記に追記します。 1.すでに各地域にとっての不可欠なインフラとなっている。 2.各地域での知識・情報へのアクセスの保障 今後ますます高齢化が進む中、車を持たない高齢者、高額な書籍・資料を購入できない低所得者層にとって、情報へのアクセス権の侵害につながり情報格差を拡大させると思います。また、近くの図書館で子どもたちの読書習慣を育み、生涯学習の場を提供すべきであり、貴重な教育・学習機会を奪い、地域の文化的なレベルの低下を抑止する必要があると思います。 3.地域コミュニティの維持 年齢の差別なく、いわゆる「居場所」は、近隣住民にとっては、必要不可欠なものだと思ひ、憩いの場、交流の場となり、今後さらに増加するであろう「孤独」を感じる人々を減少させ、安全で静かな環境を更に作り上げ、かつ持続することが必要だと思います。 以上、よろしく願ひします。	上述の通り	上述の通り
57	R7.10.12	電-46	富岡	40代	学生から大人までたくさんの人が利用できる自習室があるといいなと思う。 高松駅にあるツタヤラウンジのように、飲食をしながら本を読める居心地のいいスペースを作って欲しい。		
58	R7.10.13	電-47	羽ノ浦	50代	阿南中央図書館は要りませんので、今まで通りの羽ノ浦図書館、那賀川図書館の存続をお願いします！	今まで通りでお願いします！ 取り上げられたくないし、読者テラスも阿南中央図書館も要らないから、羽ノ浦、那賀川の図書館を今まで通りでお願いします！	私の周りでは、阿南中央図書館は要らない！と言う人が圧倒的に多い。 後、羽ノ浦や那賀川の図書館を取り上げられることを知らない人が多い。 市民が知らないことが多いし、もっと周知や意見を求めるべきで、市民が知らない間に進められているようにしか思えないし、市民を置き去りにして進められているようにしか思えない！！ この意見募集も、もっと大きく出すべき。 小さ過ぎるのがコソコソ進めているように感じる。 阿南中央図書館自体、反対！！！
59	R7.10.13	電-48	見能林	50代	・リソースも限られているので、阿南中央図書館に書籍等を集約する方向については賛成する。しかし、そのままでは那賀川・羽ノ浦は純粋なマイナス。なので、それを補うために以下2つを提案する。 案1:本を探しやすく →デジタルネイティブの住民にはWeb上の本の検索を通して、AI等を上手に活用して読みたい本を薦めるような機能を追加するなど、借りたいと思わせる工夫も。 →対面でないと本を探せない方のために、公民館の活用。公民館に端末を置いて、住民の方の相談にのるような方式を。もっと進められるならチャットボットを進化させ音声認識で本の検索ができるような仕組みの導入も。(これについては、高専に協力を仰ぐ もしくは 大学生の卒論として公募するなど お金をかけない工夫はできるはず) 案2:本を居住地周辺でも借りやすく →予約ができている本に限定して公民館でも本を渡せるようにする。受け取り先を公民館も選択肢に加えるイメージ。 →公民館が開いている時間は対面で。 →閉まってしまった後は宅配便の荷物受け取りBOXのような仕組みで。これを利用する方はおそらくはデジタルネイティブ。指定箱を開錠するパスワード設定などは宅配便と同様で運用できるのでは？	・書籍を収蔵する機能としては中央図書館に。那賀川、羽ノ浦は市の計画にあるような交流やイベント開催に軸足を置く施設とする方向に賛成。 ・交流、イベントを考えるソフトの部分に言及させてもらつと、中学生や高校生が興味をもてるモノを企画してほしい。幼稚園児や高齢者 のためのイベントは現在でも運用されているが、この年齢層に向けてのイベントは欠落している。進学で一旦は地域を離れても 帰ってきてもらうためには地域に愛着が必要。 そのためにも、この年齢層は特に意識してほしい。 →図書館は静かに本を読んだり、自習をするだけの場所ではなく 交流するための拠点と考えるなら小説や漫画に関連させてのイベントは 図書館と関連付けて実施できるのでは？コスプレィヤーを招いたり、声優さんを招いたり、e-sportsイベントも図書に関連付けられると考える。名探偵コナン、鬼滅の刃 も世の中の盛り上がりは非常なモノがある。これに少しでも関連付けができれば市外からの来館も見込めるはず。	・本という形に日常的に触れている世代は高齢化している。ということ は、本を収蔵して貸し出すだけの機能を図書館機能とするのであれば 早晚、図書館不要という意見が大勢を占めることは想像に難くない。 ・ただ、若年世代が活字から完全に離れているかというと ブログなどで代表されるように デジタル空間では映像や写真に負けず劣らずの地位を活字は得ている。広義の文字文化を守備範囲に収める場所として図書館を位置付ければ まだまだやれることはあると思う。 ・また、イベントも視野にいれた住民交流の拠点としての図書館 という考え方には大賛成。重複するが 中学生・高校生 の年齢層を特に意識してほしい。 ・イベントの開催などは専門家が市役所にいるとは考えにくい。 なので、地域創生等をテーマに挙げている大学と連携してみてはどうか？ 恰好の実地研修の場になるはず。研究室のテーマとして 図書館を通じた地域創生 に賛同してくれる所もあると思う。(当然、それらに投資する覚悟が必要だが)複数の研修室が参画して 企画や運用をコンペできるようにまでなれば好循環が生まれると思う。その循環をうまく機能すれば 地域創生のノウハウを他の自治体にレクチャーするなど もできるはず。もしかすると 新しい産業(コンサル業)を興せるかも？ ・ジリ貧は見えている。何か新しい試みを仕掛けて 運用方法という無形の資産を得ることを期待する。

60	R7.10.14	電-49	富岡	40代	30年前に図書館の自習室をよく利用しました。 Uターンし、10年くらい前には予約本をよく利用させてもらっていました。 これからの子供たちのために、自習室を使うハードルを下げるために、スマホ禁止の自習室食事以外ある程度おしゃべりokな自習室など、多様な自習室を作ってあげてほしいです。	那賀川、羽ノ浦には、子供が小さい頃に漫画を借りに行っていました。 ネット検索で、那賀川、羽ノ浦の在庫を調べれば漫画を読みに行けますので、あえて漫画は貸し出しNG、役割は漫画喫茶のような図書館にしてほしいです。 漫画の空白があると残念な気持ちになるので。	
61	R7.10.15	12	那賀川	不明	「図書のみち阿南」構想の推進姿勢には期待するものの、その計画の核となる新中央図書館の立地選定と『既存那賀川・羽ノ浦図書館の機能再編(テラス化)』は、市の掲げる理念と矛盾し、『全市域の住民サービスを軽視した恣意的な政策判断』であると強く批判し、その見直しを求めます。 ■ 1. 新中央図書館の立地に関する地理的非合理性と公平性の欠如 阿南市の地形と交通網を考慮すると、新中央図書館の立地計画には、『全市的な公平性』と『合理的根拠』が決定的に欠如しています。 ■ ■ (1) 北部集中による市民サービスの地理的格差 現在の図書館サービス拠点は市の北部エリアに過度に集中しており、新中央図書館の北部建設はこれを是認するものです。これにより、西部、中部、南部の広大な地域の市民はアクセスが困難となり、『地域間のサービス格差を助長』する結果となります。この立地選定は、公共サービスを全市民に公平に提供するという行政の基本責務に反しています。 ■ ■ (2) 最適立地を無視した非合理的な判断 阿南市の地理的・交通の実実を踏まえれば、西部・南部住民の多くがアクセスしやすい交通の結節点である中部地域(桑野・大野エリアなど)にこそ、全市的な中央機能を持たせるのが最も合理的でした。「選択と集中」という限られた資源の効率的活用を掲げながら、最も非効率な立地を選択している点で、その『政策判断の合理性』が強く疑われます。 ■ ■ (3) 「中央」機能の喪失した立地への固執 建設予定地の富岡町は、すでに『衰退が定着』しており、中央としての機能的役割や集客力は極めて乏しい状況です。発展の可能性が低い立地に多額の予算を投じて「中央館」を建設することは、費用対効果に優れず、将来世代に無駄な維持管理費の負担を押し付ける『非合理的な決定』です。	■ 2. 既存2館「テラス化」の実態と市民サービスの低下 構想で謳われる「テラス化」は、その魅力的な名称とは裏腹に、実態は『地域密着型サービスの機能低下』であると強く認識しています。 ■ ■ (1) 実質的な機能集約による地域の衰退 「テラス化」は、新中央図書館への機能集約を目的とした既存2館の機能・人員の削減案であると認識しています。新館建設を理由に、既存の地域住民の生活圏内にある公共サービス拠点を意図的に弱体化させることは、那賀川・羽ノ浦地域の市民生活を軽視し、『地域コミュニティの衰退を招く』要因となります。 ■ ■ (2) 地域の利便性への重大な影響 特に高齢者や日常的に自動車の利用が困難な市民にとって、既存の両館は不可欠な生活インフラです。北部への不合理な集中立地と、この地域図書館のサービス縮小を組み合わせることは、西部・中部・南部地域に加えて、那賀川・羽ノ浦地域の市民の利便性までも剥奪し、『市民サービスの広範な低下』を招きます。 ■ 3. 阿南市の財政構造から見る「中心化」戦略の非合理性 市の政策の根底にある「中心市街地の活性化」を目的とした「選択と集中」は、阿南市の現実には適用できません。 ■ ■ (1) 「中心活性化」戦略の無意味さ 阿南市の財政健全性は、主に企業や大規模施設からの安定した高額な固定資産税収入によって支えられており、他の自治体のように観光収入や中心市街地の商業活性化による税収への依存度は低いと認識しています。この財政構造において、衰退が定着した富岡町という「中心」の体面維持に多額の公共予算を投入し、周辺住民の利便性を犠牲にすることは、『市の現実と将来の展望に合致しない非合理的な投資』です。 ■ ■ (2) 地域住民のための行政サービスへの特化 阿南市が資源を投じるべきは、非効率な「富岡町の再活性化」ではなく、固定資産税収を基盤として、全市域の住民が等しく、質の高い行政サービス享受できる体制の構築、すなわち『地域住民のためのサービス特化』であるべきです。 【結論:全市的公平性に基づいた計画への是正要望】 阿南市が目指すべき「図書のみち」は、特定地域(北部)の住民に偏ったサービスにとどまるものであってはなりません。	市に対して、以下の措置を要望します。 ■ 那賀川・羽ノ浦図書館の機能維持と投資の継続 「テラス化」による専門職員の削減、開館時間・蔵書規模の縮小を行わず、地域住民の日常的な利用を保障するとともに、地域に適した機能維持・強化のための予算を確保すること。 ■ 全市的なサービス格差是正措置の導入と地域再定義 北部集中に伴う西部・中部・南部地域のサービス格差を是正するため、新中央館整備と並行して、 - 富岡町周辺や中部地域(桑野・大野等)の公民館等での地域拠点サービスの整備 - 移動図書館サービスの大幅拡充 を行い、実質的な市全域サービスの均衡を図ること。富岡町は、既に市域の広範な交通・人口ネットワークから見て『周縁的な位置にある』ことを踏まえ、単独で「中央館」の機能を担わせる設計は避けるべきです。 この計画は、『市民の平等な権利に配慮しておらず』、市の将来的な発展に資しない非合理的な政策判断であると断言します。市民の声を真摯に受け止め、計画の根本的な是正を求めます。
62	R7.10.12	13	那賀川	40代	具体的なことが書かれていないのでどうなるかわからない。	司書の有無や貸出について書かれていないので進化といわれてもピンとこない。 交流空間やインドアパークは不要だと思う。 静かに読書や勉強できる環境がほしい。	意見を求めるには説明が不十分。 もっと本質にせまった説明がないと市民はよく分らない。とくに図書館としての貸出機能がどうなるのかはっきり伝えてほしい。
63	R7.10.15	電-50	那賀川	50代	図書のまち…と言いながら、図書館が減るのはおかしくないか？野球のまちも…野球場が整備されてないと聞くようになった。ものを作っても、整備されず、使用不可になった遊具が数多くあり、「図書のまち」も同じようになるのではないかと危惧する。「キックバックがあるから補助金を使わない手はない」というのは理解できる。図書館という「館」という文字がダメなら、機能だけ残すのはできないのだろうか？ 「読書テラス(仮称)」小学校には、毎月移動図書車が回っているが、限られた時間で狭い場所での本選び…正直選ぶ楽しさがない。図書館サポーターはいるが、毎日違う校に出勤。季節毎の掲示物作成と新書の登録等で勤務時間が終わり、仕事を持ち帰ってしなければ時間が足りないと思う。1校に1人、図書館サポーターを置き…確か5人はいるはずなので、週一で、那賀川羽ノ浦図書館に配置というのでもいいと思う。そうすれば、学校と図書館の連携が取れやすいし、教職員からの教材に必要な図書の依頼を受けやすいと思う。今は教職員の方が遠慮して、教材研究の資料とか自分で探されていると思うので、週一図書館に行くなら、お願いしやすいとおもう。教職員は、勤務時間内に図書館にいけないから。 公民館の利用は…年配の方がいろいろなサークルで使っているように思うが、そこに読書テラスとして何をするのかが良く分からない。ロビーに雑誌や新聞を置くのでしょうか？それとも移動図書が来るとか？ 科学センターもまたどういう役割か？センターも使えない実験遊具が設置されて、閑散とした感じで、週末の実験コーナーしか魅力を感じない。科学センターだから、科学…理科分野に特化した書籍を置く、貸出もできる、研究っぽい雰囲気を作り出す…とか面白いと思う。図書の貸出は、資格を持った司書でなくてもできるし、今なら無人レジもあるから、貸出カウンターも、利用者にバーコードリーダーで読み取ってもらえたら、人件費もかからないと思う。 地元書店…平惣しか思い付かないか…売り上げに繋がらなければ、協力してもらえないと無理かなと思うが…新刊販売コーナーを作るということか？それも面白いけど、平惣の人が分散するので、人件費が負担になるのではないかと心配する。 「図書のまち」というなら、いつでもどこでも本が読めて借りれて、返せて…という環境を作るべきだと思う。	羽ノ浦図書館は、単独の建物でないから、図書館でなく、図書室もしくは図書スペース、そのまま「読書テラス(仮称)」という名称変更だけでいいのでは？正直いうと書籍数が少なく物足りない。那賀川図書館は、絵本選びのスペースが素晴らしいので、残して欲しい。 人件費削減等で、貸出なしと説明を受けたが、貸出をしなくても、誰か人は配置されるはず。 貸出カウンターは、無人で利用者がバーコードリーダーの読み取りをしてもらう。返す時も同様に。ただ、返却を個々にしてもらうと、整理してるものがバラバラになるので、返却用ワゴンに乗せてもらって、書架へ戻すのは、図書の職員の人にしてもらう。 別に司書でなくても、本の分類の勉強会をしたらパートでも戻せると思う。 レファレンスサービスは、司書でないと無理だと思うので、阿南中央図書館にいる司書と、Zoomか何かオンラインでやり取りして、本を検索してもらうのは可能だと思う。 図書は貸出履歴等の個人情報の管理があるなら、図書カードでなく、マイナンバーカードに貸出カードの機能をつければ、図書カードの更新をしなくてもいいし、保険証として利用することになるので、みんな普段から持ってると思うはずなので、出先で借りたい本に出会えてもすぐ借りれるメリットもあると思う。 羽ノ浦、那賀川図書館にあるDVDのコーナーは要らない。けど、オーディブルのような朗読を視聴できるコーナーがあれば、年齢層が高い方も利用してもらえそう。 両館とも、中学校が近いので、自習室は喜ばれると思う。那賀川中の子から、自習室の取り合いになってると聞いた。自習スペースは暗く、独立した机でスタンドライトがある方が勉強が捗ると思う。できれば、図書館の奥に。 市役所職員、司書だけで、運営は難しいと思う。ボランティアの手を借りるのも一つの案。ただ、ボランティアは、あくまでもボランティアなので責任は取れない。羽ノ浦那賀川それぞれに3人ぐらい市の職員さんがいて、ボランティアに指示を出して運営していくのがいいと思う。徳島城博物館は、案内ボランティアがいる。休憩時のお茶菓子代とか薄謝でも負担して、それぞれの読書テラス(仮称)サポーター登録をして欲しいと広報に出して、運営できる方向を模索して欲しい。	
64	R7.10.15	電-51	新野	40代	ネーミングもコンセプトも良いと思っています。自転車や歩きでふらっと行ける場所に本があったらと思うので、町の図書室があれば嬉しいのです。		
65	R7.10.16	14	羽ノ浦	70代以上		60才までは、なかなか図書館を利用できる時間はなく、今は毎日が日曜で本を読むのが日課の大半をしめ、それも車の運転も出来なくなるので、ますます地元の図書館が大事ですので、ぜひ永続お願いします。又、本屋さんも平惣さんがなくなり、いよいよ本を手に入れなくなりますので、永続しますように。	
66	R7.10.16	15	見能林	40代	公民館、児童館、図書館がネットワークすることは嬉しいですが、具体的案のないままでは非常に難しい。	今までどおり司書さん、読み聞かせ機能、貸出をしてほしい。 子どもたちの居場所をなくさないでほしい。	

67	R7.10.16	電-52	羽ノ浦	40代	人口、予算があるうちに早く作ってもらいたい。 那賀川・羽ノ浦図書館が老朽化で使えなくなる頃には、予算が無く、人口も減り(利用者見込みが減る)図書館を作る構想が無くなる可能性が考えられる。	https://warp.da.ndl.go.jp/search/archivesearch/WE01-Search.do 国立国会図書館インターネット資料収集事業HPにて「阿南市・那賀川町・羽ノ浦町合併協議会」で検索トップページ右側に合併協定書(37KB)のPDFファイルがある ファイルの21Pより引用 図書館事業については、次のとおりとする。 (1) 施設については、現行のとおり新市に引き継ぐ。 (2) 移動図書館車等については、現行のとおり新市に引き継ぎ、運行計画については、新市において検討する。 (3) 利用規則については、阿南市の例を基本として検討する。 (4) 使用料については、阿南市の例を基本として検討する。 (5) 委員会等については、阿南市の例により再編する。ただし、委員定数は地域性を考慮し、決定する。 (6) 開催事業については、現行のとおり新市に引き継ぐ。 引用終わり (1) 施設については、現行のとおり新市に引き継ぐ。 協定内容に基づき建物はもちろん、本も資産なので、大切に司書さんが管理してきたように思う。住民の想い、司書さんの想いを踏みにじる事無く新しい図書館へ移行してもらいたい。 合併に期限が無いので、合併翌日に取り壊しても協定違反にならないらしい。が、それでは「サギ」だと住民が感じる。さて、平成17年2月27日に調印した合併協定書の効力はどこまで有効なのか？という議論が残る。住民の納得が得られるように議論を進めて欲しい。 https://www.soumu.go.jp/main_content/000287574.pdf 2014年に総務省から各自治体に対して「自治体が公共施設の需要などを見極め、縮小再編する必要がある」と言っている。この流れで図書館も縮小するだろう。どうやって縮小するべきか悩む所だが、例えば、那賀川図書館はビジネス中心大人向けの蔵書に、羽ノ浦図書館はキッズ向けの子ども、子育て世帯向けの蔵書に。新阿南図書館は総合的に。すると、音のゾーニングができ、子どもの声が気になる人は那賀川図書館へ行く。おしゃべりしたい人は羽ノ浦図書館へ行く。カフェしたい人は新阿南図書館へ行く。のように。せっかく施設がまだ使えるのでうまい事使えろと良いと思う。予約システムの活用で本のお取り寄せが可能なので、蔵書は分散管理で多くの本を手にすることが出来る。	参考資料 徳島県の図書館 棚橋満雄著 1991年7月14日発行 阿南市立新図書館基本計画 令和5年10月 阿南市教育委員会 阿南市立新図書館基本計画 資料編 令和5年10月 阿南市教育委員会 羽ノ浦図書館所蔵 上記3冊の参考文献を読み読書感想文を書きます。 徳島県の図書館の著者 棚橋満雄先生是那賀川図書館の初代館長という情報を得ました。とても読みやすく、詳しい情報があり参考になりました。 本文からの情報 1970年阿南市立図書館は富岡、新野、橘、桑野にあった。実態は公民館の図書室。図書費は新野図書館3万円を除いて他3館は1万円。 とても貧しかった事がわかる。それから55年後の2025年現在、立派な図書館を建てる計画があるのは阿南市の文化レベルがとても向上した。図書館は究極の贅沢だと感じた。今後、デジタル化が進み、本もデジタルで読む時代になるだろう。世界中の本がデジタルで手に入り、AI翻訳され、AI音声で読み上げてくれる時代が今。図書館の役割は本を貸す事、空間を貸す事。本を借りて勉強できる場所を借りれたら満足してたそんな時代から、新図書館の計画書では、図書館の機能だけでなく追加の機能を持たせようとする計画がある。 『徳島県の図書館』を読み、 図書館司書に求められるスキルは暮らしに役立つ図書館である事。生活、仕事、学びで疑問や不安や困りごとが出てくる。その時、図書館に足を運び、司書さんに問題・課題を相談して、それらを解決するヒントになる本を見つけてくれる。図書ソムリエ(司書)のお勧めの本を読んで、疑問や不安が解決し、心が豊かに、リラックスできて。さらにもっと本を読みたいと思えるようになれば、図書館の価値と必要性が生まれるのではないかと感じた。
68	R7.10.18	電-53	羽ノ浦	30代		両図書館の廃止の方針に強く反対いたします。 特に羽ノ浦地域は市内でも数少ない人口が増加している地域であり、今後の発展が見込まれます。そのような地域で、教育・文化・交流の拠点である図書館を失うことは、子どもたちの学びの機会を奪うだけでなく、地域の魅力を大きく損なうものです。 図書館は、単に本を借りる場所ではありません。子どもから高齢者まで、誰もが安心して集い、学び、情報にアクセスできる公共の場です。特に、インターネット環境や自宅学習環境が整っていない方にとって、図書館は平等な学びの機会を保障する場です。 人口が増え、子育て世帯が多い地域でこそ、図書館の存在は欠かせません。 市として将来を見据えたまちづくりを行うなら、文化的基盤を削減するのではなく、むしろ充実させる方向で検討すべきです。 よって、地域住民の声を尊重し、図書館廃止の方針を撤回し、存続・充実を検討されるよう強く要望いたします。	
69	R7.10.19	16	羽ノ浦	70代以上		家には図書館で借りた本がとぎれることなくあり、読書が生きがいとなっております。存続の有無の問題が起こりびっくりしています。今まで通り身近で利用出来る事を切に希望します	
70	R7.10.19	17	加茂谷	60代	くだらない構想はやめて下さい。	絶対に続けて下さい。	
71	R7.10.19	18	富岡	70代以上	①【図書のまち阿南】構想についてという問いかけに問題があると思います。図書館在りきの偏った設問では良い意見が出ないと思います。設計は発注済みですが審査員に市内の若者は入ってますか？市外の方々では他人事になりませんか？多くの市民に喜んでもらえますか？他県から視察が来るような施設としてください。追加でAIでの審査も考えてください、きちんと質問すれば専門職の方々と同等以上の能力を発揮すると思います。ちなみに最近アミコ6Fにある徳島市図書館に行ってきました。たまたまかも知れませんが静かな環境で8人ほどの年を召した方々がビデオを視聴したり読書したりしておりました。 ②【駅周辺の活性化】にする為に少し考えました。構造物の設計コンセプトは活気ある図書館である為に。最近(10/14)NHKのクローズアップ現代で放映された【賑やかな図書館】は参考になると思います。静かな図書館ではなく、スーパーや遊び場が併設され食事にも自由に出来る賑やかな複合施設風の図書館でした。予算上きびしければ図書館部分の力を抜き、それ以外に力を入れたほうが将来良いかと思います。若者が集まるとその周り(図書館)には100軒を超す飲食店を含め様々な店が集まっていました。 ③現在計画中の場所は周りが民家なので1Fは間口2～3間程の空スペース(職種を限定しない50戸程度)の確保は可能でしょうか？(内装は入居者が行うようにして設計コストを下げる)将来の変化に対応できるだっ広いスペースとし、とりあえずフードカー・トレーラーハウス・コンテナでの対応も面白いでしょう。上記もそうですが水・電気のユーティリティは施設側で用意する、トイレは必須です。例えば高速の宝塚SAにあるような明るくて綺麗な化粧も出来るトイレだと安心感があります。この施設が、若者だけでなく様々な年代の方々が起業出来る原点になると嬉しいです	僕はその地域に該当しませんが、名称は変わっても現状の機能は残しておくよう配慮することは必要かと思います。	新図書館建設が必要かどうかということもあります。代替可能な設備、例えば市役所の一部もしくはひまわり会館、阿南商工会議所など機能の配置変更も考え最良な案にすべきと思います。行き当たりばったりの計画ではなく、これからの人口増減も視野に入れた政策を行ってほしいです。阿南に住む次世代の若者と共に未来を創ってください。
72	R7.10.19	19	羽ノ浦	60代	阿南中央図書館に飲食できるスペースを作ってほしい。(障害者の支援もかねたカフェなど)	那賀川・羽ノ浦図書館は今のままで残してほしい。今後、年を重ねた時に移動できる交通の方法がなくなるので、近くで行ける所に残してほしい。	本の貸出期間を3週間にのばしてほしい。2週間では読み切れない時がある。

73	R7.10.19	電-54	那賀川	18歳～20代	そもそもどんなものなのか、分かりにくい(市の広報は読んだ)。ふわっとしているなど思っていたが、財政的に厳しいから本が借りられなくなると知り、あわてて意見を投稿しようと思った。 誰が読んでも分かるように、そもそもの構想を検討事項も含めて広く開示してほしい。 事実上の図書館廃止、は本当なのか、詳しく説明してほしい。どうすれば今の状態を継続または、みんなが良いように変えられるのかを考えてみてほしい。(なんだか秘密裏に進められているようで怖い)	従来通り本を借りられるようにしておいてほしい。市民に検討内容を詳しく開示してほしい。新旧を比較するような形で。どうして変更するのかも併せて。 個人的に那賀郡那賀川町だった頃から、紙芝居や本を借りてきて家で読んでいた。読書感想文を書くのにも助かった。そんな思い出があり、子供にもぜひこの素晴らしい施設を利用してほしい(本を借りて読む)と考えていたので、詳しい説明も無しに勝手に変えられるようで残念。今からでも遅くはないので、本の貸し出しは死守できるよう、ぜひ考えていただきたい。図書館を交流の場としてアップデートすること自体は賛成。ただ、中身がよく分からないので、きちんと説明し、市民の皆さんが納得した上で進めてほしい。	繰り返しにはなるが、詳細が決まっていなかったとしても、検討中のことでもなんでも、情報を分かりやすく公開してほしい。最終的にどうなったとしても、きちんと情報開示をして、皆が把握しているのと、していないまま進めるのでは雲泥の差があると考える。 ぜひ、ご検討いただきたいと思います。
74	R7.10.20	電-55	福井	50代	図書館へ行くには距離が遠いので、電子書籍を充実したり、公民館などの施設で本が借りられる環境を整えて頂けるとありがたいです。	新しい図書館ひとつだけあれば、那賀川、羽ノ浦図書館は要らないと思います。	日本全体が人口減少になっている中で、地方の阿南市で3館もの図書館を維持していくのは難しいと思います。 銀行や民間企業では支店の統廃合が既にされています。市役所も図書館だけでなく、他の施設も将来的な人口に即して、縮小していかないといけないと思います。
75	R7.10.22	20	羽ノ浦	70代以上	「図書のまち阿南」の構想は、「俳句のまち松山」をイメージしたいところですが、阿南市街地整備・都市景観のプランにおいて、「阿南中央図書館」の立ち位置は、まちのにぎわい創出と市民が集い活動する場が期待されている。しかし人口減少に伴う阿南駅周辺の空洞化は、箱物建設等では解消される見込みはない。一極集中ではなく、将来を見据えて身の丈にあった新図書館の建設を期待します。	那賀川図書館については、耐用年数はわかりませんが、スペースも広く・立派な建物であり補修をしながらの存続を希望します。 羽ノ浦図書館については、耐用年数も近いと聞いています。建て替え時には羽ノ浦支所・公民館・図書館等の複合施設の建設を希望します。	来年3月には、那賀川町・羽ノ浦町が旧阿南市と合併をして、20年が経過しようとしています。 羽ノ浦町についていえば、支所の移転・機能の縮小・羽ノ浦共栄病院の廃止・羽ノ浦小学校・岩脇小学校の建て替え問題・さくら保育園の廃止・くろみ保育園の移転・学童施設の老朽化対策など進展がなく、住民の間には行政に対する諦め感・閉塞感が起こっています。 南海トラフの影響の少ないと言われる羽ノ浦町、防災機能を兼ねた箱物建設の推進をお願いします。
76	R7.10.23	21	不明	30代	国語の読解力は下がってきているみたいな事を以前に聞いた事があります。本の値段も高くなってきていますし、本離れが心配されますし、気軽に新刊や新聞、雑誌が読めて借りられる場所は必要かと思います。	那賀川・羽ノ浦図書館の今後について誰でも利用できる場として残したいとの事ですが、具体的な事が分からないので何とも言えないのですが、新刊や新しい新聞、雑誌の入荷は無く、貸出も不可でその場で本を読むのは可能、みたいな感じであれば、それは嫌だなどと思います。 希望はこれまで通りの図書館であってほしいという事です。確かに1館になればサービスの質や施設の充実性は高まるかもしれませんが。しかし図書館が無くなってしまえばそを利用していた方々の図書館の利用の機会が減り疎遠になるかもしれません。今まで分散していた人が集まる可能性もあります。自分も経験がありますが、新聞を読む人が重なれば待たなければなりません。新聞は読むのに時間がかかる可能性があり、時間のロスに繋がります。 学校帰りや放課後に利用していた人(学校図書館はありますが、蔵書の数や種類は違うと思いますし、静かに利用できる自習室も)や毎日、新聞を読みに来ていた人などは気軽に利用出来なくなります。これまで徒歩や自転車で行けていたのに車や公共交通機関を利用しないと行けなくなったりします。時間もこれまでよりかかります。それにやはり交通費がかかってきます。交通費、時間をかけてまで…と足が遠のいてしまわないでしょうか。 バスや鉄道などが来ない地域も増えています。 カバーする為に、前日までに予約すれば配送してくれる市のサービスなどもありますが、料金は公共交通機関に比べてどうなのかや予約しないといけないという、面倒ですぐに行動できないという事があります。実際、行動手段が減り、活動をあまりしなくなると認知症のリスクも高まるのではと思います。	「自治体施設・インフラの老朽化対策・防災対策のための地方債」について、市や町が広ければそこに施設が1つというのは市民などには厳しいと思います。近くの人は気軽にいつでも利用できても遠い人には時間もお金も必要になります。 市や町の大きさ、人口に応じて数を決めるべきかと思いますので、国へ改正への動きも必要かと思います。 現在、書店の数が減り書店の無い町も増えているようです。 先日も羽ノ浦町の書店平惣さんが閉店しました。 搬送の都合か何かで本の入荷を辞めたコンビニ企業もあります。 紙の本に触れ合う機会が減っていく中で図書館は残していく必要があるのでは無いでしょうか？移動図書館もありますが、乗せられる本の数に限りがありますし、図書館に行って本を見て選び、時に素敵な本に出会う楽しさもあると思います。そういうのはインターネット書店などではなかなか経験出来ないのではないのでしょうか？
77	R7.10.23	電-56	那賀川	40代		今のままで十分。読書テラス？余計なことはしないでいただきたいですね。	
78	R7.10.24	電-57	那賀川	60代	那賀川、羽ノ浦図書館は司書がいなくなり、本は借りて帰ることができず、建物内でのみ読むことができるとの文書を読みました。 これは本当のことなのか、市からの発表等がないから何を信じてよいのかわからない。 もしそうなら、本の紛失があったり、本の整理ができないため探すこともできなくなりそうです。 市は有耶無耶にして計画を進めるのではなく、市民に計画を速やかに発表するべきです。	各地域に学校もあり、住人もまだ沢山住んでいます。 本を借りられてこそその図書館だと思います。 人口も減っていくのに、大きな図書館はいらないと思います。 各地域にそれぞれ図書館があるのが望ましいと思います。	
79	R7.10.25	電-58	羽ノ浦	40代		図書テラス構想に、那賀川・羽ノ浦図書館を図書館法に基づいて今後も運営すると明記してもらえると、羽ノ浦図書館が無くなるかも？と不安になっている人が安心すると思いますので、加筆お願いします。	
80	R7.10.28	22	那賀川	40代		そのまま変わらずにいて下さい。	
81	R7.10.28	電-59	羽ノ浦	70代以上	議会での熟議が不十分	1図書館利用者の意見集約が本構想策定の大前提であるはずが、箱物建築ありきが先行している。 2読書ができる室内環境の確保が先決で、落ち着いた「テラス」機能は、図書館には不要。必要なのは、司書拡充。 3那賀川、羽ノ浦の両図書館は、現状をベースに充実拡充していくべき。 4司書がいない貸出のない図書館は、図書館としての資格はない。情報文化の旗の保持をつよく望んでいる。	
82	R7.10.28	23	羽ノ浦	70代以上	市議会での熟議が尽くされていない。	一図書館利用者の意見集約が本構想策定の大前提であるが、箱物建築ありきの意図が先行している。 二読書のできる室内環境が確保されていることが先決で、落ち着いた「読書テラス」は不要。 三那賀川・羽ノ浦両図書館は、現状をベースに、図書整備を充実・拡充していくべきである。 四司書のいない、貸出機能のない図書館は、図書館と呼べず、「読書テラス」という意味不明の名称を冠しても図書館の代替機能の役目は果たせない。「情報文化」の名を除くと、「〇〇センター」という名称のコンクリートの建物のみが残ることになる。	「図書のまち阿南」構想というのは、複数の図書館が併存する構想かと想定していたが、真逆の発想から出発している様子が、図書文化から遠い位置にあるもののようで失望している。
83	R7.10.28	電-60	那賀川	40代	市長は選挙当選のために市民に10万円配ったあげく、お金がないから、補助金欲しさに那賀川、羽ノ浦の図書館を不便にすることは、やむなし、ですか。 市長と、市議会議員は市民のことを考えていないですね。 私は、これまで、ふるさと納税の制度を活用せず、阿南市に住んでいるのだから、阿南市に税金を納めなくては、と思っていたが、考え直す必要があるようだ。	現在の図書館運営の継続は当然。さらに、新刊のより積極的な購入を期待する。	

84	R7.10.28	電-61	那賀川	40代	構想そのものについては特に反対するものではありませんが、見方を変われば「阿南市市街だけ先んじてまちづくりを行い、羽ノ浦・那賀川地区は後回しにされているのでは？」という事を考える人が出てきてもおかしくないと思います。 「羽ノ浦・那賀川地区の人達をないがしろにはしていない、むしろもっと魅力的な施設を作りたいんです！」ということを照明する必要があると思いますので、懸念されている皆さんには根気強く伝えていって下さいね。 私からは2つお願いがあります。1つは阿南市内だけで考えずに、徳島県、徳島県外の人々が「すごい図書館がある」として来館されるくらいのまちづくり構想を行って欲しいと言うことです。 県外の人に図書館の来館から「阿南市って意外と悪くないね」というところから将来的に阿南市に住みたいかも、と思われることも重要なことと思います。 滅多にないまちづくりの再開発なので、阿南市だけの盛り上がりにならないようにぜひお願いしたいです。 もう1つは、本屋・書店の衰退が著しいので、書籍・出版分野を育成する人材投資(書籍に関心を持たせるだけでも構いません)も行って欲しいと思っています。個人的に、本屋が衰退しているのはシンプルに「既存の本紹介の書籍が魅力的ではないから」と考えていますので。 その上で、地元書店との連携も行うとのことなので、各書店でオススメされている書籍の展示紹介をはじめ、書店へのインターンシップ、既存書店や・新規個人書店立ち上げへの金銭的または制度的支援も行える範囲でしてほしいです。	どちらも90年代前半に立てられているので、建物の耐震化を点検して不足している部分は補って、震災時の避難場所として活用出来るようにした方が良いでしょう。 資料に記述されていることをもう一度記述するのはおこがましいのですが、阿南市には自習室はあっても、コワーキングスペースの設備が少なく、予約制で事前連絡が必須のようです。 そこで、羽ノ浦、那賀川の両図書館のスペースをコワーキングスペースとして活用できないかなと思います。低料金であるなら、副業兼ねた人やパソコンで仕事完了する人が、市外から利用される可能性があると思います。(かくいう私も、小松島のオフィスあいさい、みなと交流センターkocolo、佐古のくらまちを利用しています)	羽ノ浦地区で書籍を扱う、平惣羽ノ浦店が(立地は小松島市ですが)業態転換を行なう為にブックスロード羽ノ浦店の1つだけと記憶しています。 羽ノ浦・那賀川地区での車を使えない人、免許が取れない小中高校生にとっては、新設された図書館に行くのにはやや距離があるので、可能なら徳島バス・JR四国・各タクシー会社と連携してほしいです。 その上で、阿南中央図書館に利用するための公共交通機関利用の割引、もしくは図書館内で作られる予定の売店等があるなら安く購入出来る、公共交通機関で来た人(もしくは来館された人全員)にはスタンプをつけて一定数つけたらグッズがもらえるなど、特典をつけるべきかなと存じます。 また、市内の書店との連携も進めるとのことなので、多岐に渡る書籍の色々な情報を阿南中央図書館で展示し(書籍の発売日はもちろん、芥川賞・直木賞などの各賞の受賞・入賞・佳作作品、書店員さんによるお勧めの作品紹介など)、阿南中央図書館が紹介されていたので「この書籍を買いに来ました！」と申告したら、書籍の割引やポイントボーナス加算を行うなどの特典をおこなうのはどうでしょうか？
85	R7.10.29	電-62	那賀川	60代	貸し出しの出来る図書館であってほしい。	財政状の改革は必要だけど、貸し出しの出来る図書館であってほしい。	
86	R7.10.29	電-63	那賀川	50代		隔週ごとに借りに行っています。 近くに図書館があるのですごく助かっています。気軽に通えます。 那賀川図書館で本が借りることができなくなると阿南の図書館に行かなくなりそうです。 今はネットで買えるし 音声で本を聴くことができます。 でも私は本に囲まれた中で自分の興味惹かれる本を探し家で読むことが大好きです。 今まで通り、那賀川で本を借りたいです。	
87	R7.10.29	24	大野	50代	◎残してほしい機能 ①おはなしの部屋がある 子どもたちが靴を脱いで座れたり、ハイハイできるスペースで、不審者にも気が付きやすい開かれた場所。羽ノ浦図書館のように防音室も良いが、換気できればなお良い(コロナ禍では使用不可になった・日当たりが良すぎて5月から10月まではエアコンの効きが悪いので)那賀川図書館のように児童書コーナーの一角で一般書と離れた場所なら、声も気にならない。 ②自習コーナーがある 自ら学ぶ場所があることは、児童学生だけでなく生涯学習の場所ならではである。那賀川図書館のように自動販売機が設置され、一休みできるならなお良い。 ③郷土資料のコーナーがある 全世代において地元の歴史資料を気軽に閲覧できることは、阿南の地域を学び知ることが出来、愛着がわく一番の近道である。 ④貸出・返却・予約が出来る機能 ⑤探している資料を相談出来る機能 専門知識を持った司書さんがカウンターにいて欲しい。題名がわからなくても、探している本に出合える。季節の絵本、行事絵本、新刊コーナー等企画を考えた興味を引く展示の仕方をする職員がいる。	◎新たに欲しい機能 ①本の貸出の際に除菌できる機械の設置 ②リサイクル本の提供コーナー 図書館のリサイクル本だけでなく、市民からの寄贈本の提供コーナー ③児童書のコーナーに児童用の椅子や机はもちろんだが、やわらかい長いソファの設置 幼児が飽きてきても危険でない一休みできる場所があると、図書館嫌いにならない。ポップな色でわくわく感が高まる家具を置く。 ④市民の憩いのコーナー おしゃべりが出来、飲食ができるコーナーの設置。夏場は、クーリングシェルター、冬場は、ホットシェルターと自由に過ごせる場所の提供。自由に血圧が計れる機械の設置。夏場の猛暑時期の運動できる機械の設置。 ⑤羽ノ浦・那賀川図書館が図書機能を維持できなくなった場合のひまわり号の巡回 羽ノ浦図書館・那賀川図書館が読書テラス(閲覧のみで、予約や貸出業務が出来なくなった時)と変更の時には、おはなし会(羽ノ浦図書館は毎週土曜日午後・那賀川図書館は毎週日曜日午前中)に移動図書ひまわり号を巡回させ、予約・貸出・返却業務を行って欲しい。司書がひまわり号に同乗し、羽ノ浦・那賀川読書テラスの資料の貸出・返却も同時に行い、毎週土・日は図書館機能を再開出来る様にする。 ⑥おはなしの部屋の横に、遊びの部屋を設置して欲しい 阿南市内にはたくさん運動公園があり、気候の良い時期には三世代で楽しめる場所がある。しかし、近年のように猛暑時期が長くなると子どもたちが体を動かせる遊び場がない。室内運動が出来場所をおはなしの部屋の横に設置して欲しい。読書をする子どもと一緒に見守りが出来る様児童書コーナーに防音ガラスで仕切られている様にする。 ⑦賑わいの機能 市役所マルシェの様に、ひまわり号を巡回させる時間(おはなし会開催時・羽ノ浦図書館毎週土曜午後・那賀川図書館毎週日曜午前中)にマルシェを開き、賑わいつくりをする。読書に興味のない人の居場所つくりをする。コーラスクラブやダンスクラブのミニ発表会等、市民の企画を取り入れる。	
88	R7.11.1	電-64	羽ノ浦	40代	なにをもって図書のまちとするのか。誰もが気軽に本に触れ合える機会を増やす。それが図書のまちなのでは。本を借りるというのは、ただ事前に調べた本を借りるだけではありません。出会いが大事なのです。そこに本があり、いつでも借りて自分の家に持ち帰り、読むことができる。このサイクルを増やすことこそが目的でなければ、何をもって図書のまちと言えるのでしょうか。	図書館という機能がなくなることは考えられせんし、そんなことはあつてはいけません。羽ノ浦では、平惣羽ノ浦店も本屋ではなくなり町民が本に気軽に触れる機会が本当に少なくなっています。借りたい本を借りるには、調べるだけでなく出会いも大事だと自分は考えています。その場所にいけば多くの本と出会える。その環境を減らすことは、将来の羽ノ浦に住む子供への知的好奇心にも影響を与えると、私は確信しています。ぜひその様なことにならないよう、知恵を使い存続の方で進めて頂くよう、切に願ってやみません。	
89	R7.11.3	電-65	羽ノ浦	70代以上	みんなの図書館。 笑顔溢れる図書館。 生涯学習の場。 日常の学びと交流が何年も何年も積み重なって来ました。 そんな日常をつづけてください。	今のまま存続させて欲しい。もし、今のまま存続できないので有ればテラスになっても那賀川読書会羽ノ浦読書会は存続させて欲しい。 月一回です。 読書振興大会に、もっ力をそそいでほしい。 その時にマイクロバスを出して欲しい。 自己負担してもよい。 移動図書館ひまわり号で市内を回って欲しい。 同じ地域に月二回程度。 テラスになったら、各家庭で読まなくなった本を寄付して貰い図書の充実を図るようにしてはどうか！	那賀川図書館、羽ノ浦図書の庭園の整備は責任を持って、つづけてください！ よろしく願いいたします。 那賀川読書会 羽ノ浦読書会一同

90	R7.11.4	電-66	那賀川	60代	図書の街阿南と言う構想はいいと思います。 それであれば中心部に大きな図書館を1つに集約するのではなく那賀川図書館、羽ノ浦図書館も継続して図書館としての機能も持たせつつ阿南市民が気軽に図書館に通えるような仕組みを継続して作っていくのが良いと思います。 多くの市民が図書館に親しめる環境を整えるのが良いと思います。	両図書館にも司書を置いて図書館の機能を持たせてほしいです。 住民の利用しやすい場所であって欲しいです。	
91	R7.11.4	電-67	長生	40代	阿南中央図書館は多くの市民が集えるような場になってほしい。阿南中央図書館では現在、市役所や牛岐城跡公園などで行われている夕暮れマーケットなどを開催したり、様々なイベントが行えるような場所になってほしい。 また、近くには高校が3校もあり、阿南駅を利用している学生も多いと思うので、昔の阿南図書館には少なかった学習スペースを多く確保し、学生達の学びの場や憩いの場を設けてあげてほしい。 もちろん、図書館としての機能は充実させてほしい。	那賀川図書館は絵本が多くあり、庭の小川で子ども達が散策を楽しめているので、子どもの為の図書館として、絵本などに特化した図書館という中央図書館との差別化をはかり、存続させてはどうか。ギャラリーとして利用されている所では、それぞれの読み聞かせボランティアグループが日替わりで読み聞かせをしたり、子育ての広場として開放する。また木のおもちゃ美術館と連携し、出張おもちゃ美術館のような形で展示するなどしてはどうか。 羽ノ浦図書館は、ホールとして存続させ、今の市役所にある図書館カウンターの役割を移転し、残りのスペースは貸し出しスペースとして、イベントや会議など行える場に利用してはどうか。もしくは、ひまわり会館の役割を移転していく。	
92	R7.11.5	電-68	那賀川	40代	私は那賀川、羽ノ浦図書館をよく利用しています。 ただ、個室のようなスペースがないし時間もなく、自宅で静かに読みたいので本は借りて帰ります。 高齢者の方がいらっしゃるのは拝見しますが、ほとんど借りて帰る方が多いのではないのでしょうか？ 貸し出しの機能がなくなれば、利用なくなり図書館へ行く機会が減ると思います。	富岡町に新しい図書館ができて、那賀川町からわざわざ行かないと思います。今までどおりの運営で継続を希望します。	阿南には学生が集える場所がありません。 新しい図書館に自習室やカフェ、ゆったり本が読めるスペースがあればいいと思います。 映画館もないので、上映ホールも造って欲しいです。
93	R7.11.5	電-69	羽ノ浦	40代	読書テラス構想には、賛成します。	読書テラスになったとしても、貸出・返却・予約・取り寄せは可能にしてください。 (市役所の図書カウンターと同様の機能)	
94	R7.11.6	25	羽ノ浦	40代	地域に根づいていた図書館をなくさないでほしいです。特に自分で行くことのできない子供達にとって大切な場所です。	今のまま、それよりももっと使っていきたいと思っています。	羽ノ浦図書館をつづけてもらえるとうれしいです。
95	R7.11.7	26	那賀川	50代		図書の貸し出し機能について、明確では無いようです。図書の貸出機能を残すよう強く要望します。 図書館内は静かに読書や調べものをする場所です。子供の遊び場とは区別するべきです。子供の公共施設での過ごし方を学ばせる機会と思います。	
96	R7.11.6	電-70	那賀川	40代		人口が中心部に集まっているのは事実でしょうけど、富岡、那賀川、羽ノ浦に図書館が集まっているのはバランスがよいです。富岡に1つ新しく図書館ができるのであれば、那賀川と羽ノ浦は廃止し、ほかの身近な生活にお金を使ってほしいです。	
97	R7.11.6	電-71	羽ノ浦	60代	「図書のまち阿南」構想に関するご意見を募集します、ということですが、「広報あなん」10月号」(P3)記載の」と書かれているものの、こちらには「図書のまち阿南」構想とは、〇〇です、といった説明がありません。Q&A集をつけてくれるのはいいのですが、まず、概念や定義があって、それに対してQ&Aがあるものかと思います。 明確な構想の概念や定義が示されないものに対して意見を募集するのは非常に不可解な印象です。意見を募集するのであれば、こちらにもはっきりと構想の概念や定義を示してください。 その上で、「図書のまち阿南」構想の中心である「読書テラス」について。 図書館法に基づく公立図書館は、市民にとって学びと文化の中核であり、単なる読書スペースとは異なります。「読書テラス」となり、図書館法に基づく「図書館」ではなくなるとなれば、「本物の図書館」の役割が果たせず、市民にとって次のような不都合が生じます。 1. 図書館法で守られた市民の権利がなくなる 2. 市民代表によるチェック(図書館協議会)が届かなくなる 3. 司書配置の義務がなくなる 4. 蔵書や予算が削られやすくなる 5. 他館との相互貸借が難しくなる 6. 名称が変わり「本格的な図書館」と見なされなくなる 7. 安全・バリアフリー基準の優先順位が落ちる 那賀川・羽ノ浦図書館を図書館として残さずに、「読書テラス」となってしまった場合、これらの項目をどのように補完するのでしょうか。那賀川・羽ノ浦図書館が図書館でなくなれば、「図書のまち阿南」として、「図書文化を進化させる」ことは難しいと考えます。	両図書館を「図書館」として残した上で、中央図書館との3館連携を望みます。 那賀川・羽ノ浦地区は、阿南市の中でも人口、特に若年人口の多い地域に位置しており、図書館など、文化施設の充実は若い世代へのアピールポイントとなり、市人口減少に少しでも歯止めをかけられる可能性を秘めていると考えます。	読書機能を残すのみの「読書テラス」への変更は、進化ではなく退化です。あるいは、「読書テラス」へ格下げです。なぜなら、「読書テラス」となり「図書館」でなくなると、「図書館法」に規定されない、つまり、法的根拠のない、単に本の読める場所という位置づけになってしまうからです。 もし、「図書館法」から外れた「読書テラス」となった場合は、市の図書館条例に位置付けるか、新たに読書テラス条例を作って、「図書館」同等の扱いとしてください。 また、羽ノ浦図書館、那賀川図書館を廃止すれば、市で整えられている他のさまざまな計画、例えば、阿南市教育振興基本計画、阿南市子どもの読書活動推進計画や文科省のうたう、図書館の設置及び運営上の望ましい基準とも整合性が取れなくなります。さらに、市では、毎月第2土曜日を「家庭読書の日」と定めていますが、家読(家庭読書)の推進に支障をきたす恐れが濃厚です。 加えて、各地域の公民館に設置されていた図書室を集約する形で図書館が整備された経緯があります。「読書テラス」ネットワークを構築する、というのは耳障りの言いたい文句ですが、中央図書館建設にあたっては、図書館の集約統合といいながら、公民館図書室を復活させ図書の分散配置を行うのですか？ あるいは、今ある公民館の蔵書、多くはほこりをかぶっていつのものとも知れない本がたくさんあると思いますが、それらをすべて点検して刷新するのですか？ 財政が厳しいと言いつつ、多額の費用と人手が掛かるとされる内容になっているという、矛盾しか感じられません。 「図書のまち阿南」構想、「読書テラス」、「読書テラス」ネットワークと次々に耳障りの良い用語を並べられても、実態が見えてこず、他の計画などとの整合性も取れずでは、羽ノ浦図書館、那賀川図書館を廃止する妥当性が全く見当たりません。
98	R7.11.7	27	桑野	不明	多数の人々が本、読書に近くで楽しんでもらう為に廃止しないで下さい。(市民が悲しんでいます)		
99	R7.11.7	28	見能林	40代	「図書のまち」というのに、那賀川、羽ノ浦図書館の機能(貸し出し・司書)を外すというのが変です。変わりに、いろいろなものをくっつけようとして進化とする構想も変です。この構想をよく出してきたなあという感じです。	やはり、今までどおり、図書館として2館残してほしいです。	
100	R7.11.7	29	富岡	70代以上	構想のタイトルは、気軽にやってこれる図書館をともし「読書に」親しむ「まち阿南」という意味なのかと想像しますが、あらゆる印刷物を含む「本」という言葉ではなく、一定のページ数など限定的な『図書』という言葉を使っている意味がよくわかりません。 だれでも気軽に集まれる場所(図書館)建設ではなく、図書に親しみ、本を友にできる市民を育てる機能を持つことが、図書館が有効に活用される第一歩だと考えます。「知」や「知的好奇心」を育てる機能を持つ施設として阿南市民の誇りとできる図書館を構想してほしいです。	インドアスペースや透明なサークル室、コーヒーが飲める読書テラス、開架スペースの見直しなど、現在の図書館を細分、改装に経費をかけず、現状で素敵に活用できる方策を考えましょう。例えば庭のある那賀川は、こどもの本を。羽ノ浦では、文芸や作家の育成をテーマにするなど特化してはいかがでしょう。また、少なくとも建物を管理運営するスタッフを配置するのであれば、専門的な民間団体に委託し、市民とともに活用できるよう考えるのはいかがでしょう。	図書館とおしの貸し借りなど、他館へのアクセスを確保していただきたい。古い資料などをしっかり保管し、未来の人々に貢献できる図書館であり続けてください。構想の中に、これまで、図書館を中心に本に親しめるようお話会や作家の講演会、ワークショップなどの活動に尽力してきたボランティア、市民団体に言及されていないことは悲しいです。
101	R7.11.13	30	加茂谷	50代	気軽に行ける場所に	残してほしい	9:00～20:00まで開いてほしい
102	R7.11.13	31	羽ノ浦	40代		残して欲しい	もっと本に触れる機会の増えるようなイベント事をしてみては？ 本の種類を増やして欲しい
103	R7.11.13	32	加茂谷	40代		そのまま継続をお願いします。	

104	R7.11.13	33	羽ノ浦	18歳未満	自習スペースを多くしてほしい	そのままでもいい	
105	R7.11.13	34	羽ノ浦	18歳未満		なくさないでほしい	
106	R7.11.13	35	羽ノ浦	50代	公園や陸上できるグラウンドの側がいい	羽ノ浦に図書館は必要です	
107	R7.11.13	36	羽ノ浦	18歳未満		無くしてほしいです	
108	R7.11.13	37	加茂谷	60代		羽ノ浦図書館は残して下さい。	
109	R7.11.13	38	羽ノ浦	70代以上		残してほしい	
110	R7.11.13	39	桑野	50代			本とふれあえるイベントを増やしてほしい
111	R7.11.14	40	大野	70代以上		羽ノ浦図書館貸出し利用しています。たいへんありがたく思っています。こちらでの貸出しぜひ続けてもらいたと思います。	
112	R7.11.14	41	羽ノ浦	30代	阿南市公式ホームページの「図書のみち阿南」構想について皆さまのご意見を応募します」というページの「よくあるご質問(Q&A事例集)」の項に添付されたPDFファイル「図書ののみち阿南」構想に関するQ&A集」によると「人口減少が進む中、公共施設の再編に際し本市が管理する公共施設の保有量を縮減する取組が必要不可欠」(A3)とか、「公共施設等適正管理事業債の活用は新しい施設が供用されてから5年以内に集約化・複合化の対象となった施設(那賀川・羽ノ浦両図書館)を「廃止」することが前提」「集約化・複合化の対象となった機能を廃止する」(Q17、A17)とある。アホか。なんでこんな二者択一みたいな選択肢を突きつけられなければならないのか。「徳島南部道を作る代わりに那賀川橋を撤去します」とか言うか？「岩脇小学校を建て替える代わりに羽ノ浦小学校を廃校にします」とか言うか？「お父さんの病気を治す代わりにお母さんを追いだします」とか言うか？そんな理屈通る訳ないでしょ。「両方必要だ」で話は終わりですよ。本来は。図書館の時だけこんな論法が適用されようとしているのは、このアホ計画を推進している関係者たちの図書館というものに対する軽視と偏見、あるいは私怨、読書という概念に対する深い憎悪があるからだろう。なんで一部の人間たちの個人的感情で市民が不利益を被らなければならないのか。これはテロだ。テロリズムだ。生きてると嫌なことが沢山あるけれど、まさか近所の図書館がなくなるかどうかで頭を悩ませる日が来るとは思わなかった。原付バイク製造禁止といい、独身税といい、保険証廃止といい、猫の多頭飼いいいい、なんで私の周りの人たちは余計なことばかりするのだろうか。世の中で「必要」とされていることの七割くらいは実際は必要ではない。運動会とか新興宗教とか野球とか結婚とかカジノとか。将棋で言えば、取れる駒は後先考えずに全部取るみたいな子供将棋。そんなに元気が有り余っているなら道路陥没の調査でもしてれば？頼むからもう動くな。無駄な行動をするな。静かにしていて欲しい。6六角に対しては7五歩ではない。古代ギリシャの彫刻のように静かにしろ。	「Q25那賀川・羽ノ浦図書館を図書館として残すつもりはないのか」という質問に対して「読書テラスという新しい公共空間に進化させて参りたい」とか、「Q22那賀川図書館及び羽ノ浦図書館を単体の図書館機能にとどめるのではなく～」に対して「A22那賀川・羽ノ浦の「読書テラス」構想は、単体の読書機能にとどめるのではなく～」のように、なんか、いちいち「図書館」や「図書館機能」を「読書テラス」や「読書機能」に言い換えてくるのが腹立つし、シャクに障るし、鼻につくし、不穩。まるで「読書するスペースは提供するけど読む本は自前で用意してね」と言っているみたい。蔵書は失くちゃうんですか？「読書機能」なんて我が家のトイレにだってあるわ。必要なのは蔵書とそれを読めるサービスなんだ。それを図書館機能と言っとるんだ。しきりに「建物は残す建物は残す」とアピールしているが、一番重要なのは建物ではなく蔵書とそれを読ませてくれるサービスである。A4で「開架スペースを見直して」「空いたスペース」ができるなどとホザいてるな？開架スペース削減を「進化」と表現している点などは神経を疑う。それは「進化」ではなく「退化」「劣化」だ。実態を覆い隠すような表現を平然と使うなんて、どうせロクでもない企みがあるに違いない。1分でバレル嘘で人を騙そうなんて、一体どんな人生を送ったらそんなしょーもない人間になるのか？何が「読書テラス」という「新たな公共空間」として進化を図りたい」だ。髪の毛生え際が後退するのもケツにイボ痔ができるのも「進化」と表現するのか？嘘こけえ！絶対大枚はたいてアートネイチャー行くだろ！こういう3秒で馬脚を表す美名・美辞麗句で主権者をかどわかす政治屋こそが本当の日本の膿なのだ。国が国が国がお金を言うこと聞かなきや国がお金を出してくれないよ～とは言うが、別に外国じゃあるまいし、那賀川町民・羽ノ浦町民だって立派な日本国民なのに、なんで公金出させるのに身を切るような真似をしなければならないのか。肝臓を助けるために腎臓を売れ、そうしたら助けてやる、みたいな。本当にテロリストとかマフィア相手の交渉じゃないですか。那賀川・羽ノ浦両館を潰さないとどうしても国がお金を出してくれないというのなら、全額阿南市負担で建てればいいじゃないですか。阿南市だけで建てられるくらいの規模の施設で十分でしょう。阿南市だけで建てられない規模の図書館を望むくらいいじわるな国とマフィアみたいな取引をしなきゃいけないんでしょう？お金をかけないとマルチな機能が手に入らないということであればマルチな機能なんていりません。図書館に図書館以外の機能も持たせたいなどという願望を抱くのは、阿南南部に一館も図書館がないことを解決してからでしょう。上はカシミアセーター、下はパンツード。一点豪華主義なんですよ。なんとという貧相な「アイデア」「想い」か。どこが「最適化」なのか。何が「インドアパーク」だ。	大体、「阿南図書館」というのがおかしい。名前がおかしい。富岡にあるならそれは「富岡図書館」と呼ぶべきものだろう。正確には。この「図書ののみち阿南構想」とは阿南市の図書館を「富岡図書館」だけにしてしまおうという計画ということだ。だだっ広い阿南に富岡阿南駅近くに一件しかマトモな図書館がないなんて、そののどこが「阿南市全域において、市民がいつでも、誰でも気軽に集い、図書に親しみ学びあえる」町なのか？1分でバレル嘘。ハゲを隠す時でさえもうちょっと必死こいてバレンように隠すだろう。この計画の黒幕の本音は「那賀川や羽ノ浦みたいなへんびな田舎町には図書館なんて身の丈に合わない贅沢品だから取り上げてやる」「那賀川羽ノ浦の人間は本が読みたきや富岡まで来い、来れないなら開架スペースを削減した読書テラスで我慢しろ」ということだろう。彼は二重に過ちを犯している。田舎に充実した図書館が必要ないというのは差別だし、本が贅沢品というものも大きな間違いである。本とは教育の原資である。一体、教育以外の何をもって世界を守り、教育以外の何をもって世界を変えんというのか？教育以外の何が一人の人間を無知と蒙昧から救い出し、その人自身の世界を創造できるようにするとか？それが手慰みや贅沢や余裕のある者の特権といったようなものでないことは明らかではないか。本とは人間の生存に必要な不可欠な資源だ。開架スペース減って、またまた古典が割を食うのか。どうせ利用率に貢献してるからったマンガばかり残すんだろどうせ。図書館が古典と触れ合う機会を奪ってどうする。こういうことをしているから「未来志向でよりよいものにしていく」なんて言葉を臆面も無く使うような、異様に自己評価の高い空虚な現代人が育つのだ。
113	R7.11.13	電-72	市外	30代	図書のまちにしたいなら図書館廃止は間違っている。	完全な形で残すべき。富岡はプレハブの簡易なものでよい。	市政の富岡偏重に大変憤りを感じます。教育長は富岡出身ですよね？図書館や学校が富岡以外からなくなっても心が痛まないのですか？
114	R7.11.16	42	羽ノ浦	40代	新しいサービスを始めるのは良いことですが今あるサービスをやめることはしないでほしい。	羽ノ浦図書館で本が借りれなくなるようなことは止めてほしい。今、羽ノ浦図書館で本を借りている全員がづらい思いをすることになります。	本の数を減らすこともしないでほしい。なぜサービスの質を落とすのか意味がわからない。新しいサービスをするにしても、あたりまえのサービスがある上で全体サービス向上してほしい。
115	R7.11.16	43	羽ノ浦	40代	”本を借りられる場所”である図書館が中央図書館のみなら、たとえ羽ノ浦、那賀川に新機能が導入されるとしても本来の本を借りる機能がなくなるなら大反対です。	本を借りられる場所は、羽ノ浦、那賀川にも残してほしいです。羽ノ浦・那賀川を図書館(蔵書数を増やす、貸し出し機能を残す)として充実した上での他の機能導入でなければ、本末転倒だと思います。	
116	R7.11.16	44	羽ノ浦	18歳未満		羽ノ浦図書館の本をふやしてほしい。羽ノ浦図書館の本がかりられなくなるのをやめてほしい。	
117	R7.11.16	45	羽ノ浦	18歳未満		はのうらで本をへらさないでほしいです。本をたくさんかりたいです。羽ノ浦の本をふやしてほしいです。	
118	R7.11.16	46	羽ノ浦	18歳未満		はのうらでほんをかりたいです。ほんをへらさないでください。はのうらのほんをふやしてほしいです。	

119	R7.11.16	電-73	不明	不明	読書テラスという名称がショボい。軒先かベランダで本が読める場所が想起され、図書館とは似ても似つかない印象。名称を公募するかネーミングライツでもうちよっとグレードアップした名称にしてほしい。 構想は素晴らしいが、実現しようとするれば、相当な費用と人員が必要だと思われ、ただでさえお金がないから図書館をなくす補助金を使おうとしているのに、どこからそんなお金を調達してくるんだか？例えば、読書テラスネットワークということは、普通に考えて、中央図書館にICタグを導入するのなら、那賀川図書館および羽ノ浦図書館をはじめ、学校図書館、公民館図書室、その他、読書テラスネットワークに関わる施設全てにICタグを導入するということだと思うが、こういった基礎・基本的な内容が挙げられていないことからしても、構想を実現させようとする意思が全く感じられない。 実際、モデル的に何校かの学校図書館にシステムを導入したがICタグ仕様ではないと聞いた。 目眩ましのように構想を打ち上げるのではなく、もっと実効性があるプランとして十分に検討して現実的なものを出してほしい。そもそも阿南市立図書館の図書貸出冊数は全国的に見ても上位にランクインしており、今更、殊更に図書のまちと言わずとも、既に図書のまちとして成り立っており、図書のまちと打ち出したいのなら、もっと先進的で特異的な取り組みを盛り込むべき。図書館の成り立ちの歴史を十分に把握してない、構想のなかでネットワーク化される施設を普段使っていない者が描いた絵に見える。		
120	R7.11.18	電-74	羽ノ浦	30代	今のままでいい	既存の図書館をなくすのは止めてほしい 近場に図書館がなくなり、さらに本を読む機会が減る	
121	R7.11.18	47	羽ノ浦	40代	突然のことで知らないことが多すぎる。住民無視。次回の市長選または、住民投票で羽ノ浦図書館、那賀川図書館の存続の是非を問うべきではないか。阿南市長は市民に情報提供するべきである。	廃館は反対。中央館と分館(2館)、3館体制は維持。読書テラスは、貸出返却機能なし、司書なし単なる読書コーナーと聞いている。図書館法上の図書館存続で。両図書館建替時は分館1館統合2館体制はやむをえない。	図書館にブックシャワー導入して欲しい。図書館に読書手帳印字する機械を導入して欲しい。図書館の開館時間を21時まで延長して欲しい。図書館に独立した自習室の部屋を設置して欲しい。図書館入口に本盗難防止装置を導入して欲しい。図書館に自動貸出機を導入して欲しい。
122	R7.11.18	電-75	羽ノ浦	30代	図書館は今の時代に即した新しい形に変わるべきです。 最近の子供たちはネットやタブレットの普及で図書館に本を借りに行くことが減りました。また学校でもインターネットを利用した情報収集スキルを推進し始めています。 しかし、図書館は必要と考えているので1か所に集中し冊数を充実させることが合理的で時代に即していると思います。 同時に本を借りる際の距離の問題を解決する方法も考える必要があると思います。	昔ながらの図書館の継続ではなく実際の多くのニーズに合わせた新しい形に変えていく方がいいと思います。 ・学習塾にあるような個別の自習室の充実(サイズは広めが使い勝手がいいです。) ・フリーWi-Fiや自習室で使用するパソコンの貸し出し ・購読数の多い月刊誌や週刊誌等の充実。(その場で読めるだけでもいいです) ・借りたい本が中央図書館から予約輸送される仕組み ・ZOOMやライン電話で中央図書館の司書と会話できる仕組み	・中高生は広めデスクの自習室充実を一番希望してます。 ・小学生は学校図書の充実に予算を当てれば良いと思います。 ・自宅のネットで検索し司書との会話が必要なら会話し羽ノ浦や那賀川で受け取ることができるだけでもいいと思います。 (昔ながらの良さとITを掛け合わせ新しい仕組みを考え出す。)
123	R7.1.18	48	橘	60代	人口減少や少子高齢化が進行する中、公共施設のスクラップアンドビルドは当然である。デジタル化が進行し、義務教育施設である小中学校の大幅な再編を計画している阿南市が大規模な図書館を建設することは疑問である。豪華な市役所の二の舞になることは避けていただきたい。	新図書館を建設するのであれば、那賀川・羽ノ浦両図書館の存続には反対である(いずれかを阿南市唯一の図書館とするのはOK)。読書テラス等ではなく時代に即した新しい公共空間や民間への売却等の方向で検討していただきたい。両図書館の存続に向けた一部市民の意見があるが、市南部と比べて地理的条件等に恵まれた地域のエゴであると考え、適切な対応をしていただきたい。	現在の日本において典型的な既得権を持った人々の意見にとらわれることなく、適切な判断をしていただきたい。社会保障費が増大する中、今後の日本(特に地方)は以前のような右肩上がりの成長が困難であることを自覚し、身の丈にあった暮らしを選択えざるを得ないものであると考える。
124	R7.11.19	49	羽ノ浦	50代	「図書のまち」とすることに問題はないが、新しくつくる図書館は人口や市の財政にあうものにする方が良い。大きく様々な設備をつけても利用する人が住む規模でなければ、使われずに終わる。	図書館として貸し出しができれば意味がない。特に羽ノ浦は子供が多く、夏休みの宿題等にもよくかっている。妊婦や小さい子供連れも、借りることができれば利用できないし、近くなれば子供も若い世代も行けない。	我が家は子育てを前に阿南市外から引っ越してきたが、羽ノ浦は交通の便も良く、駅や学校、図書館や大きい病院がコンパクトにまとまっていて、住み良いと感じたから。病院もなく、本をかえる書店もなくなり、この上図書館もなくなると「図書のまち阿南」からはほど遠い。次世代は羽ノ浦(阿南市)から出ても仕方ないかもしれない。
125	R7.11.19	電-76	富岡	30代	はこらいふ図書館ぐらい蔵書数を増やしてほしい 乳児から幅広い年齢を対象とした室内遊具の充実	富岡地区まで来れない方のためにあった方が良くと思う 移動図書館だけでは頻度も本の種類も少ないと思う	
126	R7.11.19	電-77	富岡	30代	絵本専門図書コーナー 児童書と一般書の階数分離または音が気にならないように透明の壁などで分離 学習スペースの拡大 屋内遊具の充実 蔵書数の拡大 読書記録通帳	存続希望	
127	R7.11.21	50	那賀川	70代以上	私が若い頃は、子供や老人も、図書館に遊びに行き、本や雑誌などいこいの場になっていました。今では文字離れが進みすぎて、活字を読み書きすることが少ないと思います。AIにたよらない、手作りの阿南に願います。	地域の学びの場所として有効に活用する。図書館機能だけでなく、さまざまな教育の為に、那賀川や羽ノ浦を最大限に使う。	経済を優先すると未来の社会をになう子ども達が育たず結局経済もひへいします。
128	R7.11.22	51	那賀川	70代以上		このまま残してほしい！	

129	R7.11.22	52	那賀川	不明		1:読書テラスのイメージから読書機能に限定され、本の貸し出しができず調べ物や予約・リクエスト、司書の相談等の機能が失われるのでは無いかと強い懸念を抱いています。 2:貸し出しが出来なくなると、利用者は新しく出来る中央図書館まで行かなければならない。これは交通手段がない人や高齢者にとっては大きい負担であり、地域間の格差が生まれる。 3:貸し出しが出来ない場合の問題点 ①自宅でゆっくり読みたい、何日もかけて熟読したい、というニーズに応じられない。 ②長編や専門書などの利用では限界がある。 ③多くの人にとっては「図書館＝本を借りる場所」という認識があり、その基本的な役割を放棄することへの強い抵抗感があります。従って本の貸し出し機能は残してほしい。 4:本の貸し出しが出来ない場合は移動図書館の採用をお願い致します。 5:司書の相談についてはAI(人工知能)を活用すれば良い。(司書を置く義務はない)Wi-Fiの設置をお願いします。 6:図書館は本の貸し出しだけでなく、地域住民の交流や学習の場という側面を担っている。すなわち「お話会」などの活動は、子供達の健全な育成に欠かせない場であり、また高齢者や住民同士の世代を超えた場となっている。現在的那賀川図書館は子供連れが他の利用者に気兼ねなく利用できる環境が不十分なので、子供連れスペース(音のゾーニングを取り入れる)の設置をお願いします。 7:静かに本と向き合える贅沢な時間と美味しい飲食による心地よさをもたらす読書カフェの設置をお願いします。(テラス席があるカフェは読書に最適な環境です)設置できない場合はコーヒーの自動販売機を設置し飲食スペースの設置をお願いします。理由はコーヒーの香りでリラックスでき読書をより豊かなものにでき長時間の読書に適しておりストレスの軽減になるので。(屋外スペースを設ける) 8:徳島市立図書館6階テラスの様な景観を眺めながらリラックスして読書を楽しめるような魅力あるようにしてほしい。 9:読書機会の損失を補うため電子書籍サービス導入の検討をお願いします。 10:既存の施設の機能を維持し、中央図書館との連携強化に費用を充てるなど、より住民に寄り添って欲しい。	
130	R7.11.22	電-78	宝田	40代	富岡周辺に新図書を建設する事は反対ではありませんが、羽ノ浦図書館や那賀川図書館の運営に影響を与える国の補助金をあてにするのではなく、身の丈にあったものを建設するように計画を見直してほしい。 規模の大きいものを建設する際、建設費高騰や予期しない対策費等で建設費が倍にならないか不安である。 図書のまち阿南構想については、説明会に参加したが、何がしたいのか全くわからなかった。 資料では司書職員配置について一切書かれていない事もあり。市民への情報公開として不十分なものを感じます。	人口が増えている地域です。縮小ではなく充実を求めます。 図書館法に基づく図書館として市直営の司書配置など維持継続を求めます。 説明会に参加しましたが、不安が増しました。	人口減少を理由とした公共施設集約を前提とする国の補助金に問題があると考えます。請願に取り組みます。
131	R7.11.22	電-79	羽ノ浦	40代	那賀川地区と羽ノ浦地区のサービスを低下させてまで、阿南駅周辺地域のみサービスを向上させるように感じます。 阿南市民全員が平等にサービスを受けられるように配慮してほしい。	今できることをできなくするような改悪はやめてほしい。 例えば、本の数を減らす・借り出しできないようにする等。 市中心部以外の市民サービスは低下しても良いという考えが見えるので賛同できない。	
132	R7.11.23	電-80	那賀川	30代	率直に申し上げますと、元の図書館を何十年と放置しておいて今更同じ場所にというのは利用が見込めるの？と思いました。 資料を拝見したのですが、図書館利用率15%との事ですが、その内利用者の年齢層はどうなっているのでしょうか？ もし利用者が高齢層が多いのであれば、駅付近に作ったとして今まで近から来ていたという方々は来なくなり、利用率というものは下がるのでは？とは感じました。	出来れば両館共に縮小したとしても貸し出しサービスは残して欲しいです。 本はあれども借りられないのは、市の提案している室内遊具スペースがある状態でゆっくり本が読めるとは思えず、どっちつかずのなんの建物なのかが分からなくなっていく未来しか見えないためです。 今、両館を利用している人は、近いから・身近に図書館で色々な本が貸し出し出来るから来ていると思います。 図書館として残して下さる気持ちがあるのなら、どうか室内遊具スペースでは無く、絵本などをゆったり読めるスペース・気に入ったらその場で借りらる貸し出しサービス(有人が難しいのであれば無人貸し出し)・探せるレファレンスサービスの無人化なども検討いただきたいです。	
133	R7.11.23	電-81	宝田	50代	新しい図書館の建物の内容が、豪華過ぎないのかと思います。巨額の建設費用を節約してはいかがでしょうか？	那賀川図書館、羽ノ浦図書館の司書が居なくなる可能性があるかと聴きました。しかし、司書が居ない図書室は図書館ではありません。サービス低下になります。 羽ノ浦、那賀川の利用者の不利益にならないようによく考えて欲しい	
134	R7.11.23	53	羽ノ浦	60代		廃止しないで下さい	
135	R7.11.23	54	羽ノ浦	70代以上	阿南市民に声かけし、蔵書を増やす努力をして欲しい	羽ノ浦・那賀川を図書館として絶対残して欲しい	阿南だけになると通うことはできない 羽ノ浦は人口(若い人)が増えている 読書は楽しみ
136	R7.11.26	55	羽ノ浦	70代以上	富岡西・東高校、光高校も市内にある阿南市に図書館はもっと多く存在しても良いと思います。「図書のまち阿南」大賛成！	既存の図書館を活用出来ないのは退化、文化の衰退です。有ってはならない事です。	はじめに、箱物、予算ありきで、地域住民の意見無視にしか見えません。「阿南中央図書館(仮称)」反対します。
137	R7.11.26	56	長生	70代以上		そのまま続行。この2つをなくすことは那賀川町・羽ノ浦町に失礼	もし、1つにするなら那賀川町を残して欲しい。理由は近くに線路がないから。
138	R7.11.26	57	中野島	70代以上	図書館は阿南市の知識教養の宝庫で、新しく出来ることは素晴らしいです。沢山の書籍を入れて下さい。	残して頂いて、憩いの場と、身近な知識の宝庫として使いたいと期待しています。	市民の多くの方々がより多く学び、知的楽しみを味わいたいと思います。
139	R7.11.26	58	長生	70代以上	必要はないと思います。		
140	R7.11.26	59	長生	70代以上	那賀川・羽ノ浦が新たな型で残るのであればいいと思う。	今までにない様な、図書館が出来るのであれば、又なんらかの型で残るのであればいいと思う。	
141	R7.11.26	60	長生	70代以上	1ヶ所で良い	廃止	
142	R7.11.26	61	長生	70代以上	概ね賛成です。図書館は1か所に集中し、充実させた方がいい。	概ね賛成です。	

143	R7.11.27	62	桑野	70代以上	構想の内容がよくわからない。読書テラスとはどんなものですか？阿南図書館のみ設備がすばらしくなくても、他の図書館が住民が利用しにくいものになってはならないと考えます	図書館の機能は残し、幅広い世代が気軽に利用できるようになってほしい。那賀川図書館はとても広くステキな庭があるが子どもたちが遊んでいる姿がほとんど見かけない。幼児や親子で安全に遊べる遊具を設置したりしたら、図書館に親しむ機会がふえるのではないか。少数でおはなし会や読書会として利用できる部屋があれば良いと思う	
144	R7.11.27	63	羽ノ浦	70代以上	11月23日、「図書のみち阿南」構想の推進についての市民説明会に参加しました。（羽ノ浦情報文化センター）さまざまな意見・要望がありました。多くは、羽ノ浦図書館・那賀川図書館の存続、身の丈にあった阿南中央図書館（仮称）建設であったと思います。疑問に感じたのは、令和5年10月の阿南市立新図書館基本計画から、令和7年3月阿南中央図書館（仮称）整備計画、令和7年9月「図書のみち阿南」構想へと、三館共存→一館集約へと大きく舵が切られています。阿南市立図書館基本計画前には、有志市民50名余りが那賀川図書館市役所内で意見交換会3回、市役所1階ロビーでの市長・有識者3名による公開のトークショーも行われました。その中では、羽ノ浦図書館・那賀川図書館の廃止については1ミリの話もありませんでした。一市民として思いますと、将来に向かっての両図書館の維持・管理費の負担もありますが、塩漬けにされている「100億円」問題が大きく影響しているのではないですか。阿南中央図書館（仮称）建設は『今』ではなく、100億円の責任の所在・解決を図った『後』に考えるべきだと思います。市職員から、テラスは縁側をイメージしているとお話がありましたが、市役所内の図書コーナーを充実・拡大し、阿南市役所の縁側として多くの市民の皆様にご利用していただいたらどうでしょうか。（1階・2階本館前スペース利用）今回の羽ノ浦図書館廃止については、羽ノ浦小学校・くすみ保育所の建て替え問題・公民館スペースの縮小など、羽ノ浦町内に閉塞感を増幅させています。阿南市教育委員会の皆様には、市民の意見を基に具体案を取りまとめ、再度の市民説明会をお願いします。		
145	R7.11.27	64	羽ノ浦	70代以上	現計画は致命的な欠陥がある。市民（羽ノ浦・那賀川）の利便性を大きく損なう。駅前の活性化と言うが、私達は阿南の中央図書館には100％行かない。子供達、孫達も自転車では絶対行けない。	羽ノ浦は小学生がどこよりも多いのに、子供が必要な図書館をなくすのは、納得いかない。存続して、現施設を充実させる事が肝要	岩佐市長が出席されていないのはおかしい。図書館の老朽化も話していたが、コスモホールの老朽化よりも羽ノ浦小学校の建て直しを一刻も早く検討するべき
146	R7.11.28	65	羽ノ浦	60代	阿南中央図書館の規模を縮小し、国からの寄付金を羽ノ浦・那賀川図書館を維持するために使って欲しい	現状維持をして欲しい 新しい公共空間は要らない	次世代をになう子供達の為に図書館は残すべきだと思う
147	R7.11.28	66	羽ノ浦	50代	「読書テラス」というのがよくわかりません。貸出できない自習スペースだけならば、「図書のみち阿南」とは言えないと思う。	羽ノ浦図書館を毎月利用しています。ぜひ現在の蔵書、貸出を継続していただきたいです。	阿南の中心部に一極集中の形になると、交通弱者の高齢者や子供たちは本のある生活から離れてしまうことになると思います。ぜひ羽ノ浦、那賀川図書館の蔵書、貸出の存続をお願いします。
148	R7.11.28	67	羽ノ浦	70代以上		今まで通りで	
149	R7.11.28	68	羽ノ浦	18歳～20代		那賀川、羽ノ浦の存続を強く希望します	
150	R7.11.28	69	羽ノ浦	70代以上		現状維持をお願いします。	
151	R7.11.28	70	富岡	70代以上	「読書テラス」という一見キャッチーな言葉が、「読むだけの場」を想起させ、今回の構想から受ける不安の元凶です。本と地域の方をつなぐ活動を地道に続けてきた市民ボランティアについて言及がありません。市民参画についてどのように方針なのでしょう。構想には市民団体の代わりに地元書店という営利団体が前面に出ています。今後民間委託での運営を想定しているのでしょうか。	インドアスペースは不要です。改装に余分な経費は使わないで	「阿南の中央にふさわしい『中央図書館』という言葉を数回使われていました。富岡周辺に建てれば近くに住む私は大きな恩恵を受けますが、2館の不安や、不便の上に開館するのでは、素直に喜ぶことができません。「脈々と受け継がれてきた図書館の構想」ともおっしゃっていました。財政状況が悪化したのであれば、受け継いできたという理由だけで、継続することは理解出来ません。今の財政、人口等の状況で何ができるのか示してほしい。
152	R7.11.28	71	新野	不明	那賀川・羽ノ浦両図書館を図書館法に基づく図書館として存続すること。新図書館是那賀川・羽ノ浦両図書館を対等・並立の施設として市の人口動向や財政事情などの身の丈に合った規模で建設すること。3図書館は常勤の正規任用の司書配置を基本とすること。業務に従事する会計年度任用職員の雇用を継続すること。また司書資格を援助すること。3図書館は指定管理者制度や民間委託ではなく、すべての業務を直営とすること。経験豊富で見識の高い司書有資格者を図書館長や副館長とすること。新図書館に北条民雄や佃寛夫ら郷土資料コーナーを設けること。ひまわり会館をにぎわいと交流の場の一部として活用すればいいのではないかと保健センターが引っ越して以来、かつてのオフィスと相談室が未活用となっている。学校図書館に司書を配置し蔵書など内容を充実すること。また3図書館の団体貸出を活用すること。公民館図書室は古い図書が死蔵されたまま、ほとんど利用されていないのでは。まず図書の新陳代謝が必要である。図書室を他の用途に使われないよう、図書に陽が当たらないよう、各公民館を指導すること。全国紙やこども新聞を置くなど、平日は高齢者等、長期休暇や休日は児童・生徒が利用しやすい空間にすること。司書にアドバイスをもらうなどし、数カ所の公民館をモデルケースとするのもいい。公民館図書室を改善することはできるのではないかと。	那賀川・羽ノ浦両図書館を図書館法に基づく図書館として存続すること。両図書館とも常勤の正規司書配置を基本とすること。業務に従事する会計年度任用職員の雇用を継続すること。また司書資格取得を援助すること。両図書館は形骸化、縮小することなく、また指定管理者制度や民間委託ではなく、すべての業務を直営とすること。阿波公方の苑の一部を子どもが自由に遊べる空間とすること。	「広報あなん」5月号「阿南中央図書館（仮称）整備計画」が確定したとの記事をつうじて、市サイトの「整備計画」をつぶさに読んだ市民はごく少ないと思う。また私の確認した限り、市議会会議録では6月議会の星加議員の質問で両図書館廃止云々が初めて議論されている。本来は「整備計画」確定以前に市民に提案すべきだった。市の言う「有利な財源」の要件に「供用開始後5年以内の廃止」があることを当然、議員には予算提案時に十分説明すべきだった。「図書のみち阿南」構想に至る過程に手続き民主主義に問題があったと思う。意見公募があとわずかとなって市民説明会がようやく開催された。長期にわたるプロジェクトはもっともっと十分に市民の意見を聴取すべきである。意見公募期限を延長してほしい。
153	R7.11.28	72	那賀川	70代以上	新しい時代へと図書文化を進化させ、阿南市の歴史、文化、教育、人材育成や人々の暮らしを豊かにしてくれる事業と期待します。また、現在までそれを担ってきた数々の施策（那賀川図書館、羽ノ浦図書館、公民館等）がその特性を活かし、有機的に繋がれば、新図書館集中に偏らず地域（那賀川町、羽ノ浦町など）ならではの活動が生まれ、阿南市全体にとって大変有益だと思います。また、「市民がいつでも、誰でも、気軽に集い、図書を楽しみ、学び合える」と言ったイメージは健康なコミュニティの場となり、人としての幸せな営みを分かち合えるきっかけとなっていくのではないかととも思います。	それぞれの施設が有機的に繋がり、地域性や施設設備が活かされ新たな活動が展開できたらと考えました。那賀川図書館の活かし方として①那賀川図書館は広々とゆったりと落ち着ける図書室、ギャラリー、会議室、視聴覚室に、広い庭園。学びの場として十分な施設です。それから、阿南には優れた技術や豊かな経験をお持ちの方がたくさん住んでおられます。図書だけではないです。人材の宝庫です。そこで「寺子屋あなん」として、知識、情報、先人の知恵を学べる場と機会を創り、多世代の交流から発展して、新たな文化伝承が出来るのではないかと思います。《寺子屋の内容》目的…様々な師匠に出会える場を提供し、学びのきっかけを創る。塾とは違う。内容…「育てたい、伝えたい、役に立ちたい」有志からの意見、「知りたい、学びたい、やってみたい」有志からの意見から具体的に何が出来るか？が決まっていく。②那賀川平野収穫祭として出店を募り、広い園庭で古本祭りをする。譲れる本を出し合って交流する。	

154	R7.11.27	電-82	椿	50代	子どもが小さい頃は、よく阿南図書館で本を借りて読み聞かせていたが、阿南図書館がなくなってからは、距離が遠いこともあり図書館に行っていない。 建設予定の阿南駅周辺に図書館ができれば、買い物ついでに是非立ち寄ってみたい。 公民館などの身近な場所で、本を借りられると、ますます便利になります。	図書館廃止が、新図書館の補助金をもらうための条件になっているのであれば、機能縮小は仕方ないと思います。 阿南市の人口で、図書館が3館も必要ないと思います。	
155	R7.11.28	電-83	見能林	50代	図書カウンターだけでも十分かと	必要ないと思います	
156	R7.11.28	電-84	新野	50代	阿南にこれ以上図書館はいりますか？ 市民の何パーセントが利用しているのか？数パーセントの方のために多額の税金を使うのはもったいないと思います。	羽ノ浦図書館または那賀川図書館だけで(図書館1つだけ)いいのではないのでしょうか。	
157	R7.11.28	電-85	羽ノ浦	30代	「図書のまち阿南」などと名前を変えずに、今のまま、司書さんを置いた図書館を継続してください。	今のままで、何も問題無いのではないのでしょうか。利用者としては、そう感じています。存続危機があるのなら、なぜ危機があるのか、広報などで具体的に説明していただきたいです。現状維持を末長く続けるための方法を、考えて欲しいです。	ブックスタートで赤ちゃんの時に阿南市からいただいた本を大切に読み聞かせ、うちの子供は大きくなりました。のちに最寄りの羽ノ浦図書館に通い、司書さんを好きになり、その方が異動したあとも、その方がどこにいるのか探すほどでした。本が好きで、まちの司書さんが好きで育ち、文教区で良いまちに住めたなあ、良かったなあと安心していた矢先、このような存続危機に遭い、子供も私も、不安でいっぱいです。中央図書館に司書さんを集約せずとも、どうにか今の状態を、存続できないものでしょうか。市長さんは羽ノ浦町にお住まいで、羽ノ浦町の人口増加やその様子を、肌身を持って実感されていると思っていただけに、このような案があがっていたこと自体に、落胆しています。どうかこのまま、この先にどう今の環境を残していけるかを、考えていただきたいです。羽ノ浦町はまだ、住宅が増えています。子供もしばらくは、減らないでしょう。どうか、よろしくお願いします。
158	R7.11.28	電-86	羽ノ浦	60代	よくわからないので説明会にも参加したが、更にわからなくなってしまった。 真面目に考えると、十四町村に何をもたらしたいのか、コンセプトが…と言うのか、目的がわからないので、取りつくしまもない感がある。	図書館法に基づく図書館として運営して頂きたい。 特に、 那賀川図書館は、更に蔵書を充実させて、全国に誇る図書館として、美しさと共に、発展維持を望む。 羽ノ浦は現状維持でも結構です。	他町村、特に、元々あった富岡に私達の図書館を代表する機能を持ち、県内の市や全国の市図書館との繋がりを持てる充実した図書館の建設を望んでいたが、7月を開けてみると、多機能型で羽ノ浦那賀川図書館の図書館機能は廃止という話で、そんな乱暴な…と本当に驚いた。 図書のまち阿南に何を求めるのか。 「図書」なら、当然、公的専門機関である図書館を増やす方向、学校図書館の手入れを含め、子どもからお年寄りまで、老若男女身近に図書に触れ合える環境作り、司書さんの充実は欠かせない要件になると思う。 多機能と言うなら、夢ホール近辺に、夢ホールとの統廃合という事で、ミュージアムパーク…言っていてよくわからないのですが…的に遠大な構想？を実現される方向はいかがかと思う。 単に、図書であるなら、普通に図書館機能に特化して、全国と連携の取れる連立図書館は、本好き、読書が趣味と言ってはばからなかった者としては、憧れる気持ちがあるし、尚、公民館図書室の充実、学校図書館の本格的運用によって、図書が生涯全ての人に開かれた文化的生活環境となるとすれば、この上もなく結構なことで、そこまで手厚い町になるとすれば、生きがいもあろうというものだ。 どちらかと言えば、マイナ、暗い、趣味的、しかし、文化として決して失くすわけにはいかない、この、人類の知的、芸術的財産、人間の善きもの、美の現れとも言える図書文化、在るだけで人生に寄り添いあらゆる側面に添う可能性を含むこの潜在的に汎用可能な有用な施設に目を向けて下さったことは、マイナに甘んじてきた読書民としては、歓迎すべき発展。 3館と言わず、14町村に図書が行き届いてこそ、その効果が目に見える未来をもたらすことでしょう。 この様な願いをできる機会はまたとありません。 是非とも、予算を付けて頂き、司書さんの人数、正規雇用を増やし、図書館を増やして下さい。

159	R7.11.29	電-87	那賀川	70代以上	<p>「図書のみち阿南」という大きなキャッチフレーズは、現存の那賀川図書館、羽ノ浦図書館に新しい阿南中央図書館(仮称)を加えての三つの図書館が連携、機能し、利用されてこそ実現可能です。</p> <p>9月に発表された構想は、図書館の理念からは、かけ離れたものと思わざるを得ません。「那賀川・羽ノ浦両図書館の進化」とうたわれていますが、図書館利用者からみれば明らかに退化です。「財源確保」最優先の構想としか思えません。</p> <p>「財源確保」が大切なことは、充分理解できますが、そのために「那賀川・羽ノ浦両図書館」が見殺しにされるのはたまりません。「読書テラス」などという図書館ではない施設になることは、決して「進化」とはいえません。「名は体を表す」の言葉通り、図書館という名称で老若男女誰しも実体を認識できます。</p> <p>図書館は身近にほしい施設ですが、一つの地域が「図書館」の恩恵に浴するのは並大抵のことではないことを、改めて思い返して頂きたいです。</p> <p>合併前の那賀川町の場合も、阿南市立図書館は当然利用できず、県立図書館も当時は徳島中央公園内にあり遠方でした。そこで子育て中に絵本をいっぱい読んであげたいと思い始めた親たちが、町長さんや議員さんたちに相談して、署名を集めました。先進地の図書館も見学して、町立図書館の設立を要望しました。それが聞き届けられて起債も叶い、りっぱな施設と多くの蔵書、そして先覚的に藍住町立図書館長を務められていた棚橋満雄氏が迎えられました。図書館界では全国ににも著名な棚橋館長の下、画期的な図書館として町民も様々なボランティアグループをつくって活動しました。我が町の図書館がより周知され、親しまれ、利用されることを願い続けました。各方面からも注目される図書館となりました。そうして30年あまり、地域にとってはなくてはならない図書館に育ってきたと確信しています。</p> <p>せっかく育って根付いた図書館の価値は計り知れません。どれほどの財源で肩代わりできるでしょうか。</p> <p>「財源確保」を見直して頂き、孫子の代まで「読書テラス」ではなく図書館の名称を使わせてください。</p>	<p>現在の規模が縮小するのはやむを得ませんが、あくまで蔵書が借りられ、他の図書館の蔵書も予約し受けとれる機能、司書、レファレンスサービスがある図書館であり続けてほしいです。やがて各機能もAIにまかせられるかも知れませんが、人が働いてくれる部分はあってほしいです。ボランティアとして協力出来る余地があれば、住民参加も進むと思います。</p>	<p>新しい図書館のためのシステムの検討が進められているようですが、その計画の中に那賀川、羽ノ浦図書館とも連携できる方策を入れることを御願いします。決まってからでは、変更が困難でしょうから、現段階から余地をつくっておいてほしいです。専門的なことは何もわからないので、知見を結集して計画を進めてくださることを期待します。</p> <p>これからの新しい「図書館」について精通した方のご意見など広く求めて、新たな構想を練って下さることを切に御願いします。</p>
160	R7.11.29	電-88	那賀川	40代	<p>「図書のみち阿南」構想自体は素晴らしいと思います。現図書館を中心としたネットワークはすでにできていて、それに追加して、図書館が近くでない地域に対して、地元公民館での図書と人の充実が加わることに期待したいです。</p> <p>ただ、那賀川、羽ノ浦図書館がなくなるとは、このネットワークは大きく崩れ、それをカバーする手立ては見つからないと感じます。</p> <p>現状のまま両図書館があることで、構想は充実していくことになるのではないのでしょうか。また、この機会に移動図書館車を増やしたり、学校図書館の充実が構想に沿うと思います。</p>	<p>阿南市に図書館は1館では不便です。図書のみち阿南を打ち出すなら、図書館を減らすよりむしろ増やす方向性であるべきです。那賀川、羽ノ浦図書館は今のまま存続してください。</p> <p>以前のように阿南、那賀川、羽ノ浦と3館体制がいいです。新図書館を中央図書館と位置付けることに決定しているなら、せめて那賀川、羽ノ浦図書館は分館として地域の図書館で存続してください。</p> <p>私が小学生低学年時に那賀川図書館が開館し、近くにあるのが当たり前で今まで過ごしてきました。今は親として、こどもと図書館を利用しています。こどもが小さい時は庭で遊んだり、館内で絵本を探したりお話会やイベントに参加したり、絵本作家さんの講演も聴けた近くで文化を感じられます。子どもが「図書館に行ってくる」と言うと安心して行かせられる場所です。</p> <p>これからも当たり前前に生活の中にあり、安全で安心して過ごせる施設、何世代も利用できる場所は地域に必要です。</p> <p>まだ十分使用できる建物ですし、縮小はやむを得ないでしょうが図書館として存続を希望します。</p>	<p>「読書テラス」というネーミングに違和感があります。</p> <p>読書テラスとは？どんな施設なのか曖昧です。</p>
161	R7.11.30	電-89	那賀川	40代	<p>キッズコーナーを計画いただいているとうかがいしたので、よければ一度画像検索等していただければ幸いです。</p> <p>ピノキースパティオ丸亀店というゲームセンターに人工芝を敷き詰めたキッズコーナーがあります。</p> <p>靴を脱いで遊ぶコーナーで、主な遊具は発泡スチロールの大きなブロック等と壁にプロジェクターでアニメを流していました。</p> <p>柵に沿って、大人が見守れる長椅子が設置されていて、荷物は椅子の下に収納できる感じでスッキリしておりました。</p> <p>フリーコーナーで在中スタッフもおらず、シンプルですが、子どもはいつまでも居たがります。</p> <p>ブロックで城を作り、乗り物を作り、走り回ります。</p> <p>ベビーコーナーもあり、柔らかな柵があるので、赤ちゃんも一安心に思えます。</p> <p>いろんな室内遊具を検討させていただいているかと思いますが、子どもの想像力をくすぐるキッズコーナーもご検討いただけると嬉しいです。</p> <p>ほか室内遊具ですと、めんたいパークも子どもはウキウキでした。</p>	<p>図書館の利用は距離だと考えますので、貸出機能はどうか継続していただきたいです。</p> <p>財政等、厳しい状況は理解しておりますが、即効性はなかなかむづかしいですが、どうか未来への投資を続けていただきたいです。</p> <p>昨年、図書館のない地域から那賀川町に引っ越ししました。</p> <p>ブックスタートをきっかけに登録はさせていただいておりましたが、数年で1桁という恥ずかしい貸出実績でした。</p> <p>ですが、図書館が近くにあると月40冊程度お世話になるようになりました。ほぼ絵本ですが、少しずつ大人の本もお借りするようになってきております。</p> <p>今では生活の一部となっております。</p> <p>逆に、図書館のある地域からない地域に引っ越しした方は、あんなに行っていたのにすっかり行けないと言っていました。</p> <p>行きたい気持ちがあっても、物流的距離は子どもと一緒にだより大きく作用するように感じます。</p>	

162	R7.11.30	電-90	桑野	60代	市役所の二階にある仮設の読書コーナーにはほとんど人が来てません。あれはどうしてなんでしょうか。新図書館もあれぐらいしか利用されないのだったら、新図書館を建てても仕方がないですね。新しい図書館はコミュニティーセンターとして、街の中核施設になってもらわないといけません。単に蔵書数をそこそこに確保するというだけでは意味がないと思います。今とりあえず建設しても、十分な床面積も無ければ、いい加減にもなり、いつか将来、阿南市にふさわしい真の図書館が必要になります。その時、建ててしまった施設は規模の大きい新図書館の構成に再利用できないでしょうから、その処理が問題になります。結局お金を無駄にすることになるとおもいます。また、逼迫した予算では、図書館運営や周りの都市計画的な整備は後回しになり、かつての箱もの行政を踏襲することになります。設計と建設をフェイズに分けることも考えられますが、将来の見通しがつかない限りはかなり危険でしょう。敷地が無くなったり、とりあえず作ったものが後で足かせとなります。充分なお金が貯まるまで待ったらどうでしょうか。それまでの間、市役所と那賀川・羽ノ浦図書館、移動図書館を高機能にして、有機的に連帯すれば市の図書館機能が継続するように頑張れるのではないのでしょうか。さらに、ほかの既存施設も分館として動員できないでしょうか？ ソフトの改良もあり得るかもしれません。席数を満たさないと建設の意味がない県の新ホール計画とは異なって、しばしの間、分館システムで行けるんじゃないかと思います。慌てて作ってしまって、負の遺産を作るのだけは避けてほしいとおもいます。		
163	R7.11.30	電-91	羽ノ浦	70代以上		地域住民にとっての身近に本がある生活、徒歩自転車を通える図書館を失くさないでほしい。紙媒体でページをめくり絵や文字を目で追い本の香りを感じて楽しむ事の出来る場所、子供達の情緒的成長を培い読書習慣の形成に必要な場所としてあるべき所です。”図書館”が普段意識なくともそこに在る事に意義がある。どうか智恵を絞って存続させる道を探して下さいお願いします。力を貸したいと思う人は沢山いると思います”マンパワー’を活かす体制を整えられるよう考えて下さい。よろしくお願いします。	
164	R7.11.28	73	不明	不明	素晴らしい構想だと思います。本来であれば、市長をはじめ、ご尽力された議員さんたちが来られて、答弁者の側に立ちキラキラした阿南の未来を語りつつ成果を誇る場であると思いますが、実際には担当者、阿南市教育委員会の方が答弁されていました。これでは、迷惑施設建設のための市民説明会で壁役として市の職員を派遣した、そんな構図に見えてしまうのが残念でした。市長が胸を張って進める事業であることを市民にアピールする場でもあると思うので、市長が来られなかった、忙しくても文書で参加してもらいたかったです。 阿南市全体で見るのであれば、人口減少で1か所集約の必要があるだろうが、阿南市全体では、北部に偏っているが、2つも図書館がある素晴らしい状態である。図書館構想の資料4を見て、公民館の図書室、学校の図書室を充実させる事で偏在している問題を補えるのではないか？2つの図書館を中心に、移動図書館、公民館図書室、学校図書室を充実させる。要望に合わせて、図書館から本を取り寄せて、公民館にしながら、阿南市の資産である本、数十万冊にアクセスできる読書テラスネットワークを構築したら便利になると思う。集約よりも分散の方が広大な阿南市という土地柄、市民への本へのアクセスが良くなると思う。阿南市役所2Fにある図書カウンターというシステムを公民館にも拡大し本を借りらせるシステムがあれば市民ニーズを捉えることが出来る。 図書館は阿南市に2つある。古くなっているが、大規模修繕工事で延命する事でまだまだ使える可能性がある。図書館以外の計画はほかになかったのか？例えば大阪。公共施設を建てるのではなく緑化をする事で集客があり、地域活性化していると聞きます。例えば、音楽ホール。徳島市で建設計画だが、まだまだ建たない。阿南市は高速道路の延長で交通の便が良くなることも見据えて、2000人規模の音楽ホールの建設。毎週土日に有名アーティストがライブをしてくれたら、泊まり需要が高まる。飲食、観光、ホテル、交通、経済効果が上がる。有名アーティストが泊まったホテル、食べた飲食店がSNSでバズればアーティストファンの聖地巡礼需要も高まる。	今の計画で進んでいるのでこれ以上は引き返せないと思いますので、羽ノ浦図書館をリニューアルするにあたり、プチ保育園を作ってみてはと思います。子育て支援。「保育園落ちた日本死ね。」という呪いの言葉が流行語になったのが10年前。待機児童問題は解消されたと思いますが、次からの市民ニーズはプチ保育園だと思います。元図書館という施設を最大限に活用し、10万冊以上ある本が近くにあるプチ保育園。本と触れ合える保育園。保育内容…午前中だけ預ける、午後だけ預ける、月に数回お願いする、そんな保育園。子育てしていて、ちょっと見ていて欲しい瞬間があります。役場で手続きする、ママが病院に行く、美容室に行く、友達と食事に行く、子ども連れでは大変なそんな時、プチ保育園に保育予約をして、その日その時間を保育してもらおう。(料金はプチ保育園条例を作り決定)預けられた子ども達はママと離れて悲しい時間を過ごすのではなく、10万冊以上ある本と触れ合える、知的成長ができる時間。もしお気に入りの本があったら、借りて家でママと一緒に読書を楽しむ。次利用する時本を返す。本を借りられるようにするために図書カウンターを設置(あなん「読書テラス」ネットワークの1施設としてプチ保育園を入れる)子どもを預けたママ・パパも気になる本があればついでに借りて帰る。ママ・パパも知的成長ができる施設。羽ノ浦図書館リニューアル、プチ保育園。もちろん、お年寄りも利用可能にし、子ども達の声を聞きながら読書がしたい人は共有空間で読書をし、静かな空間で読書したい人は専用ラウンジを設置しそこで読書してもらおう、生涯学習施設として利用。 羽ノ浦図書館のリノベーション案…子育て施設、保育施設としてリノベーションする。旧図書館を利用するので、本が充実した子ども施設になり、話題性が高がる。子どもとコミュニケーションして、子どものニーズを捉えた司書さんは、子どもが興味ある本を本棚から持ってきて、子どもの目に付く所に本を置く。子どもの知的好奇心を本が高める。図書館法からも離れるので本の設置も自由になるのでニーズの高い本を近くに置くことが出来る。図書館法から離れるので、本を綺麗に保管する必要は無いので、子どもの知育の本として活用。ページが破れてしまってもモノを大事にする教育になる。本の整理整頓も知育となる。 羽ノ浦図書テラス欲しい設備…説明会では音の隔離の事を説明していたが、それを発展させて、ラジオや映像の収録空間を貸す部屋を作ってみてはどうか？借りる人がいない時は、音のゾーニング部屋として利用。時間を区切って借りたい人が出てきた場合は部屋を貸す。用途は、YouTubeやPodcastの収録、音楽のレコーディング、音楽やお芝居などの音の出る活動の練習の場、これからの時代は映像や音声を個人で発信する時代。時代のニーズを捉えた設備があると良い。	貸出カード15%が問題として、何%が適正と考えておりますか？ 老朽化対策が必要との事だが、予算はあるのか？実施するならいつごろか？ 新図書館計画の飲食設備投資について、計画では施設内でキッチンを作るように書かれているが、私は必要ないと思います。ムダです。そこにお金をかけずに、フリースペースの設置をお願いします。具体的には、施設内のフリースペースでパンや手作り雑貨の販売(マルシェスペース)建物外にはキッチンカーやテントの設置ができるスペース(露店営業)キッチンカー、露店が発電機を使うとCO2排出問題、騒音問題が発生しますので、専用電源コンセントの設置。(設置数は5台店舗が出せるなら5つ)ライブやダンスをするなら音響用に。なぜ必要ないかと申しますと、徳島市立図書館へ視察に行ってください。駅前であること、図書館があるのに、空きテナントばかりでガラガラ。阿南市も駅前に建設する計画の為、条件は一緒であると思います。設備を作っても使ってくれるのがイベントの時だけで稼働率が悪すぎる。そんな未来が見えます。
165	R7.11.29	74	羽ノ浦	70代以上	最初の出発点から間違っている！！説明もなく唐突に羽ノ浦図書館機能なくす所から入っている。建設費37億円はどこで議論して決まったのか、経緯を説明して欲しい。	羽ノ浦図書館の存続	「図書のまち阿南」構想についての説明が遅すぎる。R711/23実施
166	R7.11.29	75	羽ノ浦	70代以上	新しく建設する図書館は37億円もの費用をかけず、図書館だけにしたらよい。そして既存の立派な充実した那賀川図書館、羽ノ浦図書館とともに、3館の図書館がある「図書のまち阿南」にして下さい。テラスなんかにしないで下さい。	那賀川図書館は、庭も美しく、図書館に行くだけで落ち着いた気分になれる素晴らしい設計です。内容も充実しています。羽ノ浦図書館も同じです。両図書館をどんなことがあっても、図書館として今のままの状況で存続できるようお願い致します。	市の行政に携わる人たちは、市民のためになることを精一杯の努力をされることがお仕事です。今回の両図書館をお金のためにゆくゆくは廃館にする計画は市民のためになることかを深くお考えいただきたいです。

167	R7.11.29	76	羽ノ浦	70代以上	<p>①図書館の基本機能をどう強化していきたいのか全く、ビジョンが描かれていない。「構想」とは一般にはビジョンであるはずである。ビジョンはありたい姿であるから、図書館の現状をもっと「こうありたい」という未来の良き姿を描くものである。それには、図書館の目的、それに基づく基本機能(図書、資料の収集→索引・検索作成→保管・保存→貸出・支援→住民の声収集)のサイクルが、住民の文化や教育の向上に資するようありたい姿を描くものである。郷土資料の収集能力を強化し、それをスムーズに検索できるようにして、市民に提供できるような仕組みの構築や電子化の推進、読者の意向を尊重した相談機能等、やるべきことは一杯ある。それらをどのようにしてレベルアップしていき、住民の期待に応えるか、その道筋を示すの戦略は「構想」である。それなのに、那賀川・羽ノ浦の蔵書を2分の1に減らして、オープンスペースという空間を増やすということは、蔵書という基本機能を縮小する致命的な欠陥である。オープンスペースは付随機能にすぎず、基本機能が十分充たされている県立図書館のようなところにおいてはじめて取り組みが議論されることである。読書テラスという「図書のまち阿南構想」は、図書館の基本機能を強化するビジョンでは全くなく、進化どころか退化させるものである。</p> <p>②ネットワークというのは、それぞれの良さを活かす対等の分散型のことをいう。中央と支所は集中型であり、相容れない概念である。「中央」といえば「建物が大きい」というのは、電子化が進む今の時代に全く合わない時代錯誤である。図書館や既存の施設が保有する資料や図書をどのように活用するか、それがネットワークであり、大きな図書館をつくり、既存図書館を縮小するのはネットワークではない。縮小どころか、将来的には廃館につながる懸念が大きい。</p> <p>③「構想」と「基本設計」の順序が誤っている。構想の原案をもとに市民の意見を聞き、修正を加えて「構想」の合意を得て、それに基づく基本設計を開始する手順によらなければならない。「構想」が出たのは、9月議会の市長所信表明においてである。その時点においてはすでに「基本設計」が発注されていたのである。全く市民を馬鹿にしている。</p>	<p>①図書館は近隣地域だからこそ利用される特質をもっている。新図書館が富岡に出来ても人口の多い両町の大半は利用しないだろう。既存図書館の名称を読書テラスに変更したり、その実態を縮小すれば利用率は今よりもさらに低下し、いずれ施設の売却が目に見える。</p> <p>②人口が多い、また人口が増え続けている町、あるいは増えていなくても一定規模の町の図書館は、過疎地にあるような集約化が検討される図書館ではない。両町共に基本機能を充実することが望まれており、図書館法に拮づく運営が必須である。実際にどんな郷土資料が収集されているのか、雑然と置かれているだけでないのか、索引があり、利活用できるレベルなのか、と考えると未熟であり、強化しなければならない図書館である。</p> <p>③市町村合併時の約束を守ることは必須であり、信頼を崩せば自治も崩れる。図書館への住民の強い意志で那賀川も羽ノ浦も作られている。読書テラスは、一過性の快適さの提供空間に過ぎず、図書館に求めるようなニーズを満たすものではない上、後世へ継承する知の発展には結びつかない。図書館の基本機能を退化させるものである。合併協定を破ってまで遂行するようなものでは全くない。</p>	<p>①なぜ37億円もかかるのか、説明がなかった。教育長の所管範囲を超えているのだから、トップ自ら出席して住民の疑問に答える必要があった。また、担当レベルで「やります」とか「国と相談している」「要望する」とあたかも実現可能なように発言しているが、組織には職務権限があり、住民を幻惑する発言が行われている。それをなくすには、トップ自らが出席して応える以外に道はないのである。</p> <p>②富岡図書館の建て替えは身の丈に合った施設で十分だ。富岡図書館の建て替えなら、蔵書も最低限はあり、建物と備品・電子機器等で、数億円もあればできるはずだ。これこそ、ネットワークや献本の工夫で蔵書は補えるはずだ。阿南市は広域であり、地域にある図書館は必要だが、身の丈に合った図書館づくりで、どのようなネットワークをつくるかが重要である。大きな複合施設による集客機能は、図書館とは切り離して計画し、賛否を問うべきだ。</p> <p>③補助金・交付金第一の発想や計画は、本来為すべきことを誤らせる。お金がないのは25億円もの基金支出が原因である。そのことに目をつむり、補助金・交付金頼みの計画により、那賀川・羽ノ浦の両図書館を犠牲にするとうでもない構想である。お金がなければ貯金に努めるのが家庭経営も行政運営も同じである。命に係わる防災対策投資はやむを得ないが、必要最低限に抑えるべきである。本筋から離れ、資金調達から無理やり計画した公共施設で成功した例は、寡聞にして知らない。将来に禍根を残すだけである。</p> <p>④市の広報では、那賀川。羽ノ浦の両図書館の廃止、縮減のことに全く触れられていない。あたかも現状に影響がないように書かれている。これは住民へ虚偽説明したのと同様である。公務員は正しい情報を提供し、住民の意見を聞かねばならないのに、意思決定に係る重要な要素に全く触れていない。公務員としての姿勢・資質が問われている。</p> <p>⑤市民説明会は、市が計画し、周知するのが責任である。市民説明会があるのは、新聞チラシで知ったが、それは市の広報によるものではない。恐らく、市民からの突き上げでやむなく開催に至ったのだろう。これがなければ、真実は全く闇の中で、何の問題もない構想として手柄のように喧伝されたのだと思うと、情けなくて涙が出る。</p> <p>⑥市町村合併により市民の融和が進んでいたのに、この構想で旧阿南市の町民と那賀川・羽ノ浦町民との分断が進むことになる危険性を阿南市の幹部は考えていないのだろうか。市民から給料をもらっていることを思うべきだ。</p> <p>⑦図書館の運営に係わる教育委員会が、この構想を出し、推進していることを知り、貸出時の良き対応に好感をもっていただ私も失望し、阿南市の行政に対して一気に不信任感が増した。良心的な心を持つ職員は心の痛みを感じているだろう。</p>
168	R7.11.30	77	那賀川	70代以上	阿南駅前整備のために、充分機能している二つの図書館を廃止することは愚かな行為と 思います。「図書のまち阿南」の言葉に反します。	従来のまま存続を強く希望します。これまでの地域にあってこそこの図書館です。	
169	R7.11.30	78	羽ノ浦	60代		羽ノ浦町に図書館がありほんとうに良かったと思っております。本を読むのが楽しみです。予約させてもらえて、「用意出来ました」とお電話くださればすぐに行けますので助かっております。今後も羽ノ浦図書館を利用できますようお願い致します。	
170	R7.11.30	79	羽ノ浦	70代以上	図書館という場所を深く愛している者です。高校生の頃、徳島の城山の下にあった県立図書館、徳島公園の石垣のそばにあった市立図書館(といえは年が解るかと…)に入り浸る幸せを覚えて以来、県外で住むようになって、やがて転勤族で引越続きの子育て時代も、図書館はいつも私の一番多い外出先であり続けました。月日は流れ、夫の定年後にUターンし阿南市に現在住んでいます。普段は羽ノ浦図書館や那賀川図書館に出かけ、市役所内のロビーにある図書館もごくたまに覗いています。また、時々徳島県立や市立図書館に寄るのも楽しみです。それから月に1回ほど、県外の図書館に出かけます。図書館と本が好きの人が集まる定例会に出席しています。私は、県外在住時代に家庭文庫を開設し、県単位の連絡会に入っていました。そこで公共図書館のあり方を考え合うこと40年、重ねて学校図書館の充実を願うこと30年、大小さまざまな形の市民運動に関わり、仲間と共に根気よく県や市に要望を出し続けてきたものです。図書館は本と情報だけでなく、人との出会いの宝庫です。魅力的な職員は必ずいるし、利用者同士の面白い出会いは次第に広がります。さらには、中央で開かれる集まりに参加し見聞を深めることで、全国的につながる人の輪を感じられます。とこんなふうにあちらこちらの図書館と、そしていろんな人たちと出会ってきたおかげで、このたび、「図書のまち阿南」構想が目飛び込み、読むことができました。Q&Aにも目を通しました。が、「素晴らしいような枠組み」には思えるものの、では具体的にはどうなるのか、どんなものができるのか、あまり見えてこず、読み進めるものの、どこか置いてきぼりにされたような気持ちに包まれます。たとえば、学校図書館と(仮称)阿南中央図書館とのネットワークとありますが、学校側にも「図書館専任の人」が「常に」いなければ実現可能とはとても思えず、という現状など、はたまた、公共、なかでも市レベルの図書館は、「中央」と「分館」が呼応し支え合ってこそその「豊かな図書館活動」、だと私は思います。長年、いろんな土地のさまざまな図書館とお付き合いしてきた私が、阿南市民の一人として強く望むたったひとつのこと、それはどんな理由があっても「図書館」という文字をぜったいに手放さないでください、ということです。つまり、「図書館」システムから離れたら最後、そこはもう「図書館」ではなくなってしまうのだと思います。どうぞ、ご熟考をお願いいたします。		

171	R7.11.30	電-92	羽ノ浦	60代	<p>那賀川図書館・羽ノ浦図書館の“進化”と説明しているものの、「読書テラス」が図書館法上の図書館なのか、それとも別施設なのか明言を避けて、法的位置づけを曖昧にしたまま構想を示しているが、市民説明会での質疑応答からは、「読書テラス」は、図書館法上の図書館ではなくることが明らかとなったと理解している。</p> <p>那賀川・羽ノ浦両図書館が図書館法に基づかない「読書テラス」に移行すると、市民は本の貸出・返却ができなくなり、中央図書館（仮称）への移動が必要になるため、地域住民のアクセス負担が増大する。</p> <p>つまり、図書館法第2条では公衆に図書を提供し貸出・閲覧を義務づけているが、「読書テラス」は閲覧・くつろぎ中心の公共空間となり、図書を借りて帰ることができず、司書による参考相談や専門サービスが利用しにくくなる。例えば、子どものおはなし会や調べ学習は継続可能でも、貸出なしで本を持ち帰れず、学校・家庭の読書支援が弱体化、高齢者や障がい者にとっても同様で、図書館機能・サービスの低下した「読書テラス」となれば、日常利用が減少することは容易に想像がつく。</p> <p>これらを回避するために、要望の多い図書館機能はできるだけ残す努力をするというような趣旨の説明であったが、Q&A集にもある通り、「公共施設等適正管理事業債」の「集約化・複合化事業」を活用すると、その要件として、新しい施設が供用されてから、5年以内に、また、立地適正化計画に位置づけられている場合は10年以内に集約化・複合化の対象となった施設を「廃止」（機能を廃止）することが必要となり、両館の図書館機能を存続させると補助金要件に抵触する可能性がある。国・県との折衝で、図書館機能の一部を残すことは十分可能であるような説明であったが、それで国・県が了承したとしても、その後、会計検査の際には、図書館機能を廃止していないことは明らかで、返還を求められる可能性が非常に高いものと思われる。それほどのリスクを負って、付焼刃的に「図書のまち阿南」構想を急遽打ち出してなぜ強引に進めようとするのか理解できない。</p> <p>さらに、阿南駅周辺のまちづくりの一環というが、阿南駅周辺に位置しない那賀川・羽ノ浦両図書館が組み込まれていることも理解に苦しむ。</p> <p>公共施設適正化として、人口規模に応じた施設数を、というのなら、現に阿南図書館を閉館して2館になっているので、わざわざ大金を投じて中央図書館を建設する必要はないのではないか。「図書のまち阿南」構想で示されたネットワークが機能すれば、中央図書館を建設しなくとも、誰でもどこでも図書に触れる機会が得られる。</p> <p>これまで連続と続いてきた読書文化を、といいながら、補助金や地方債を使うことありきで進められているように見え、「図書のまち阿南」構想には、これまでの施策や計画との矛盾点が多く、まったく整合性が取れていない。説明会でも、論理破綻している説明や、質問の意図を汲まない回答が多く、「図書のまち阿南」構想が全く絵に描いた餅であることが実感されるばかりだった。</p>	<p>両館とも、図書館法に基づく「図書館」として存続させることを強く希望する。</p> <p>“進化”というのは、図書館機能を削減して新機能を付け加えることではなく、図書館機能をベースに、その時代に合った機能を付加していくことだと考える。図書館機能が一部しか残らないようなことになれば、“進化”ではなく“退化”である。</p>	<p>急ごしらえて「図書のまち阿南」構想が策定されたことは明らかで、何とかして市民をごまかそうとしているとしか思えない。もし以前からこの構想があれば、図書館整備計画に記載されているはず。</p> <p>年単位で中央図書館の建設が遅れるかもしれないが、那賀川・羽ノ浦両図書館を「図書館法に基づく図書館」として残すよう、現在の地方債申請から、那賀川・羽ノ浦両図書館をはずした申請・計画を立て直してもらいたい。</p> <p>更地となった阿南図書館跡地に、「阿南図書館」を建設する計画に変更してはいかがか。「基本計画」時代は、阿南市の財政にゆとりがあると思われていて、ワークショップでもいろいろな機能を盛り込んだ複合施設を夢見たが、説明会でどなたかおっしゃっていたが、財政が苦しいと分かっていたれば、そんな豪華な施設を望まなかった、と。</p> <p>「有利な」「安い」というのが前面に立って、市民生活が置き去りにされている。税金を使って、安かろう悪かろうの施策を進めるな、と言いたい。</p>
172	R7.11.30	電-93	羽ノ浦	50代		<p>意見提案書「図書のまち阿南」構想における那賀川図書館のあり方について</p> <p>1 ビジョン</p> <p>現代社会において、人間関係の希薄化が懸念されています。地域社会が持続的に成長・発展していくためには、物理的な「社会資本」に加え、「社会関係資本」と呼ばれる人と人とのつながりが極めて重要です。このつながりには、知識の共有や文化への理解が不可欠であり、私たちはこれまで以上に「学び」や「交流」を重視する必要があります。</p> <p>2 現状</p> <p>那賀川図書館には、これまで住民が培ってきた読書文化や歴史が存在します。この大切な文化や歴史を発展的に継承していく必要があります。本提案では、この観点から那賀川図書館のあり方について提案します。なお、一部は羽ノ浦図書館においても適用可能と考えます。</p> <p>3 残す機能と見直す機能</p> <p>読書機能については、従来の「静かな読書」に加え、読書を通じて人々が交流や対話を行う「賑やかな読書」への転換に挑戦します。その際、従来の静かな環境も維持できるよう、「賑わい空間」と「静寂空間」のゾーニング等を提案します。開架設備は既存のものを活用しつつ、私設文庫として書棚を区切り、「Aさんの本棚」のように個人がお勧めしたい本を一定期間紹介できる仕組みを導入します。通常は背表紙で並んでいる本を表紙が見えるように展示する工夫も行います。また、定期的にテーマを企画し、関連図書の紹介も行います。文庫に並べる本は、個人が読み終えた本を持ち寄るなどの「私設図書館スタイル」も想定しています。</p> <p>従来の図書館の貸し出しやレファレンスの機能については、中央図書館（仮称）からの貸し出し本受け取り場所として毎日の配送、ズーム等のオンラインを通したレファレンスサービスの提供を提案します。</p> <p>4 新規導入の機能</p> <p>阿南市の教育理念である「学び つながり 輝け 自分」を具現化するため、那賀川図書館を「学びたい人」「つながりたい人」が集うコミュニティ空間としてリデザインすることを提案します。</p> <p>(1)学びの機能</p> <p>かつて那賀川エリアに阿波公方の「栖龍閣」という学問所が存在した歴史を踏まえ、子どもから大人まで全世代がいつでも学べる現代の「テラコヤ」として位置づけます。多世代の学びの場とする一方で、子どもの学びの多様化に対応できるよう、学校図書室のサテライト機能や探究学習センターとしての機能を持たせます。また、既存の部屋やスペースを活用した講演・講義の実施や、自習コーナーに加えコワーキングスペースを整備することで、子どもから大人までがシームレスに学べる環境を創出します。</p>	<p>(2)つながるための交流機能</p> <p>交流機能の充実は、社会関係資本の醸成に直結します。これまでの読書に加え、利用者主体のワークショップや哲学カフェ等を開催し、対話や言論の空間を創出します。また、カフェスペースを設けて飲食を可能とし、市民による軽食の提供なども提案します。地域の方々が実践してきた読み聞かせ等の活動がさらに充実するよう、読書会の開催や読書サークルの育成も進めます。屋外においては、「阿波公方の苑」をアゴラ（広場）に見立て、本のマルシェやフリーマーケットを開催するなど、公共的で憩いのある空間として活用します。</p> <p>(3)文化機能</p> <p>公方文化の継承、読書文化の醸成に加え、書庫を活用して学校文化を保存する「学校文書館」としての活用も視野に入れます。芸術文化については、ピアノのミニコンサートや音楽ライブラリー等、これまでの那賀川図書館の取組や資源を有効活用します。また、那賀川町の有志による出島壁画などのアート活動がさらに展開されるよう、展示スペースでの美術の展覧会等も開催します。</p> <p>(4)まちづくり機能</p> <p>那賀川エリア全体のまちづくりを見据え、小中学校、こどもセンター、科学センター、歴史民俗資料館、新設される複合施設、道の駅等との連携・機能補完を図ります。特に、那賀川図書館を拠点として周辺一帯を歩きやすい「ウォークアブルエリア」とし、バスや鉄道等の公共交通機関との接続を改善します。こうした取組は、子どもや高齢者に優しく、他地域からの来訪者にとっても利用しやすい環境となり、将来的な那賀川エリアの魅力向上と関係人口の増加につながると考えます。</p> <p>5 運営・施設整備の方針</p> <p>以上の提案にあたっては図書館運営への市民参加を求めます。ただし、一過性のものではなく、永続的な施設運営とするためには専門的な職員配置が不可欠です。そこで、「学びの機能」を担保するためにも学校図書館司書の活用を提案します。</p> <p>また、空間デザインの統一性や財政面を考慮し、施設設備は可能な限り既存のままとし、その代替として施設内のサインデザインをリデザインすることで、ユニバーサルな空間デザインにすることを提案します。</p>

173	R7.11.30	電-94	羽ノ浦	50代	<p>現状計画の中央図書館として集約し市民の誰もが先進的で快適に図書出来る施設を建設することには賛成。</p> <p>ただ、本市の中央部に行くには、公共共通機関が脆弱・距離的問題がありやはり富岡周辺のみ之恩恵を与えるものとして捉えられてしまうことは事実と思う。</p> <p>阿南市の収税の還元、配分として人口比率や過去の合併経緯からも、羽ノ浦町および那賀川町に図書の貸し借り、読める施設があることは何ら不自然なことではなく、当然だと思う</p> <p>国からの補助を目的とするためだけに両図書館を廃止するとすれば、同地域の魅力も半減し、今後の若い世代も阿南市離れが加速するのは必至で、結果人口減により中央図書館の維持や市政にも影響を及ぼすことになる</p> <p>よって次項のように提案したい</p>	<p>中央図書館建設後、那賀川、羽ノ浦図書館は図書コーナーや図書室として存続。他自治体も参考にしたい</p> <p>例：北海道苫小牧市</p> <p>沼ノ端交流センター図書コーナー（6 km）</p> <p>苫小牧市沼ノ端コミュニティセンター図書コーナー（6 km）</p> <p>苫小牧市東開文化交流サロン図書室（7 km）</p> <p>苫小牧市勇弘公民館図書コーナー（10 km）</p> <p>苫小牧市住吉コミュニティセンター図書コーナー（12 km）</p> <p>苫小牧市移動図書館車「とまチョップ図書館号」（13 km）</p> <p>苫小牧市豊川コミュニティセンター図書コーナー（17 km）</p> <p>苫小牧市のだぞみコミュニティセンター図書コーナー（21 km）</p> <p>苫小牧市立中央図書館（13 km）を中心に近辺に図書コーナーや図書室が点在しており雪などで交通の便が不便でも本に触れられるように人口集中地域を中心に貸し借り可能でまたネット上で貸し借りの他、延長も可能となっているつまり中央図書館に行かずとも図書館の機能と同等の目的が果たせるのなら羽ノ浦、那賀川地域でも図書館がなくなることを享受できるのでと考える。逆に現状に対し中央図書館に行かないと出来ないことがあるのであればそれは図書館を残すべきだと考える具体的手法としては電子図書館制度の充実：苫小牧市の図書館では、周辺連携サービスとして、**電子図書館**を利用してオンラインで本を借りることができます。電子図書館は、苫小牧市に在住・在勤・在学の人などが利用でき、オンラインで予約・貸出が可能です。現在阿南市でも同制度はありますが、冊数が非常に少ない。雑誌・新聞など時事的なものはすべて電子図書館制度を利用して貸し借り可能とすれば、阿南中央図書館に行く必要がなくなり、現状と変わらなくなるネット環境を使用できない人はタブレットを貸しだすか専用PCを置いておくインターネット予約：貸出・延長制度の拡張ネット上で予約、延長可能(ただし1回のみ、他の予約者がいる場合は不可)など利便性をあげ、極力中央図書館に行かなくてもよい制度にする</p>	<p>補助金をもらうため、市政の財源を保つため、同じ納税者である羽ノ浦、那賀川地域の図書館を廃止となれば、それは切り捨てと考えてしまうのは当然の摂理。</p> <p>特に羽ノ浦については共栄病院、温水プールに続き図書館までとられたという気持ちは大きい。</p> <p>車でなら近いという認識は間違いで小、中、高校生の自転車しかない世代は市中央部の子供らとの格差をどう思うか。</p> <p>逆にすべての機能を羽ノ浦や那賀川に移転すると言われた場合に、市中央部の住民はどのような反応を示すのか聞いてみたい</p>
174	R7.11.30	電-95	那賀川	30代	<p>那賀川図書館が近くにあり、羽ノ浦図書館も利用できるとも恵まれた所で住んでいます。ちょっと子どもと遊びに行きたくても、近くの公園は整備がされていなくて安心して利用できない中、那賀川図書館に行けば芝生ひろばを走ったり、図書館で好きな絵本を見つけたりととてもありがたく利用しています。カード1枚で家族中の本を借りています。そんな中、図書館問題を耳に目にするようになり、あいまいな情報ながら那賀川図書館は数年後には今まで通りの利用ができなくなるように感じていました。</p> <p>ホームページで説明会の資料を見て「図書のまち阿南」構想を理解しようとしたのですが、結局どうなるのかどうしたいのかわからないです。那賀川に住んでいれば「図書のまち」を実感しています。中央図書館が開館したら、その周辺の人はさらにそこが「図書のまち」になるでしょう。中央図書館ができてまだまだ、近隣に図書館がない地域は尚広くあり、その地域の方のために地元公民館や学校がその役割を果たすのは当然かと思えます。なので「図書のまち阿南」は実現してほしいです。</p> <p>ただ、図書館でなく「読書テラス」と名称を変えて那賀川・羽ノ浦は図書館でなくなるとは、「図書のまち」は後退です。</p> <p>どうしてそうすることになるのか、明確に説明がほしいです。</p>	<p>今後も、今のまま機能するのがベストです。早い設置を待っている富岡近隣地区の方たちのためにも、阿南図書館の建設は必要ですし、早い建設を願います。しかし、阿南図書館が開館したら、那賀川・羽ノ浦の既存図書館は機能が残らないなんてことは、本末転倒です。阿南図書館が耐震不足で閉館する際には、阿南図書館は建て替えられ、今まで通り阿南市には3館の図書館ができるものだと当たり前前に思っていました。いつどのような経緯で方向転換されたのか、それに気づかなかったことが悔やまれます。</p> <p>「読書テラス」が決定なら、「読書テラス」という名称の複合施設内に縮小はやむを得ないでしょうが、「図書館」というスペースを残してください。今まで通り、本を選び、貸出返却ができ、リクエストにも対応してほしいです。</p> <p>インドアパークには魅力を感じません。むしろその場合の安全面や人的なサポートの有無が心配です。縮小し空きスペースができるなら、Wi-Fi環境を整えコワーキングスペースにしたり、中高校生など学生が無料で使用できるスペースを設けてください。（基本は図書館として）</p>	<p>市民説明会に参加し直接説明を聞いたり、どんな意見交換がされるのか関心はあったのですが、子ども連れで参加が可能かわからなかったですし、参加できる日程が2日しか設定されていなかったので難しかったです。</p> <p>地元の保育園や小中学校の参観日等に保護者向けに、中学生には中学校で説明を聞く時間を作ってほしかったです。（これからでも）保育園や学校と図書館の連携はないのでしょうか。自分の意志で図書館を利用する中高校生には直接説明が必要かと思います。「こどもまんなか社会」の実現のために、こどもの意見を聞き、こどもの視点に立った推進がいわれているのではないのでしょうか。今後、「図書のまち」を推進するためにこれから図書館を利用する若者にぜひ、正しい情報を知らせ、意見を聞いてほしいと思います。</p>
175	R7.11.30	電-96	那賀川	60代	<p>「図書のまち阿南」構想の中の、「あなん『読書テラス』ネットワーク」は、「読書テラス」という名称に変更されるのが新たな推進ということでしょうか。「新たな」と歓迎できないものがあります。3図書館を核にするのが一番バランスの取れたネットワークだといえないのでしょうか。有利な財源の確保と図書館の集約がセットであることは知っています。しかしまだ理解も納得もできません。地元書店は減少し、図書室は過去にはあったとしても魅力的な図書はなく貸借できず人もいない公民館図書室や図書館サポーターは配属されているが専任ではなく複数校を兼任の小中学校図書室と施設連携の「読書テラスネットワーク」と称し、核は阿南中央図書館(仮称)で、既存の那賀川・羽ノ浦図書館は図書館ではなく「読書テラス」となるネットワークはあまりに弱体で絵に描いた餅のように思います。現状から、公民館も科学センターも小中学校も図書施設とするにはかなりの人材と労力、財源が必要です。那賀川・羽ノ浦図書館を図書館として機能させて他施設の充実に力を入れることのほうが効率的で進化につながるかと思います。中央図書館1館だけで到底核の役割は果たせないのではないのでしょうか。那賀川・羽ノ浦のこれまでの実績を利用してこそ、カバーし合え、連携が図れると考えます。現状を見ず、施設を並べネットワークと称する「読書テラスネットワーク」というのは疑問です。市内には保育施設や幼稚園、児童館、児童クラブ、特別支援学校、老健施設、病院等もっとネットワーク化できる施設はあります。「図書のまち」にするには、中央館以外の地域館や分館機能のサービスが必須と考えます。</p>	<p>まだ老朽化施設とはいえず、現役で使用でき、利用者も多い両図書館を、新図書館建設のための有利な財源確保により集約化するというのは、何度聞いてもやはり受け入れが難しいです。施設が残るなら図書館だと思います。新図書館開館後は分館とされるのはしかたがないと受け止めていた時期から青天の霹靂の機能喪失の可能性には、現状の利用状況からあり得ないとは思えません。当然現状維持を求めているではなく、蔵書が減数されること、専任司書がいなくなることも理解して、図書館という名称が使用できなくても「図書館」のスペースがあり、そこでは現状のように整理された図書の貸借や相互貸借、レファレンスサービスを受けたいです。一部空きスペースができれば、市民サービスを念頭に民間委託や指定管理で維持することもできるはずです。地元の地域館への愛着は大きく、その機能をなくすことは住民の生活レベルが下がる要因になります。阿南市子どもの読書活動推進計画や、教育基本計画、阿南市子ども・子育て支援事業計画にも子どもの読書推進は大きな意味を持たせています。次代を担う今の子どもに身近に図書がある環境は必須です。これらを維持し積み重ねている地域からそれを排除しないでください。新図書館の建設は当然待たれますし必要です(市民会館跡地でなく、除却後の前図書館跡地への建て替えに変更はできないのではいしょね)新図書館開館までの数年を使って今から徐々に変更や検討ができるよう市民も入った準備室などを設置し、那賀川・羽ノ浦図書館も新図書館もスムーズに移行できる体制を整えてほしいです。</p>	<p>今後、構想の見直しや進捗の状況により市民に説明の場を設定してください。できれば学校現場、生徒や保護者に向けての説明が必要だと今回よく聞かれました。当然だと思います。</p>

176	R7.11.30	電-97	羽ノ浦	60代	<p>Q&Aに多々矛盾点が見受けられます。</p> <p>Q1既存図書館の“進化”として説明していますが、「読書テラス」が図書館法上の図書館なのか、それとも別施設なのか明確でなく、法的位置づけを曖昧にいたしました。那賀川・羽ノ浦両図書館が図書館法からはずれた「読書テラス」となってしまったのは、「図書のまち阿南」構想を具現化できません。法的整備について説明がなく、構想は空想段階です。</p> <p>Q2「阿南中央図書館（仮称）」建設が進む“このとき”と説明していますが、構想の核心が中央図書館の建設に依存しており、「なぜ今か」という市民ニーズや外的要因の説明がありません。「図書のまち阿南」構想を市民参加で進めるとしながらも、過去の計画との整合性が不明瞭で、方針転換の経緯の説明がありません。令和5年10月策定の「阿南市立新図書館基本計画」の趣旨を汲みながら、と書かれていますが、基本計画では、那賀川・羽ノ浦両図書館は、図書館として残す計画でしたので、整備計画では、その趣旨が汲めていません。また、整備計画（案）を成案にする際、パブリックコメントも実施せず、市民意見を聞いていません。</p> <p>Q3阿南図書館・市民会館を解体して床面積を縮減しつつ、那賀川・羽ノ浦は「建物を残して有効活用」としており、縮減・統合の整合性が取れておらず、縮減効果の根拠が不明です。「新行財政改革プラン」の「人口規模に応じた公共施設の再編・最適化」と整合を図るとし、阿南図書館・市民会館の解体による2300平方メートル縮減を挙げつつ、那賀川・羽ノ浦両館の建物存続と機能進化を強調していますが、公共施設等適正管理推進事業債（集約化・複合化事業）の要件は、新施設供用後5から10年以内に「対象機能の廃止」を求め、両館の図書館機能が対象となっており、現在の那賀川図書館及び羽ノ浦図書館は、地域住民がアクセスしやすい好立地にあるとしながら、両図書館の機能を廃止しなければならないため、機能進化と矛盾します。</p> <p>Q4インドアパーク等の導入を例示していますが、面積・安全基準・予算・人員体制が検討されておらず、「検討する」と繰り返すのみで、それが那賀川・羽ノ浦という既存施設内で可能かどうか（構造・予算・空間の制約）に関して言及がなく、実現性に疑義があります。また、「残す機能」「見直す機能」「導入する機能」が提示されていますが、具体的なサービス内容や市民の求める「図書館機能」維持との整合性が不十分で、貸し出しや司書配置の明確な保証がありません。</p> <p>Q5市民の皆様の声も聴きながら今後の新たなあり方についての検討を行うと書かれていますが、既に議会や整備計画で方向性が決定済みで、構想発表後に意見を聞く体裁となっており、住民説明タイミングの遅れについて認識不足です。今般の市民説明会で、今年度末までに方向性を決める、これまで図書館を利用したことがない方の意見もうかがいたいとの説明がありましたが、今後の市民説明会の予定がなく、本当に市民の意見を聞く気があるのか疑問です。</p> <p>Q6公民連携推進を掲げ公募型サウンディング実施を挙げつつ、「引き続き対話」「先行事例研究」と曖昧で、民間投資引き出しや那賀川・羽ノ浦の司書配置（常勤・兼務・連携検討）が財政健全化にどう寄与するかの定量目標がなく、財政効果や地域貢献の説明がありません。</p> <p>Q7地元書店・学校・公民館その他の協働を挙げていますが、実施主体・財源・責任分担が不明確で、連携の実現可能性やサービス内容の詳細が不明であり、ネットワーク整備が単なる理念にとどまっており、いわゆる「絵に描いた餅」状態です。</p> <p>Q8「レファレンス可能な仕組みを整備」とありますが、通信設備・著作権処理・学校現場の負担などの現実的課題に触れていません。学校との連携や子どもの読書習慣確立のビジョンは示していますが、具体的な施策や評価方法が曖昧です。那賀川・羽ノ浦両図書館の機能を廃止した場合、阿南市子どもの読書活動推進計画（第三次推進計画）および第4期阿南市教育振興基本計画（令和7年3月）と整合性が取れません。</p> <p>Q9「賑わい創出」「交流拠点」と抽象的な表現が多く、まちづくり計画上の位置づけ（ゾーニング・交通動線・景観協議結果）が不明であり、新図書館がまちの賑わいにつながるとしていますが、地域住民の実際の利用や経済効果に関する定量的な説明が不足しています。</p> <p>Q10図書館機能・防災機能・脱炭素対策・子育て・学習等を盛り込みすぎで、機能集中による運営負担や人員確保の整合性に懸念があり、避難所機能や省エネ基準の実現方法や維持費の見通しが明確ではありません。</p>	図書館法に基づく「図書館」として残すべきだと考えます。	
177	R7.11.30	電-98	羽ノ浦	60代	<p>Q&Aには矛盾点が多々あります。</p> <p>Q11蔵書数を30万冊から26万冊、床面積を4000平方メートルから3500平方メートルと下方修正する理由を、「人口減少・施設管理勘案」と抽象的に述べ、全国事例検討を根拠に挙げていますが、具体的な数値根拠やサービス水準維持策を示されておらず、需要予測・利用統計など実証的裏づけがありません。</p> <p>Q12利便性向上を謳いながらも具体策がありません。中央図書館と読書テラスの蔵書・貸出・レファレンス分担が定義されておらず、具体的な館別蔵書配分、貸出業務、専門サービス（例：調査相談、レファレンス業務など）の役割分担が曖昧です。どの機能を中央館が持ち、どの機能を各読書テラスが担うかで利用者利便性に大きく影響するため、ここが定義されていないことには整合性が取れません。</p> <p>Q13排水問題を「抜本的に解決」と言いつつ、根本治水には触れず、で、周辺の排水対策は敷地内貯留槽設置など施設内での対応といった限定的対策のみで、地域全体の抜本的対策や長期的な効果説明が不足しており矛盾しています。</p> <p>Q14 Q13と内容が重複しており、二問で同趣旨を重ね、別質問としての新情報がありません。</p> <p>Q15解体費含むとしていますが、建設費・設計費・備品費など内訳が不明でコスト管理の透明性に欠けます。財源を国の補助金や地方債に依存していますが、那賀川・羽ノ浦両図書館存続が補助金要件に抵触する可能性があり、財源確保に無理・矛盾があります。。</p> <p>Q16補助金＋交付税で27億円とする根拠の算定式が明記されず、「最大で」等の曖昧な表現となっています。</p> <p>Q17「廃止」は、集約化・複合化の対象となった機能を廃止することを意味しており、施設そのものを転用することや、民間に売却することなどを禁止するものではないとの説明は、図書館を閉館するののかとの問いに明確に答えていません。一般的・常識的に考えると、図書館施設の機能は図書館機能であり、機能を廃止するとは図書館機能を廃止するということだと考えられます。閉館しないとすれば、図書館機能を廃止した図書館施設を開館することになります。図書館は閉館、図書館施設は図書館とは別の施設として転用する、あるいは、図書館を閉館しないとすれば、民間に売却することになります。</p> <p>Q18「財源確保と進化は両立できる」と述べていますが、進化（読書テラス化）を可能にする法的枠組みや財源出所を示さず、理念が先行しています。公共施設の現況や実際の使用状況、人件費や光熱費などの要しているコスト、利用者の実際のお声をお伺いするなど、と書かれていますが、実際の使用状況については、那賀川・羽ノ浦両図書館それぞれ館別の使用状況やコストが把握できていないのか、どこにも示されていません。また、利用者の実際の声を聞く仕組みが整っていません。</p> <p>Q19償活用を断言せず“予定”とし、確定的意思が見えず、市としての財政リスク分析が欠落しています。また、事業債や補助金に頼る一方、両館存続による維持費増加への対応が明確でなく、財政健全化に矛盾があるのではないかと懸念されます。「有利な」と強調するばかりで、財政的には有利かもわかりませんが、市民生活の利便性においては「不利な」要件があることが述べられておらず、恣意的な意図が感じられます。</p> <p>Q20一室で複数プロジェクトを担う体制を述べるが、人員・予算・専門性確保の裏付けがなく、政策統合の実行性に疑問が残ります。市民説明会でも意見が出たとおり、2館の図書館館長と図書のまち推進室長の3役を事務方の1名が兼ねる体制は、図書館や読書推進を軽く見てないがしろにしているといわれても仕方のない状況だと思います。さらに、阿南駅周辺に存する公共施設や公共用地を最大限活用することや、周辺の商業施設や公共交通の利便性を向上すると書かれていますが、阿南駅とかけ離れた那賀川・羽ノ浦両図書館が阿南駅周辺の計画に盛り込まれていることについての説明がありません。</p>	図書館法に基づく「図書館」として存続させるべきです。	

178	R7.11.30	電-99	羽ノ浦	60代	<p>Q&Aには矛盾点が多々あります。</p> <p>Q21市民の皆様の声をしっかり反映しながら、「那賀川読書テラス(仮称)」及び「羽ノ浦読書テラス(仮称)」という「新たな公共空間」として、進化を図ってまいりたいと書かれてはいますが、図書館ではなくなるのか、という問いに明確に答えていません。「『那賀川読書テラス(仮称)』及び『羽ノ浦読書テラス(仮称)』という」と、「『新たな公共空間』として、進化を図ってまいりたい」との間に、「図書館法や図書館条例から外れた」の文言が入るものと推察されますが、明言されていません。</p> <p>Q22再編工程を問われているのに、説明会開催予定を記載し、具体的工程(設計・予算・スケジュール)が示されていません。現在、那賀川・羽ノ浦図書館および市役所内の図書館カウンターとがネットワークを形成して一体的に運営されているにもかかわらず、新たなネットワークの枠組みを提示されていますが、具体的な仕組みが全く説明されていません。また、阿南・那賀川・羽ノ浦ではすでに既存のネットワーク体制を持って周辺施設へのボランティア派遣や図書の貸出が行われています。新たに再編計画を考案するのではなく、その枠組みを生かした計画とするべきです。</p> <p>Q23利便性向上(新機能導入)とコスト最小化を同時に掲げていますが、財政・人員の試算もなく、具体的な方策が例示すらされていません。</p> <p>Q24司書・事務職を可能な限り中央図書館に集中、と明言しており、那賀川・羽ノ浦両図書館での常駐司書削減が前提となっていますが、具体的な配置数、兼務比率、公民連携導入水準などが全く示されておらず、現実性・収まりどころの見通しが不明瞭です。司書さんは、単なる図書の貸出係員ではありません。図書や雑誌、CDなどの資料を選定し、購入、分類、目録作成、整理、保存を行うなど、資料を管理し、利用者へのサービスとして、資料の貸出・返却、情報検索のサポート、レファレンスサービス(調査の支援)、読書相談、館内利用案内を行うとともに、読書活動を推進するためのイベント(読み聞かせ、ブックトークなど)の企画・運営、展示会の実施や広報活動も行い、子どもや高齢者、障がいのある人へのサービス、郷土資料の収集・管理、学校図書館との連携、ボランティア活動の補助など、様々な専門的活動を行っています。司書さんあつての図書館です。司書・事務職を可能な限り中央館に集中し、那賀川・羽ノ浦両図書館への司書さんの配置を限定的にするというスタンスは、中央図書館では市民の生涯学習に資する高度なサービスを提供するが、那賀川・羽ノ浦両図書館では、市民の生涯学習に資する高度なサービスは限定的にしか提供しませんということを意味します。</p> <p>Q25質問の答えになっていません。図書館を残すつもりがあるかないか、単純な2者択一問題です。図書館として残すつもりがないので、こういう答えになるのだと考えられます。</p>	<p>図書館法に基づく「図書館」として存続させることを強く希望いたします。</p> <p>そのうえで、時代遅れとなった機能を見直したり、新たな機能を追加するなど、検討をする必要はあると思います。</p> <p>新たな機能や見直す機能は、「図書館」というしっかりとした土台があつてはじめて機能するものであり、基礎・土台がしっかり整っていない上にいくら機能を考案しても、機能が果たせるとは思えません。</p>	<p>結局、今のままでは、那賀川・羽ノ浦両図書館は、「図書館」として残すことはできないということですね。</p> <p>計画を再考してください。</p> <p>阿南駅周辺のまちづくりに那賀川・羽ノ浦両図書館は関係ないでしょう。</p> <p>急仕立てで構想を作ったのかと思われますが、これまでの施策、条例、計画等々と整合性が取れていなさすぎます。</p>
179	R7.11.30	電-100	羽ノ浦	70代以上	<p>●阿南市の3図書館は並列的に残すべきである</p> <p>構想は、阿南図書館を多目的施設の中に置き、これを核とした単一図書館にし、あとの2図書館は「テラス」として開架図書を撤廃する案に見える。</p> <p>それは表原市長が推進していた「コンパクトシティ構想」の一環になっている気がする。だが、阿南市はコンパクトシティがふさわしい地域であろうか？</p> <p>これについても異議があるが、長くなるのでここでは省く。ただ阿南中央図書館として単独図書館にすることがコンパクトシティにつながるとは思えない。</p> <p>第一に、那賀川・羽ノ浦図書館はそれなりの長い歴史があり、地域の数少ない文化施設としての機能を担ってきた。</p> <p>第二に、現行の地域バスを増便しても新図書館にまで来る住民が多くなるとは思えない。</p> <p>第三に、二町を含めた市民が現在地から阿南市中心部に移住することも考えられない。なぜなら阿南市全体は人口減が進んでいるが、羽ノ浦などでは人口増であり地価も高い。</p> <p>阿南市は、いたずらに中心部への集中などを構想すべきではなく、核としての小さな拠点間のネットワークを考えるべきではないか。</p>	<p>●「読書テラス」構想への疑問</p> <p>・説明があいまいで、明確なイメージがつかみにくい。現状の図書館とどう違うのかについて書かれていない。</p> <p>こんな形でのQ&AはQ&Aになっていない。市民側からの質問ではなく、「構想を通したい側」からのごまかしに近い。</p> <p>・開架図書を残さない形式は図書館とは言えない。もしそうなら「二つの図書館は消える」と明確に書くべきである。</p> <p>それを書かないのは、「反対されることが予想されるためごまかしておこう」という意図でしかない。</p> <p>もちろん、「嘘をついているわけではない」という言い訳はできるかもしれない。</p> <p>しかし、地域住民に対して「一番肝心なことをごまかす」態度は、結局は市役所への「不信任」を作るもとである。</p> <p>わたしは、地域の協議会の人々が「合併したのは間違いだった」という声をしばしば聞いた。</p> <p>阿南市との合併は、住民投票で僅差の末の結果だった。</p> <p>今、両町住民に「図書館をつぶして読書テラスにするのは賛成か」という投票を呼びかければどういう結果になるか。</p>	<p>●たかが図書館されど図書館</p> <p>市政において重要なことは「立派な建物を作ること」ではない。将来に「禍根を残さない」ことだと思われる。</p> <p>何年か先に、「読書テラスなんていう言葉にだまされた。ごまかされた」と、多くの住民が嘆くのではないか。</p> <p>公務員は無謬であればいいわけではない。</p> <p>阿南市が一つの有機体とすれば、市役所組織は骨組みである。骨組みが「ここはごまかした方が通りやすい」などと考えれば、血や肉はついていくのが嫌になる。市政が旗を振って活性化させようとしても白々しい眼で見られるようになる。</p> <p>ことにあたっての態度は、言いにくいこともはっきり言って問いかけることだ。</p>
180	R7.11.30	電-101	羽ノ浦	60代	<p>「図書のまち阿南」構想はご立派な構想ですが、那賀川・羽ノ浦両図書館を廃止し、読書テラスに変更することは、「図書のまち阿南」構想とは逆の発想だと感じます。</p> <p>国や県を欺いてまで、しかも市民に借金(地方債)を背負わしてまでやることですか。</p> <p>この度の顛末を他県の図書館事情に詳しい方に相談したら、今回の騒動が国に知られたら、「有利な」地方債が使えなくなって、図書館(中央図書館)が建たなくなるけど、それでもいいんですか、というのは脅迫ですね、と言われました。</p> <p>このご立派な構想の整備にどれくらい資金がかかると試算しているのですか？</p> <p>補助率90%をもって「有利な」と表現しているものと思われますが、補助率の多寡ではなく、実際にかかる費用を試算してください。阿南図書館を単館として整備する場合、それでも使える補助金もあることはご存じのはずです。図書館の建設費用が抑えられれば、地方債を発行しなくても済むかも知れませんよね。そのあたりの説明が全くないのはどうしてですか？</p> <p>「廃止」は、建物の廃止ではなく「機能の廃止」と説明されていますが、「図書館の廃止」との違いがわかりません。廃止する機能とは、図書館機能のことではないのですか？</p>	<p>両館とも、図書館法に基づく「図書館」として存続させることを強く要望します。</p>	<p>今回寄せられた意見は、すべて公表してください。</p>

181	R7.11.30	電-102	那賀川	60代	<p>広報「あなん」に掲載された1ページだけの説明では、目的は何か？具体的な構想が全く理解できません。そもそも現在の市役所カウンターや那賀川図書館、羽ノ浦図書館における司書を含む職員さんの日常的な貸し出しやレファレンスなど、子どもから高齢者へのサービスや移動図書館車の利用状況をどのように分析して、これからの新図書館像を描いているのでしょうか？市民に分かりやすく説明してください。内容の伴わないキャッチフレーズだけでは市民は納得できないでしょう。</p>	<p>両館には、それぞれ歴史があります。元町民の思いが結実して同時期に建設され開館してから30余年にわたり地域住民に支えられて運営されてきました。特に那賀川図書館は開館当初からさまざまなボランティアによって支えられ今日まできています。小川の流れる前庭は自慢の庭です。草抜きや清掃ボランティアによって美しく整備されています。(今夏の暑い日に職員さんが芝刈りに汗を流しておられたこともありました)薔薇やアジサイの植栽が美しく玄関まわりを彩ってくれています。館内のグランドピアノの演奏もボランティアによるものです。主に中・高校生の皆さんが毎土曜日の開館時間に合わせて演奏してくださっています。おはなしコーナーでは開館している毎日曜日11時からボランティアによる『おはなし会』が開催されます。絵本の読み聞かせや紙芝居だけでなくエプロンシアター、わらべうた、手遊び等を0歳の赤ちゃんから小学生の、そして保護者の大人も楽しめるよう工夫されています。工作や折り紙も人気のプログラムです。おはなしボランティア数名が交代で出向いて開催しています。このような唯一無二のボランティア活動が30余年続いている事は地域の誇りです。これを無くして一から作り直すことは考えられません。豊かな市民活動であり地域の財産ともいうべきボランティア活動を今後も生かしていってほしいものです。そして何より、利用者が多いので、人口当たりの貸し出し冊数は県下一ではないでしょうか。週末には家族連れで来館して家族それぞれが欲する本や雑誌を借りて帰る姿を多く見かけます。幼稚園や小学校、中学校が休みとなる土曜日に、彼らの居場所となっている事は子育て家庭にとっては有難いことですね。このように貸し出し冊数の多い、とてもよく利用されている既存の図書館を廃止することには反対です。廃館を撤回してください。</p>	<p>・建設予定の新図書館について建設規模について一度立ち止まり、再考してください。急激な少子高齢化が進んでいる現在では、大きな施設は将来的に維持できないことも考えられます。公共施設の役割は安心して安全な環境で過ごすことが出来るのが一番と思います。高齢者が日常的に利用しやすい居住地域にあることが理想です。また情報化社会といわれても紙媒体がなくなるとは思いません。ページをめくる行為や紙に書かれた文字を追い本を読む楽しさがなくなることはないでしょう。那賀川図書館と羽ノ浦図書館は図書機能を持つ施設として存続させて分館として整備をお願いします。 ・今の図書館職員数に対して非正規職員の割合が高いことが懸念されます。意欲が高く、責任をもって長く働き続けられる環境になっているでしょうか？司書の資格をもつ正規職員の採用を望みます。同時にカウンターでの貸し出しやレファレンスサービスを民間委託することに反対します。図書館職員は『日常的に利用者に接しているからこそ地域住民の生活や文化を知ることができ、するとその人達の欲する資料や図書がわかるので図書の選択ができるようになる』と、ある本に書かれています。カウンター業務を民間委託してしまうと地域住民の生活や文化を知ることから職員は遠ざかってしまいます。それでは地域に必要なとされる図書の選定はできません。</p>
182	R7.11.30	電-103	不明	不明	<p>「図書のまち阿南」構想のコンセプトは大変すばらしいものと思います。しかし、まったく実情にそぐわない夢のような構想で、市の誠実さが感じられません。本当にやる気があるのなら、いくらかけて、いつまでに実現するつもりなのか、ロードマップを示してください。</p>	<p>両館とも、図書館法に基づく「図書館」として存続させることを強く要望します。ただし、今後、時代の変遷や建物の耐用年数経過により、その時々に合わせて施設や機能の見直しは必要だと思っています。</p>	<p>阿南図書館の建て替えが発端だと思います。除却した跡地に、図書館を建て替えればよいと思います。人口規模に見合った、というのなら、南部の人口はほとんどん減少しているのですから、元の阿南図書館を縮小して建て替えるのが人口規模(減少)に見合った図書館建設だと思っています。世帯数が増加し、人口減少が進まない地域の図書館を廃止するのは、人口規模に見合ったというのに反します。 付加されたQ&Aや市民説明会での説明には、矛盾点や疑問点だらけで、この素晴らしい構想を理解されていないのではないかと、あるいは、この構想が単なる夢物語で、実現する気はさらさらないと思っているのではないかと強く感じます。 今回の意見募集で集まった意見はすべて公表してください。</p>
183	R7.11.30	電-104	羽ノ浦	60代	<p>徳島市図書館では、「読書記録帳」という、銀行の通帳のように借りた本の記録をつけられるものを導入し、読書履歴を記録して読書意欲の向上につなげています。 小松島市では、市内小中学校・幼稚園へ図書資料を届る配本サービス以外に、本を読みたいけれど図書館に行く時間がないという方のために配本サービスが行われています。これは、2か月に1回、20冊程度、または毎月12冊程度、小説・趣味・料理・健康・育児・絵本や児童書の中から職員が選んで施設や職場、個人宅へ届けてくれるサービスです。配本当日に留守の場合でも、事前に本の置き場所を決めておけば利用できるということです。 先日訪れた引田図書室では、水槽に紙で作った魚を泳がせて、釣り堀で釣りをするように魚を釣り上げ、その魚に書いてある番号の紙袋(中に絵本や図書が入っている)を貸出する、というユニークな(ミステリアスな?)貸し出しを行っていました。 羽ノ浦図書館・那賀川図書館から中央図書館へ蔵書が移管されてある程度書架が空くと予想されますが、空いた書架を排除するのではなく、書架が空いた分、図書を面出しして、おすすめの図書を陳列してほしい。できればポップをつけて、そのポップを利用者が考えたり、面出した図書の貸出回数やポップの出来栄えを競ったり、図書館へ足を運びたくなる仕掛けを考えてほしい。また、そのような仕掛けのアイデア募集をするなど、施設を改修しなくてもできることがたくさんあると思います。 人が足を運ぶのは、施設の利便性はもちろんですが、改修して新たな機能が導入されても、はじめのうちは物珍しきで人が集まるかもしれませんが、いつも何か新たな発見があること、それも、わくわくするような、胸躍る発見があることに尽きると 생각합니다。ハード面での整備ではなく、お金のかからない、ソフト面での仕掛けが望まれると思います。 つぎの、那賀川・羽ノ浦図書館の今後の在り方にもかかわってきますが、中央図書館との連携として、今と同じように3館で本の貸出・返却ができる体制を維持してもらいたいと思います。那賀川・羽ノ浦図書館が読書テラスとなって、今の市役所にある図書館カウンターのように、本を借りるには前もって予約しておかなければならない、というのでは、サービスの低下を意味し、「進化」とは言えません。読書テラスネットワークとは、中央図書館の蔵書はICタグで管理することなので、那賀川・羽ノ浦両図書館の蔵書も順次ICタグへ切り替えるのはもちろんのこと、ネットワークに書かれているそれぞれの施設が所有する書籍のすべてにICタグを付して、市内全域にわたる施設の蔵書を一元管理し、どこでも貸出・返却ができるようになる、と考えるのが一般的に妥当な考えだと思います。 現在、ほぼすべての公民館図書室は惨憺たる状況ですが、司書さんの介入により、利用者が増えた図書室があると伺いました。本当にネットワークを整備しようとするなら、先のICタグに加え、ネットワークに書かれているすべての施設へ司書さんの導入が必要となってきますが、ICタグしかり、司書さんの配置しかり、まったく実現の可能性が見えません。</p>	<p>両館とも、図書館法に基づく「図書館」として存続させてください。 「図書のまち阿南」構想も、那賀川・羽ノ浦両図書館が、「図書館」として機能してこそです。両図書館をないがしろにして、図書のまちも何もあったものではありません。条例や規則の整備はもちろんですが、「図書館法に基づく」というところは「図書館」の根幹にかかわってるところですから、ここは譲れません。 その上で、時代の要請に基づき、Wi-Fiの整備はぜひとも必要です。 また、中央図書館の蔵書はICタグで管理するということなので、那賀川・羽ノ浦両図書館の蔵書も順次ICタグへ切り替えて、今と同じように、3館でどこでも本の貸出・返却が即日できる体制を維持してください。現状より後退させないでください。 加えて、司書さんのいない図書館では、図書館の機能不全です。那賀川・羽ノ浦図書館に毎日の司書さんの常駐を強く望みます。</p>	<p>阿南のおはなしボランティアさんは、中央図書館が複合施設となることで、複数のボランティア団体が関わることになり、ボランティアさんが使える部屋が用意されるようですが、共同で利用することになりそうだということに、非常に懸念を抱いていると伺いました。 おはなしボランティア専用の部屋が必要です。ボランティア所有の大型絵本やエプロンシアター、パネルシアター、ペープサートに加え、パネルシアターのパネルや設置台、紙芝居のステージや時々イベントおはなし会の衣装などなど、さまざまな備品を置いておく必要があります。ボランティアさんのお部屋が共同利用では、安心して備品を置いておくことができません。 市民説明会で、簡単に、週何日かの派遣とか説明されていましたが、まったく図書館や司書さんの役割を理解していない発言です。しっかり図書館を利用してみてください。そして、図書館や司書さんについてもっと見識を深めてください。 現在、図書のまち推進室に複数の司書さんが兼務となっていますが、1名を専任として、司書さんを本来の司書業務にあたらせてください。図書のまち推進と言いながら、図書館サービスが低下しています。また、まちづくりの一環として、本気で図書のまちを推進していくのであれば、プロジェクトチームを作るとか専任職員を増やすなどするべきだと思います。兼任の職員が片手間に名前だけ置いて那賀川・羽ノ浦図書館が廃止されるのはいたたまれません。専任の職員が、那賀川・羽ノ浦図書館を「図書館」として残す手立てをしっかりと考えてください。 さいごに、今回の意見募集で集まった意見はすべて公開してください。</p>

184	R7.11.30	80	羽ノ浦	60代	<p>図書のまち 阿南 構想における羽ノ浦 中川両地区の図書環境において望むこと。現在の阿南市役所内の図書カウンターの機能を羽ノ浦 那賀川 旧図書館に置く。@名称はなんでもよい。すなわち1本の貸し出しができること。また利用者が将来の阿南図書館に電子にて予約したものの受け取りができること。雑誌 新聞の閲覧コーナーに加え、新刊書を中心に場所の許す限り置く。どのような形になっても 図書の町あなんを打ち出す以上上記は最低の条件である、構想にある民間書店を連携しての 図書の町あなんということであれば今年10月の大林地区の平惣書店の撤退をもって川北地区での図書環境は大変きびしくなった。同じ納税者として 川北の住民のみがこのように新刊に触れることも容易ではない環境になるのは納得できません。20年後には羽ノ浦 那賀川で阿南市の人口が50%を「超えるといわれているのにサービスが不公平になると思うこれだけ物価が高くなると 新刊書などは 実質本屋では買えない。(1冊)1800～2000円越えに突入している。自動車を持っている大人は 自動車で仮にいけば最低がまんできるが小中学生はどうするのか 借りたい子供は 阿南まで自転車で30分漕いで借りに行きなさいというのか。貸す機能がないと始まらないことがわかっていただけますか。阿南市策定構想の中のブラウジング機能についてブラウジング機能(くつろぎの空間)としていますがブラウジングの意味を取り違えているように心得ます。ブラウジングとは ネットサーフィンのように 本を試し読み/拾い読みしてみるとの意ある程度新刊をおいてくれないと 新聞雑誌だけでは十分でない。本との出会いの場所、とても訳すのが ブラウジングの本当の意味であろうかと。新刊は可能な限り置き、また返してきた本は最低一日は置いておいて借りれるようにしていただきたい。要は 可能な限りで結構ですが ブラウジング(本との出会いの場所)を作っていただきたいのです。(阿南図書カウンターはわずかですがその機能を残しています)川北の小中学生 の未来がかかっています。「真剣にご対処をお願いします。職員の方もお仕事でやっているのはわかりますので 運用のほうでうまくやっていただきたい。お金がたりなければ 企業にスポンサーになっていただく方法もありますよ。(led照明の製造会社とか)(徳島のはこらいふ図書館なども参考に) 対決より解決をお願いしたい。</p>
-----	----------	----	-----	-----	---